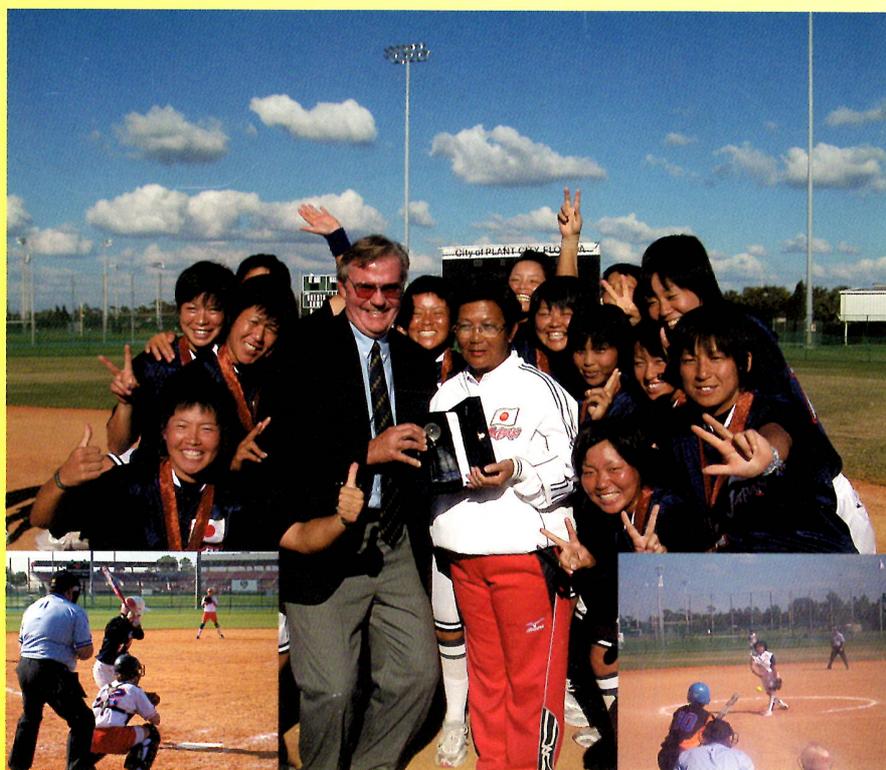


全日本大学ソフトボール連盟機関誌

ウインドミル

第8号



全日本大学ソフトボール連盟

ダブルウォールのパワー全開。

最適なたわみと強度を両立した、新・二重管構造で撃ち砕け。
内管にガラス繊維強化プラスチックを搭載することで、壁面のたわみを損なうことなく強度をアップ。しかも、テーパーからグリップ部にかけての滑らかなラインが、飛距離を伸ばすための理想的なしなりを生み出した。飛びの進化が大舞台で真価を発揮する、新・二重管構造「DWスプリング」マニにデビュー。

トリプル破壊力がさらに増大。

最適なしなりが備わった、新・三層構造で飛びを磨け。
打球部をたわませて高反発力を得るために、内管素材に高強度のガラス繊維強化プラスチックを採用。さらに本体カーボン繊維の巻き角度を緻密に計算・改良することで、飛距離アップに求められる最適なしなり量を確認した。飛びのメカニズムがさらに磨かれた、新・三層構造「テックファイア」ついに誕生。

DW-SPRING

〈ミズノプロ〉DWスプリング ¥31,500 (本体¥30,000) **NEW**

2TO-71240 (84cm・平均730g) ●ホワイト(01) ●ホトル型 ●ミドルバランス
2TO-71250 (85cm・平均770g) ●ホワイト(01) ●ホトル型 ●トップバランス
2TO-71340 (84cm・平均730g) ●ブラック(09) ●スタンダード型 ●ミドルバランス
●3号、革・ゴムボール用 ●φ57mm

〈ミズノプロ〉DWスプリング ¥29,400 (本体¥28,000) **NEW**

2TO-71040 (84cm・平均650g) ●ホワイト(01) ●ミドルバランス
●3号、ゴムボール用 ●φ57mm

TECHFIRE

〈ミズノプロ〉テックファイア ¥26,250 (本体¥25,000) **NEW**

2TP-50650 (85cm・平均780g) ●ブラック(09) ●トップバランス
2TP-50660 (86cm・平均800g) ●ブラック(09) ●トップバランス
2TP-50940 (84cm・平均770g) ●レッド(62) ●ミドルバランス
●3号、革・ゴムボール用 ●φ57mm

〈ミズノプロ〉テックファイア ¥24,150 (本体¥23,000) **NEW**

2TP-50840 (84cm・平均720g) ●ホワイト(01) ●ミドルバランス
●3号、ゴムボール用 ●φ57mm

●SC14001審査登録(国内全事業所) ●記載価格は、すべてメーカー希望小売価格です。
記載価格は消費税込みの価格です。()内は消費税抜き本体価格です。

●「ミズノお客様相談センター」 ☎ 0120-320-799 東京 FAX.(03)3233-7217 大阪 FAX.(06)6614-8463

www.mizunoballpark.com



全日本大学ソフトボール連盟

ごあいさつ



全日本大学ソフトボール連盟会長
大内敬哉

学連機関誌「ウインドミル」第8号の刊行にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

さて、本年のインカレ(第39回)は、静岡県ソフトボール協会のご尽力により、富士宮市で開催され、参加された選手の皆さんには思い出に残る大会になったのではないのでしょうか。メイン会場となった静岡県ソフトボール場は、1998年の第9回世界女子ソフトボール選手権大会が開催され、我が国では最高の設備を要したソフトボール専用球場ではないかと思えます。ただ降雨の多いのが難点であり、女子の決勝が実施できず、2校優勝となったのが心残りに存じます。

また、本年は、アメリカ合衆国のフロリダにおいて、世界女子大学選手権大会が初めて開催されました。日本ソフトボール協会から派遣された学連傘下の選手の皆さんは、立派に健闘され見事銅メダルを獲得しました。さらには、アジア女子ジュニア選手権大会では見事に優勝しました。学連も世界に羽ばたく第一歩を記した年になりました。

最後になりましたが、「ウインドミル」第8号の刊行にご尽力賜りました関係各位に感謝申し上げます、ソフトボール界の益々の発展を祈念して第8号発刊のご挨拶といたします。

ウインドミル

第8号

目 次

ごあいさつ ●会長 大内敬哉	1
〔巻頭言〕 ●40年間を振り返って	4
副会長 齋藤滋雄	
〔事業報告〕 ●平成16年度の事業報告と今後の活動方針	5
理事長 末井健作	
〔対談報告〕 ●強い人間、たくましい選手になってほしい!!	6
一字津木妙子前全日本監督からのメッセージ	
事務局長 森田啓之	
〔報 告〕 ●第1回世界女子大学選手権大会選手レポート	10
末井健作・久保田豊司	
●第3回アジア女子ジュニア選手権大会	23
板谷昭彦	
●大学生としてのソフトボール競技の関わり方	24
学生副委員長 稲富 稔	
●インカレに関する調査結果について	25
水谷 博	
〔研究紹介〕 ●ソフトボールウインドミル投法における投球腕の動作分析 ..	28
福島豊司	
〔卒業論文〕 ●女子ソフトボールに適した体力指標の開発	29
宮崎有紀子・末井健作・板谷昭彦	
国際大会の記録 ●第1回世界女子大学選手権大会	32
●第3回アジア女子ジュニア選手権大会	34
全国大会の記録 ●文部大臣杯第39回全日本大学男子選手権大会	36
●文部大臣杯第39回全日本大学女子選手権大会	50

●第56回全日本総合女子選手権大会	62
共催大会の記録●第19回東日本大学選手権大会	63
●第36回西日本大学選手権大会	65
後援大会の記録●第3回豊田・デンソー・豊田織機・東海理化杯	67
●第1回国公立大学オープン大会	69
●第1回北信越大学オープン大会	72
●第5回「峠のまち」Matsuida Cup	73
各地区の大会結果●北海道・東北地区	74
●関東地区	75
第35回関東大学選手権大会	81
●北信越地区	83
●東京地区	84
●東海地区	90
第1回東海地域大学選手権大会	94
●近畿地区	100
●中国地区	112
●四国地区	115
●九州地区	118
調査研究委員会●原稿等の募集・投稿規定	122
広報記録委員会●チームHPへのリンクについて	123
●第4回東海オープン出場チーム募集	124
資料●全日本大学ソフトボール連盟役員名簿	126
●全日本大学ソフトボール連盟学生委員名簿	129
●平成16年度加盟大学一覧	130
編集後記	132

【巻頭言】 40年を振り返って

副会長 齋藤 滋 雄 (学習院大学)

今から40年ほど前の昭和35年5月のこと、私の担当していた体育実技「ソフトボール」の受講生から、「学習院大学にもぜひソフトボール部を作ってほしい」との要望があった。この強い要望を踏まえていろいろ検討した結果、創部を決断した。発足のためには会員を集めなくてはならないので、「ソフトボール」の受講生を中心に希望者の勧誘に乗り出すと、15名の学生が入会を希望した。そこで彼らを体育科に集め、話し合いを行った。その中から、練習用のユニフォームを作ることが決定し、やがて全員ユニフォームを着用しての練習が北グラウンドの一角で始まった。翌36年には、日本ソフトボール協会にチーム登録し、一般男子東京都予選に出場するのなど、本格的な活動が始まった。

37年には体育会の第一歩となる愛好会に昇格し、学習院大学輔仁会運動部の仲間入りを果たした。この時「創部3年目に東京都で優勝する」という大きな目標を心に決めた。そして、宿敵日本体育大学に打ち勝ち、これを達成すると、これを機会にソフトボール研究に徹底することを決めた。特に投手について研究を進めることにした。それは言うまでもなく、ソフトボールというのは、試合の勝敗を決する上で投手が全ての鍵を握るスポーツだからである。私の夢は膨らんでいった。国体出場権を獲得するためには何が必要なのだろうか？そう思ってあれこれ思案した私の反省として浮かんできたのは、「体力をつけて頭で考える選手」そして「試合中に思考力を発揮できる選手」を作ることが必要だということであった。

ところで、昭和41年、東京都には大学連盟が誕生し、第1回全日本大学学生選手権大会が駒沢オリンピック公園競技場で開催された。2回戦で敗退したものの、投手がよくなってきているという手ごたえを得ることが出来、来年は優勝するぞという目標が出来た。そこでOBをコーチに迎え、徹底的に指導していただいた。結果は、延長の末に1対2で日体大に敗れたものの、達成感は大きく次の国体へ気合い十分で望むことが出来た。予選を勝ち抜き、埼玉県で開催された第22回国民体育大会に出場し、優勝することが出来た。その上、日本ソフトボール協会より日本代表として世界選手権に出場するようにとの要請までいただいた。またとないチャンスであったが、出場となると留年する学生が出てくると思い非常に残念であったがお断りした。そして、この年愛好会から同好会に昇格し、昭和49年には体育会運動部に昇格した。

ソフトボールというスポーツに情熱と努力をを注ぎ込んできたつもりでの教員生活であった。1日に1200球投げる過酷な齋藤流投手養成合宿も行った。日本に芽生えつつあったソフトボールを育てる一助にはなれたとは思ふ。益々のご発展を祈念します。

編集部註： 齋藤先生はこの3月に学習院大学を定年退職されます。
お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

【事業報告】平成16年度の事業報告と今後の活動方針

理事長 末井健作（兵庫県立大学）

本学連の事業であります文部科学大臣杯第39回全日本大学ソフトボール選手権大会（共催：富士宮市・富士宮市教育委員会、主管：静岡県ソフトボール協会、富士宮市ソフトボール協会、後援：静岡県他）は、1998年に第9回世界女子ソフトボール選手権大会が開催された静岡県ソフトボール場をメイン会場に実施しました。今大会は台風の影響による天候を心配しながらの大会となりましたが、男子において国士舘大学が第4回大会以後、実に35年振りの優勝で大いに盛り上がりました。しかし、女子においては残念ながら雨天のため決勝戦が中止となり、大会史上初めて決勝戦に進出した大谷女子大学と日本体育大学の両大学を優勝としました。大谷女子大学は初優勝、昨年度の淑徳大学の初優勝といい、今後はますます厳しい戦いが展開されることを予感させる大会でした。女子の閉会式は雨と涙の中で行いましたが、両大学選手の胸中を察すると雨が恨めしく思いましたが、両大学の健闘を称えたいと思います。

また、本大会から学生役員が開会式の開会宣言や監督・主将会議の受付に参加したことが特記すべきことであります。今後さらに学生役員の参加とその役割が重要になると考えます。運営面では、試合時間が長く初めてサスペンデッドゲームを行ったりしましたが、スピーディーな試合運びを関係者にお願ひしたいと思います。会場については、素晴らしい環境のもとで好試合が展開され、選手と多くの応援する者とが一体となった熱気溢れる大学生らしい記念すべき大会であったと思います。ただ、大会期間については順延になったこともありましたが、今後は種々の要件を考え総合的に判断すると、やはり3日間で開催することが望ましいと思われ、今後の検討課題にしたいと考えています。主管くださいました静岡県ソフトボール協会・富士宮市ソフトボール協会および関係者の皆様の献身的な運営とご協力に厚く御礼申し上げます。

後援しました東日本、西日本大学選手権大会およびオープン大会は、関係者のご協力により成功裡に終えることができましたが、今後、学生役員の運営面における役割がさらに増していくことと思います。学生のリーダーを育てることも大学連盟関係者の任務であろうと思います。

ところで、本年度は（財）日本ソフトボール協会のご支援により第1回世界女子大学ソフトボール選手権大会に出場し、銅メダルを獲得することができました。国際大会において勝つことの厳しさを実体験しました。今後は、国際大会で活躍できる選手を育成することにも取り組んでいきたいと思ひます。大学連盟としては日ソ協の男子へのご支援をお願ひするとともに、大学連盟としても男女の選手の強化とソフトボールの普及発展に努めることが重要課題であると考えています。来年度は本学連として男子の海外遠征を（ニュージーランド）予定していますが、その成果を期待したいものです。

本学連は来年度に創設40年を迎えますが、さらなる発展を期して新たな展望を開いていきたいと思ひます。今後とも、関係者の皆様の絶大なるご支援・ご協力をお願ひ申し上げます。

【対談報告】 強い人間、たくましい選手になってほしい!!

—宇津木妙子監督からのメッセージ—

全日本大学ソフトボール連盟事務局長

森田 啓之 (兵庫教育大学)

1. はじめに

アテネ五輪を終了して、息をつく暇もない日程で日本リーグが開幕。そのリーグ戦真ただ中という10月15日、移動・練習日である忙しいスケジュールのなか、大学生に向けて宇津木監督（前全日本女子監督・日立&ルネサス高崎総監督）が熱く語ってくださった（於：岐阜市）。以下に、そのインタビューの骨子をまとめた。

2. インタビューの概要

森田：シドニー、アテネと率いた日本代表チームの中に、大学の現役選手（高山、増淵選手など）もいたわけですが、監督は大学生選手をどのように見ていましたか？ 大学生は代表チームの中でどのような位置付けでしたか？

宇津木：私の中に、大学生とか実業団という区別はありませんでした。ただ、両者の間に「意識」の違いを感じることはありました。実業団の選手は、生活する・働くということと、ソフトボールのプレイが直結するので、「必死さ」が前面に出てきます。実業団では勝たなければなりません（成果が要求されます）し、怪我をしたらやめなければならない中でプレイしているところに、取り組むうえでの「厳しさ」が現れるのだと思います。

一方、大学生には「必死さ」・「厳しさ」がないかと言えばそうではないのですが、やはり授業を受けながらソフトボールをするという点において、取り組み方や意識に若干の「甘え」や「甘さ」が見られても仕方ない部分だとは思いますが。このことは代表候補合宿に参加した大学生選手自身も言っていたことです。

大学では実業団のように、指導者である先生方もずっと練習につくということはできないでしょう。それが今言った「甘え」・「甘さ」にもつながるのかもしれませんが、私は裏を返せば、「自分たちで考える場が与えられている」ということでもあると考えています。つまり、大学という場にはいろいろなノウハウが転がっている（他のスポーツ選手の取り組み方から学んだり、大学の先生からスポーツに関わる知識を得たりすることは可能である）わけで、言われるからやるのではなく、自分から何かを見いだしていく姿勢を持ち続けることができれば、大学に在ることのメリットを最大限に生かすことができると思いますね。そのような雰囲気を作られる中で、「周りに合わせるのではなく、自分で独自に取り組めるプレイヤー」が多く出てきてほしいと願っています。

森田：そうですね。大学生に限らず、さらにはソフトボールという種目に限らず、一般的に日本の選手には自分で考えるという習慣があまり身に付いていないと私は思います。し

かし、その中では以前にインタビューした学生時代の高山選手や増淵選手は、珍しく「自分を持ってる」タイプと思うのですが、それは投手だからでしょうか？

宇津木：確かに投手というポジションの特性は若干あるかもしれませんがね。野手とは事情が少し異なりますから。このことと少し関係しますが、今回大学生が「第1回世界大学女子選手権大会」（於：フロリダ、10月下旬）に参加して世界を肌で感じることができるのは本当に良かったと思います。できるだけ多くの大学生選手が「世界のこと」を学んで、新たな自分の基準づくりに役立ててほしいと願っています。

森田：その「世界基準」について、もう少し具体的にお話いただけますか？

宇津木：大学生に限る話ではないのですが、日本のソフトボールプレーヤーは「あてがわれて、やっている」感じがします。それと直接関係するかは定かでないですが、日本人は「ひ弱」であるとも思います。

例えば、グラウンドなどの施設状況は世界大会であっても日本に比べると十分でない場合が多いですし、試合会場や時間の変更も突然あつたりします。しかし、現実にはその状況に適応してやるしかないわけで、「このグラウンドでできることを考えよう。この与えられた環境（時間、場所等）で何ができるか」という考え方が、選手はもちろん監督やコーチにも必要になってきます。「こんなところでは十分な練習ができない」ではなく、どんな状況下でも「できることは何？」と考えて実行、工夫することが強く求められます。この「環境への順応性を高める」ことが先の「ひ弱さ」を克服する一つになるかもしれません。

もちろん、怪我をしないように・させないようにというのも分かりますし、良い条件でやらせたいというのも分かりますが、後から述べますように、今求められているのは「タフな人間づくり」だと考えます。それが競技という側面でも、教育という側面でも、これから取り組んでいくキーワードになるのではないのでしょうか。学生時代にこそ自分がそのような意識でやってほしいです。そうでなければ、良い指導はできないでしょう。

森田：宇津木監督はソフトボールを通じて、様々な年齢や学校段階のプレイヤーと関わってこられたと思いますが、その中で最近何か感じることはありますか？

宇津木：中学生や高校生を見ていて、もちろん大学生もそうですが、本当に「自由になったなあ」と感じます。それはある意味ではいいことですが、教師／生徒関係も、親／子関係も友達関係に似たものになっている気がします。また、「自分だけではない。人がいて自分がある。自分の回りには常に人がいる」ことを分かっている子がどれくらいいるのかなあと疑問に思う場面も多くなりました。端的に言うと、「はじめ」のなさです。ソフトボールを通じて先輩・後輩の上下関係など、他者との関わり方を是非学んでほしいですし、具体的には、挨拶がしっかりできる子、礼儀のしっかりした子を育てていかねばならないということです。と同時に、スパルタ指導は非難されるべきですが、何が良いか悪いかは明確に教えるべきでしょう。「なあなあ」で事を済ませるのではなく、あくまでも「その場その場に応じた適切な関係のありかた」があることをしっかり教えなければいけないし、教えてほしいと思います。かつこ良く言うと、「厳しさの中に愛情を！」でしょうか。個

人的には、この点をはき違えた大人の関わりが、「(いろいろな意味で)弱い人間を作って」しまっていると私は捉えています。

このように、教育として大事なこと(人間形成の基本部分)をおさえたいうえで、子どもたちに夢を追いかけさせるようにしてほしいと強く思います。メンタル的なタフさはもちろんですが、広い意味での「強い人間づくり」をしてほしいとも思っています。大学プレイヤーはいずれは教職に就いたり、指導的立場になる人が多いでしょうから、自分の将来を見据えながらしっかりプレイをしていってほしいですね。

森田：今うかがった「強い人間づくり」に向けたこれからの日本のソフトボールの方向性を、個人的見解で結構ですからお話いただけますか？まず、具体的にどのような指導をしていく必要があると思われるか？

宇津木：先に言いました「強さ」というのは、「耐性(耐える力)」と言い換えることができます。「根気よくやれる強さ」とも言えます。ソフトボールに照らしてみると、その原点は、「基本の反復練習」です。走る、キャッチボール、ノック、バッティングなどが選手づくり、チームづくりの中心となります。したがって、プレイヤーの立場からは、毎日同じことの繰り返しを根気よくできうるかということになりますし、一方、指導者の立場からは、「奇をてらう」のではなく、「根気よくやりながらも新鮮味ある指導をしていく」、そして、その中で先の教育として大事なことを教えていく必要があるのではないのでしょうか。

森田：その他に何かありますか？

宇津木：端的に言うと、「世界と戦うためには、できるだけ世界と同じ条件にする必要がある」と思っています。ソフトボールを「競技」として追求する場合、世界基準に倣っていくことは必要不可欠なことです。ボールや審判のストライクゾーンなど、日本代表選手だけが対応していく問題ではなく、日本のソフトボール全体という視点で考えることが望まれます。

例えば、イエローボールの導入によって、ソフトボールは大きく変わりました。本当に力のあるバッターしかホームランを打てなくなったことは明らかです。日本の打者のパワーのなさを実感させられたわけですが、投球についても指のひっかかり、肩の張りなどかなり違うようです。この世界との狭間に対してすぐに対応するというのは無理なことで、計画的・長期的展望を持って対応策を検討する必要があるのではないのでしょうか。大胆な意見と言われるかもしれませんが、中学生や高校生も革ボールでやるべきと個人的には思っています。怪我の心配を大人はしますが、子どもは結構たくましいんですね。

結局のところ、「競技者のためになる」「競技者がうまくなる」ために、どのような策を今後講じていけばよいかを真剣に各方面で議論してほしいと思います。

森田：今のお話は、日本のソフトボールの発展や普及に関して、どのような展望をもって取り組むべきかということになると思われますが、監督はサッカー(Jリーグ)が描いているような青写真をどのように捉えていますか？

宇津木：確かにこれからは地域密着型で進めていくことが妥当と思っています。小学生か

ら地域とタイアップしながら、学校の枠を越えたブロック毎での実施という弾力的なありかたを考えていくことが、ソフトボールを人々の間により根づかせることにつながるのではと捉えています。現実には、中学校ではいろいろな事情でソフトボールを部活動でできないところも出てきてますよね。「ソフトボールに一生懸命取り組みたい」という子どもたちの思いや夢を具現化することを第一にして、学校を含めた「地域」が最善の選択をしていってほしいです。

そのためには、質の良い指導者が多く必要になってきます。実業団経験者はもちろんですが、大学でソフトボールに関わった人や保健体育を学んだ人がその中心になってほしいと強く希望します。

森田：ところで、大学生も将来的に指導者を希望する、そして現実になっていく人は多いのですが、審判や記録員という形で携わっていく人は少ないと私は思っていますが、いかがでしょうか？

宇津木：その通りです。これからのソフトボールの発展は、そのような「支える側の人」の育成も重要な課題です。「周りから憧れられる審判づくり」に向けて、大学生にも大いに期待しています。審判で世界大会に出ることも可能ですよね。要は、ソフトボールも人生と似ていて、一つのことにこだわりすぎないことだと思います。「いろいろな関わり方を模索してみる。その中で自分は育つんだ！」ということ、監督業をやってつくづく感じました。

それと最後に、「良い指導者」について少しだけ。実際指導する中には、自分の思い通りにいかない子もいますし、いかない場合もあります。その子たちに対して、お互いの立場を尊重していかにかやっていくか、すなわち懐の広さみたいなものを持っていることが力量ある指導者ではないかと思うようになりました。そのためには、指導やプレイするうえでは、良い意味で「葛藤する」「悩む」ことが必要です。現時点で最善と考えることを実践しつつも、常に「これでいいのか？」と問いながら試行錯誤を絶えず行うような姿勢を忘れてほしくないです。それがなくなったときには、その人の成長は止まり、取り組みもマンネリ化してくるのだと思います。

3. おわりに

今回のインタビューの中で監督が何回も使われた言葉が、「強い人間づくり」・「教育の基本」、そして「世界基準」であった。どの競技レベルであっても、「ベーシックな人間づくり」が大切であること、また、「井戸の中の蛙、大海を知らず」ということわざが示す状況に子どもも指導者も陥る危険性があるのだが、それを自覚しながらできる限り広い視野で自分の周り（世界）を見続けていくことが必要であることを、強く感じた。

最後に、リーグ戦中という忙しいときにもかかわらず、来訪を温かく迎えてくださった宇津木監督、日立&ルネサス高崎女子ソフト部の吉野マネージャー、そして選手の皆さんに心からお礼を申し上げます。

【報 告】 第1回世界女子大学 ソフトボール選手権大会選手レポート

副団長 末井 健作（兵庫県立大学）
コーチ 久保田豊司（大阪国際大学）

はじめに

まずもって、全日本大学ソフトボール連盟は、標記の大会への参加ができるようご支援くださいました(財)日本ソフトボール協会の皆様に衷心よりお礼申し上げます。出場した選手は、今まで経験したことがない素晴らしい貴重な体験をすることができました。今後、この経験を活かしてさらに選手として技術の向上に励むことはもとより、指導者としてもソフトボールの普及発展に努めてくれることと思います。

また、この記念すべき大会に副団長の任を務めることができましたことを、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。（末井健作）

大会報告

日本選手団は、戸津団長・末井副団長・吉野監督・久保田コーチ・細田コーチ・金城トレーナー・鎌田帯同審判員・藤井総務、および選手17名の編成をもって、アメリカ・フロリダ州・プラントシティで開催された上記大会に出場した。

日本は、予選リーグを4勝3敗4位の戦績で決勝トーナメントに進出し、カナダチームに勝利はしたものの台湾チームには負け、惜しくも3位銅メダルの結果であった。しかし、大学生の選手にとっては、国際大会においてスピード・パワーを体で感じる試合ができたことは今後役に立つ十分な収穫であった。優勝は圧倒的な投手力で勝ち進んだアメリカチーム、2位は台湾チーム、3位は日本チーム、4位はカナダチームであった。（久保田豊司）

役員・スタッフ

団 長：戸 津 孝（日本ソフトボール協会）
副 団 長：末 井 健 作（兵庫県立大学）
監 督：吉 野 みね子（東京女子体育大学）
コ ー チ：久保田 豊 司（大阪国際大学）
 細 田 きみ子（東京女子体育大学）
トレーナー：金 城 充 知（日本ソフトボール協会）
帯同審判員：鎌 田 恵 雄（日本ソフトボール協会）
総 務：藤 井 まり子（日本ソフトボール協会）
添 乗 員：岡 村 晋 介（JTB）

日本代表選手

投 手：金 尾 和 美（日本体育大学） 五 島 麻 美（日本体育大学）

後藤 真理子 (淑徳大学)	中村 祐子 (東京女子体育大学)
松村 歩 (大阪国際女子大学)	
捕手：小森 由香 (日本体育大学)	鮫島 憂子 (園田学園女子大学)
藤崎 由紀子 (東北福祉大学)	
内野手：小幡 麻由 (日本体育大学)	酒井 かおり (東京女子体育大学)
鈴木 紅美 (日本体育大学)	鈴木 優子 (中京大学)
竹野 友貴 (東京女子体育大学)	宮下 絵美 (東京女子体育大学)
外野手：古渡 美奈 (東京女子体育大学)	白井 沙織 (日本体育大学)
道音 貴子 (東京女子体育大学)	(守備位置別五十音順)

選手レポート

ここで、選手が世界選手権で得た貴重な体験を、1. 国際試合に出場して、2. 日本のチーム・選手との違い、3. コンディショニング (体調管理)、4. 後輩達にアドバイス、5. その他 (上記の内容以外で自分が伝えたいこと) のテーマで報告する。

日本体育大学 2回生 金尾 和美

1. 国際試合に出場して

私にとって世界大会は初めてな事で、嬉しさと不安でいっぱいでした。大学代表として国際大会に出場出来ることは、今しか出来ないことで、とてもいい経験をさせて頂きました。海外での私生活を含め、多くのことを学ぶことが出来ました。国際試合というだけあって言語の違う人とコミュニケーションをとる場もあり、勉強になりました。何に対しても、積極的に挑戦していくこと、色々試してみることが大切と感じました。

2. 日本チーム・選手との違い

多くのチームと試合をしてみて、みんな体格が良く、守備にしてもバッティングにしても迫力があつた様に思います。特に、アメリカのピッチャーの迫力あるピッチングは、とても印象に残っています。打者は、足を活かしたバッティングも長打も打ってパワーを感じました。堂々とソフトボールをしている様に見え、楽しそうでした。

3. コンディショニング (体調管理)

国際試合は、日本と違って黄色のボールなので、慣れる為にも少しずつではありますが、毎日の練習で黄色のボールを使ってピッチングをしました。大会が始まると毎日の練習ほど動かなくなる為、筋力が低下し動きが悪くなってしまい、投げ込み以外にも事前にやらなければいけないことは他にもあると分かり、今後活かしていきたいと思いました。

4. 後輩達にアドバイス

ストライクゾーンが日本と違うので、ピッチャーもバッターも早く対応する必要があると思います。国際大会は色々なプレッシャーがあると思いますが、舞い上がりず平常心でプレーする事が大切だと思います。ミスを恐れず思い切ってプレーし、ソフトボールを楽しむことが大切だと思います。

5. その他

国際大会はソフトボールだけでなく、色々な面で勉強になると思います。このような大会に出場出来た私は、とても幸せ者だと思います。この経験を今後活かしていきたいと

思います。大会中は、多くの方にお世話になり有難うございました。

日本体育大学 3回生 五島 麻美

1. 国際試合に出場して

初めての国際試合に出場して、私が感じた事は、やはり体の大きさが違う事、体だけではなくバッターやピッチャーのパワーの差にも驚きました。そして、ストライクゾーンはアウトコースがとても広くインコースは狭い印象があったのですが、極端な違いは感じられませんでした。

2. 日本チーム・選手との違い

それぞれ違いはあると思うのですが、まず、個人の技術レベルは決して劣っていないが、体の大きさやパワーの違いが大きいと思います。そして、送球の速さやバットスイングの速さなど全てのバッターが思い切りのいいスイングをしていました。

3. コンディショニング（体調管理）

大会までの調整は、試合は黄色いボールを使用するので少しでも早く手になじむように常に触っているように心がけました。また、国際試合という事でドーピング検査が厳しいので、薬や栄養剤・栄養ドリンクの摂取には特に気をつけました。

4. 後輩達にアドバイス

「攻める気持ち」を常に持って欲しいです。守備でも守るのではなく、気持ちだけは攻めていかないと気持ちが守りに入った時（安心した時）、必ず何かが起こると思います。そして、何事にも挑戦することが大事だと思います。これは、ソフトボールのプレーにも同じ事が言えると思います。数少ないチャンスに挑戦し、ものにする。

5. その他

とても良い経験をさせて頂きました。こうやって海外で試合ができ、良い環境で遠征が出来たのも、ソフトボール協会の方、全日本大学連盟ならびに監督、コーチ、スタッフの方々のおかげです。本当にありがとうございました。

淑徳大学 4回生 後藤 真理子

1. 国際試合に出場して

最初は国際試合に出場して、国際試合というものがわからず、淑徳大学から一人で出場するという事に、不安やプレッシャーもありましたが、試合をしていく中で、プレッシャーよりも楽しみの方が大きくなりました。この大会に出場できなければ一緒にプレーすることがなかった仲間達と、気持ちを一つに一戦一戦必死になって最後まで戦えたことが何よりも嬉しかったです。そして全員の力で掴み取った『銅メダル』は私にとって最高の宝物となりました。

2. 日本チーム・選手との違い

日本のチームと比較して、外国の選手は体格もパワーも全く違い、バッターボックスから独特の雰囲気や威圧感が伝わってきました。オーストラリアやカナダの選手はとにかくフルスイングで、それとは逆に台湾は短打のミートバッティングと国によって攻撃の仕方が全く違いました。

3. コンディショニング（体調管理）

世界でプレーすることが初めての私にとって、環境や食事、時差の違いなどから、コンディション作りが一番大変でした。この大会を通して、私自身経験したことのない6日間の連戦を経験し、想像以上に疲れを感じました。疲れから思ったように投げられなくて負けて後悔だけはしたくはありませんでした。その中で金城トレーナーにケアして頂き、最高の環境でプレーすることができ、とても感謝しています。ありがとうございました。

4. 後輩達にアドバイス

代表選手として国際試合に出場することをプレッシャーと感じるのではなく、好きなソフトボールを世界の大舞台で各国代表のチーム相手に戦えることを素直に喜んで、楽しんでおもいきってプレーして欲しいと思います。そして、次こそは優勝を目指して練習に励んで欲しいです。

5. その他

大学4年間の最後にこの大会に出場することができ、貴重な体験をできたことをとてもうれしく思っています。この体験を無駄にせずに関後に活かしていきたいと思います。そして、私を支え、指導して下さった方々に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

東京女子体育大学 3回生 中村 祐子

1. 国際試合に出場して

国際試合では、投手から見るとボールの違いや審判のコースの広さの違いがあり、やりやすい部分もありました。日本では経験出来ない事をたくさん経験出来て良かったです。

2. 日本チーム・選手との違い

体の大きさやパワーの差は外国選手の方が上ですが、ピッチャーとしての違いをみると、バッテリーの配球などは、ボールを混ぜて色々なコースについて投げるのに対し、外国のピッチャーは日本人よりも淡泊な攻め方でそんな違いがあると思いました。

3. コンディショニング (体調管理)

体調管理の面では、時差や食事、気候の違いによってアップの時間配分を調整するなど、日本での試合とは違うので、試合前の体調管理にはより気をつけていました。

4. 後輩達にアドバイス

今回わたし達は3位という結果でした。日本人と外国人では確かに体の大きさやパワーでは勝てないかもしれないけど、試合は強いチームが勝つのではなくて勝ったチームが強いと思います。だから気持ちで負けずに2年後は優勝を目指して頑張ってください。

大阪国際大学 4回生 松村 歩

1. 国際試合に出場して

世界選手権に出場して、今までの環境とは違う中で試合を行いたくさん学ぶ事ができました。日本選手と外国選手との配球の違い、審判の癖、キャッチャーとのコミュニケーションなど、たくさんの事が勉強でき私自身の視野が広がりました。この経験は私にとって貴重なものとなりました。

2. 日本チーム・選手との違い

外国の選手は、日本の選手より体格は大きく、対戦して迫力ある選手が多かったと思

ます。打者と対戦して感じたことは、日本の選手より選球眼がよく、また厳しいボールでもファールにしながらタイミングを計って自分の打てるボールを待っていました。そのようなところが日本選手と違うと思いました。

3. コンディショニング

私は二週間という長い遠征は初めてで、また大会に入るとほぼ毎日2試合あるというハードなスケジュールですごく大変でした。アップも日本で試合する時より短く、その短い時間で自分のベストの状態にもっていく事、次の日に疲れを残さないように調整する事の難しさを学びました。

4. 後輩達にアドバイス

しっかり基礎を身に付ける事が一番大事だと思います。日本選手の守備力は外国の選手に劣っているとは思わなかったのですが、バッティングはパワーも技術も少し劣っていると感じました。外国の選手に比べると全体的に体が小さいので、その分、トレーニングをして筋パワーとスピードをつける必要があると思います。

5. その他

国際試合を通して感じたことは、精神的に強くなければ自分のベストは出すことは出来ないと思いました。私は日本の大学生の17名しか経験できないことを、その中の1人として経験できたので、その経験を無駄にせず今後につなげていきたいと思っています。

日本体育大学 4回生 小森 由香

1. 国際試合に出場して

今回、国際試合に出場し、試合内容や結果はもちろんですが、それ以上に同じ大学生として、どんなものに興味があり、どんな勉強をしているのかなど単純な事ですが知ることができました。日本代表として、自覚と責任を持つ事、試合で結果を残すということは今回の私たちに託されたものだと思いますが、それと同様に色々な国の文化や生活を知るという事も大学生の私たちにとって大切な事だと感じました。

2. 日本チーム・選手との違い

試合を通して感じたのは、やはり体格やパワーの違いでした。一球一球どんなボールに対してもフルスイングで積極的な選手が多く、捕手をやっても一球の重みというものを常に感じていました。また、日本と外国の投手の違いもはっきりしていて、日本の投手はコントロールを重視し、色々な配球を組み立てるのに対し、外国の投手はスピードを重視した選手が多かったです。

3. コンディショニング (体調管理)

世界選手権での試合日程は、一日二試合で試合と試合の間が長くコンディショニングの調整がとても難しかったです。また日差しも強く暑かったので、試合前のアップはストレッチや体をほぐしたりするなどの比較的軽めなものでした。

4. 後輩達にアドバイス

今回の大会で、わたしは色々な選手を見ることができました。その中で、自分の足りない所や課題が見つけれられたような気がします。自分のよい所、悪い所を見つけるには、まず色々な選手を観察する事だと思います。そうすれば自然と、自分で考え行動する力が身についてくると思います。

5. その他

今回の世界選手権で、たくさんの選手と出会いソフトボールや色々な事について学ぶ事ができました。この貴重な体験は、これからの人生において大きな影響を与えてくれると思います。またこの経験を生かし、少しでも多くの人に指導できたらいいなと思います。

園田学園女子大学 3回生 鮫島 憂子

1. 国際試合に出場して

海外の選手の良いところや精神面など、意識レベルの高いチームは私にとってすごくいい勉強になり、これからのソフトボール人生において、とても貴重な体験になりました。

2. 日本チーム・選手との違い

まず、体の大きさの違いにびっくりしました。スイングの速さや、打球のスピードの違い、そしてスローイングのパワーに驚きました。外国選手の打者は日本選手と違い、ピッチャーのボールに押されず力負けしていませんでした。

3. コンディショニング (体調管理)

一日に2試合、朝と夜に試合が行われるので、お昼の15分だけ睡眠をとり体力と集中力を高めた。そして肉料理ばかりだったので、野菜サラダなどを多めにとり、早く海外の食事に慣れる体を作りました。

4. 後輩達にアドバイス

何をするにしてもまずは気持ちだと思います。やろうとする気持ちを表現出来る選手になって欲しいです。『すべては自分次第』この言葉を教えてもらい頑張れました。

5. その他

自分の一番いい所を見つけ、夢を追いかけてほしいです。そして叶える為に努力して欲しいです。私も夢をあきらめず掴む為に毎日を大事に頑張りたいと思います・・・最後に、これまで出会ったたくさんの人に感謝し、これからもソフトに生きていきたいと思います。

東北福祉大学 3回生 藤崎 由紀子

1. 国際試合に出場して

初めて国際大会を経験し、自分にとっては大きな刺激になりました。日本の中ではなく、世界という大きな舞台に立つことが出来たこと、そこでプレー出来たこと、チームに貢献出来たこと、とても喜ばしく思いました。日本に帰っても未だにアメリカでの試合を思い出します。そこでの体験が今の自分に大きな影響を与えています。

2. 日本チーム・選手との違い

いろいろな捉え方があると思いますが、技術的には日本チームは投手を中心とした守りのチームだと思います。外国のチームは、どちらかという守備の乱れが多く、バッティング力の方が優っているように感じました。投手に関してもきれいなフォームで投げる選手は少なく、体格の良い背の高い選手が多かったように感じます。コントロールで打ち取るというよりは、ボールのスピード、キレで牛耳るタイプの投手が多く見られました。

3. コンディショニング (体調管理)

まず早く現地に慣れることだと思います。時差や気候、食べ物など、まずは生活のリズムを作っていくことです。怪我をした場合、擦り傷でもそのままにしておかないでしっか

りケアすることが大切です。

4. 後輩達にアドバイス

出し惜しみすることなく、先手必勝で挑んでほしいと思います。足を活かした攻撃は、守備のリズムを崩すために非常に効果があると思います。自分の持つ長所を存分に発揮して下さい。

日本体育大学 3回生 小幡 麻由

1. 国際試合に出場して

大学の遠征も含めて、私にとって5度目の国際試合だったのですが、毎回私が感じる事は、他国の審判のジャッジの基準や他国の選手の性格やプレー(技術面)です。特にプレーに関しては、外国の選手の守備やバッティングは決して見た目はカッコよくありません。しかし、守備に関してはどんなにかっこ悪くても必ず打球の正面に入り捕球します。基本的な事です、長年ソフトボールをしていると忘れてしまう事のような気がします。また、バッティングに関しても、バットにボールが当たらなくても常にフルスイングです。とても勉強になる事が多かったです。また、他国の指導法についてもすごく興味を持ちました。

2. 日本チーム・選手との違い

他国と日本についての違いは？と言えば、私は指導法にあると思います。一般的に、日本の特徴としては、日本人はやたらと決まりを作り、管理をします。また、失敗したら怒る、注意する、このような決まりがどこことなくあると思いますが、他国のチームを見ると違うように感じました。自由な雰囲気、アメリカやカナダ、オーストラリアの指導は選手が失敗をしても絶対に怒ることはしません。褒めて、褒めて、慰めて選手を伸ばしていくのです。指導法、これが、日本と他国との違いだと思います。また、もう一つ考えられるとしたら、生まれ持っている性格の違いだと思います。

3. コンディショニング(体調管理)

まず、一番に考えることは怪我です。怪我をしないようにするには、何をすべきなのかという事。そしてもう一つは、栄養管理です。しっかりとしたバランスのとれた食事を摂取していれば、風邪の予防や怪我の予防にもつながるからです。あともう一つは、自分の心(気持ち)のモチベーションを上げていく事をしました。

4. 後輩達にアドバイス

技術面に関しては、その人の努力次第だと思います。どんなに下手な選手でも、上手い人に勝てるのは気持ちです。自分がどんな選手になりたいのかを明確にし、それに向けてとことんつき進んでいくだけです。「目標」が夢ではなく、すぐに達成出来そうな「目標」を作ることをおすすめします。

5. その他

指導面について日本はもっともっと勉強すべきと感じました。今回のオリンピックでもそうですが、日本の上にはアメリカ・オーストラリアが立ちふさがっています。その国を倒して日本が優勝する為には選手の育成と共に、コーチングスタッフの育成にも目を向け、他国の良い部分などを日本流にして取り入れるなど、指導者の育成にもっともっと力を入れてほしいと思いました。

東京女子体育大学 2回生 酒井 かおり

1. 国際試合に出場して

国際試合に出場して、一番感じたことは外国の選手はとても大きく感じる事です。体も大きいのですが、それ以上にプレーがとてもパワフルで打球の速さ、肩のよさは目を見張るものばかりでした。実際に試合をしていて、外国チームが守っている時はグラウンドがとても小さく感じました。日本の代表として、世界の舞台に立ちプレー出来たことが、自分自身の自信にもつながりましたし、日本に帰ってきて実際にプレーをしてみて、余裕を持ってプレー出来るようになりました。

2. 日本チーム・選手との違い

日本チームと外国チームの違いは、ソフトボールのスタイルそのものにあると感じました。日本チームの守備はきっちりし、打撃でもただ打つだけではなく、機動力をからめてという細かいソフトボールをしますが、外国チームの守備は、大雑把で打撃では機動力はほとんど使わず、パワーで打ってくるという印象がありました。選手の違いとしては、外国の選手は精神的にとても強さを感じ、「ここ！」という場面では本当に強くて結果に結びつけることが出来る精神的強さを感じました。

3. コンディショニング（体調管理）

試合までのコンディショニングでは、食事の面では甘いものを摂りすぎないこと、生ものや水道水は口にしないなど気をつけました。プレー面では、小技の確実性と打球によるの連係などの確認を中心にして試合に臨みました。

4. 後輩達にアドバイス

世界大会に出場させて頂いて、沢山の事を学びました。その1つとして、外国の選手は本当にマイペースで余裕を持ちながらプレーをします。それは、自分に自信があり、気持ち強いからだと思います。自分らしくやる事!!!大舞台に立てば立つ程大事な事です。どんな場面でも自分らしく、平常心でプレー出来る選手を目指してください。

5. その他

第1回世界女子大学ソフトボール選手権大会に出場させていただくにあたり、たくさんの方々のサポートを受け、私たちがソフトボールをしやすい環境を作ってくださりありがとうございました。3位に終わりましたが、試合を積むにつれ、スタッフ、応援団、ベンチにいるすべての人がとても結束し、いいチームだったと思います。これから第2回、第3回大会と続きますが、今度は是非、金メダルを目指し頑張りたいと思います。応援して下さったみなさん、ありがとうございました。

日本体育大学 2回生 鈴木 紅子

1. 国際試合に出場して

私自身、国際大会は初めてではありませんでしたが、やはり国際大会は最高の舞台であり、そこでプレーする事はとても刺激的で新鮮です。国と国とが世界の頂点を目指して戦うということはレベルが高いという事だけでなく、独特の雰囲気があり、ソフトボールの面だけでなく貴重な体験が出来る場です。私が特に感じた事は、最高の舞台でソフトボールを楽しむ為にチームの事、自分自身の技術を磨く事、環境に対応する事、多くの人とコミュニケーションを図る事が大切であると感じました。そうでなければ、最高の舞台を与え

られても自分のものにはならないと思いました。

2. 日本チーム・選手との違い

やはり、日本がチーム性を比べるとしたら、ライバルであるアメリカチームでしょう。アメリカチームは世界のソフトボールを引っ張っているという意識が強いせいか、雰囲気がとても堂々としています。チーム内は自由なイメージがあると思いますが、試合に入るまでの体作り等は、コーチにしっかり管理されていてとてもまとまったものです。そして何といてもずば抜けたパワーです。投、打共にパワーがあります。走塁のスピードもスラップも日本の武器ですが、今ではアメリカの武器になりつつあるように感じました。アメリカは吸収型のチームであると思いました。

3. コンディショニング（体調管理）

現地に行くまでの1ヶ月間、私は走り込みとリスト強化を中心に自主トレを行いました。走り込みを行った理由は、長期の海外遠征の場合、練習量が十分に確保出来ない事もあり、体にキレがなくなる傾向があります。その為、体を絞ろうと考えたのです。次にリスト強化です。黄色のボールは投げるにも打つにも肩や肘への負担が大きくなる為打ち負けないように、故障せずに大会を乗り切れるように考えました。現地ではフリーな時間はランニングを行い、なるべく動くことを心がけ、食事はバランスをよく摂るようにしました。環境は異なっても自分のペースを作る事は、事前の準備もあってか上手く出来たように思います。

4. 後輩達にアドバイス

まずは、スピードボールに打ち負けしない事です。また、ストライクゾーンが違う為、早くそれに対応する事です。アメリカやカナダ、オーストラリアチームのピッチャーは、パワー、スピードはありますが、守備には穴があります。塁に出る方法を沢山持っていた方が有利だと思います。国内とは異なった環境でプレーする事や、日本の代表である事など、多くのプレッシャーが普段のプレーを出来にくくすると思います。しかし、試合に入る前に気持ちを作り、楽しんでプレーで出来るよう自分を管理出来る様にしておく必要があると思います。

5. その他

国際大会ではソフトボールの面でも他の面でも視野が広がり、色々な事を吸収出来るチャンスが沢山あります。そのチャンスをどのくらい活かせるかは自分次第だと思います。私は、今回沢山の経験をし、色々な事を吸収出来たと思います。それも、コーチの方々やスタッフの方々のお陰と感謝しています。また、大会を一緒に戦った大切なチームメイトにもとても感謝しています。ありがとうございました。

中京大学 4回生 鈴木 優子

1. 国際試合に出場して

日本では当たり前に行われる試合前後の整列した挨拶や、フィールディングがないことなど、国際大会ならではの事に戸惑いはありましたが、見る物、体験するすべての事が自分にとってプラスになる良い経験が出来、とても楽しい時間を過ごす事が出来ました。

2. 日本チーム・選手との違い

パワーはもちろんの事、勝負の世界なので、勝ちたいと思う気持ちは一緒だと思います

が、試合中もどんな時でも笑顔でとても楽しそうにソフトボールをしていると思いました。表彰式では、日本はどちらかというとかしこまった感じがありますが、外国チームの中にはスリッパを履いて参加した選手もおり、とてもラフで文化の違いを感じました。

3. コンディショニング (体調管理)

短期間の中で試合を消化する為、試合と試合の間の時間が長い場合など、スケジュールが不規則なので十分な睡眠をとり、疲れをためない事が一番重要だと思います。

4. 後輩達にアドバイス

常にモチベーションを高く持ち続ける事は必要。打撃にはスランプがあるだろうし、そう簡単にヒットが出るものではない。その中で、いかに守るかが勝負の分かれ目だと思う。「1つのエラー (ミス) が命取り」とはまさにその通りだと思う。

5. その他

イメージ的に、外国チームはパワーがあるからホームランが多いと思うかも知れないが、そうではない。送りバントも重要な攻撃の1つとしてどのチームも必ずやってきます。送りバントが確実に出来るチームは強いと思います。私にとって、外国チームとの試合はこれが初めてで、選考会に参加する事も初めてでした。1回1回の選考会が、フロリダでの1日1日が勉強で、吸収する事が山積みでした。自分の目を見て、体で感じる事の出来る経験はとても必要だと思いました。

東京女子体育大学 4回生 竹野 友貴

1. 国際試合に出場して

ほとんどがレベルの拮抗したチームでした。銅メダルという結果を残せてよかったです。

2. 日本チーム・選手との違い

とにかく体格、パワーが違いました。打球の速さ、飛距離に驚きました。

3. コンディショニング (体調管理)

暑い中での試合でしたので、水分補給と十分な睡眠を心がけました。

4. 後輩達にアドバイス

2年後の台湾での大会では、今回の雪辱を果たし、是非金メダルを獲得してください。

東京女子体育大学 4回生 宮下 絵美

1. 国際試合に出場して

世界大学選手権では、試合の時間帯が朝から夜までという幅広い中で、約1週間もの間、試合をこなしていかななくてははいけませんでした。この中で、全試合をベストコンディションで望む為には、「試合以外の時は、リラックスして、試合が始まると同時に集中に入る。」といったメリハリが大切だと思いました。

2. 日本チーム・選手との違い

外国の選手は、日本人に比べて体が大きく、力があり、どの打順の選手もフルスイングしていたので、一発があるという怖い部分もありましたが、変化球に弱く、逆に打ち取り易いとも感じました。また、小技があまり上手くないので、ランナーが出て、バントで失敗が多かったと思います。日本のように、1・2番に小技をもってきているチームは少なく感じました。

3. コンディショニング（体調管理）

食事では、バイキング形式で自分の意思によって食べるものや量を調整できるので、試合に向けてのコンディショニング作りは上手くできました。食生活が違う部分では、大変困りましたが、日本から持ってきていた味噌汁やご飯などが役に立ちました。また、時差や気候が違ったので、その対応も必要でした。三日間という時間があつたので、なるべくフロリダの時間に合わせて睡眠を取り時差に対応しました。

4. 後輩達にアドバイス

世界で通用するのは、小技だと思います。外国の選手は、手足が長いいため素早い動きが苦手なので、小技をすると高い確立で決まります。また、サードの守備位置が全体的に後ろなので、常にセフティーバンドを警戒しているとは思えませんでした。力や体の大きさでは劣る部分もありますが、それをうまく利用して戦えれば世界制覇も近いと思います。

5. その他

大学生を対象にこのような世界大会が開催されたことは、大学生のすべての選手に世界で戦えるチャンスがあると思います。日本だけでなく世界を目指してこれから頑張ってもらい、大学のレベルアップをはかって欲しいと思います。

東京女子体育大学 4回生 古渡 美奈

1. 国際試合に出場して

体格もパワーも違う選手と戦い、今までのソフトの知識だけでは理想的な試合展開にはならない事が分かった。食事や時差など思うようなコンディショニングにはなかなか出来ず、色々な面から調整するのが難しいと感じた。

2. 日本チーム・選手との違い

選手として、チームの状態も考えることは重要であるが、外国の選手は常に自分が最高の状態で試合に臨めるように気をつけていたように感じられた。

3. コンディショニング（体調管理）

海外遠征ということで食事の不一致や時差での体調不良など、国内の大会では気にも留めない面で繊細にならなくてはならない状態が続くので、精神的なコンディショニングはとても難しいと思う。私は、U23で何度か国際大会を経験させていただいているので、初めて行った時の様にはならなかったが、みんなの話を聞くと不慣れな生活からくるストレスや栄養不足による体調不良は幾度か見られたようである。試合に向けての身体的なコンディショニングとして、とにかく疲れを次の日に残さないようストレッチや入浴、睡眠、バランスのよい食事をしっかり摂る事を心がけた。

4. 後輩達にアドバイス

自分がどのような選手になりたいのかによってかなり異なると思うが、もし国際的に活躍したいと思うのなら、やはり何よりも経験が大事だと思うので機会があればどんどん参加してほしいと思う。同じソフトボールでも、外国は日本とはまた違う感覚がするし、そういう面でも色々な選手を観る事は、自分にもプラスになると思うし将来の夢もまた変わり視野が広がるのではないかと思う。

5. その他

日本代表になることに憧れや夢を抱いていると思うが、実際に日の丸をつけて戦うとい

うことは重圧やプレッシャーがついてまわるもので思う以上に大変です。プレーが素晴らしいだけでは、海外での国際試合はやっていけないことを伝えたいです。

日本体育大学 4回生 白井 沙織

1. 国際試合に出場して

初めての国際試合だったので、緊張や戸惑いもありましたが、チームを編成し練習や試合を重ねるごとにチームワークや個々の個性も分かり、良い雰囲気で大大会に臨め、結果は3位でしたが、良い経験になりました。

2. 日本チーム・選手との違い

体の大きさは勿論違い、バッティングでの飛距離や肩の強さは外国の選手にはかなわないですが、でもそれだけでは勝てない事、体は小さくても自分たちのやれる事を出し切れれば、かなわないことはないと感じました。

3. コンディショニング (体調管理)

食事の違いや時差などもあるので、アップの仕方や食事の量も自分で考えなくてはならないので、日本で試合をする時よりも体調面は気にしました。

4. 後輩達にアドバイス

外国の選手は、確かに体は大きいけれど試合を左右するのは気持ちだと思うので、気持ちで負けずに2年後は1位目指して頑張ってください。

東京女子体育大学 4回生 道音 貴子

1. 国際試合に出場して

私は、大学の代表選手として日の丸を背負っていくので、すごくプレッシャーになりました。自分自身は変化球ボールの対応の難しさに悩みました。でも結果、銅メダルがとれてすごく嬉しかったです。良い経験をさせて頂きありがとうございました。

2. 日本チーム・選手との違い

外国人のピッチャーのスピードや変化球の種類の高さには驚きました。また外国人の体つきも大きく力強かったです。

3. コンディショニング (体調管理)

選抜チームだったので練習や試合と数多く出来なかったのですが、公式試合となったらチーム一丸となりチームワークがとても良かったです。

4. 後輩達にアドバイス

2年後は変化球の対応や黄色ボールに早く慣れ、左ピッチャー対策も必要だと思います。

5. その他

チーム一丸となることは何よりも大事です。チーム一丸となって良い成績を残して欲しいです。

日 程

10月21日(木) : 12:30 シカゴへ出発 所要時間約11時間20分

国際日付変更線通過

9:20 シカゴ着 16:50 タンパ到着 バスで宿舎へ 時差-14時間

10月22日(金)：調整練習
10月23日(土)：練習試合 タンパ大学・南フロリダ大学
10月24日(日)：練習試合 カナダ代表
10月25日(月)：調整練習
10月24日(日)：練習試合 カナダ代表
10月25日(月)：調整練習
10月26日(火)：大会開催 日本0－2アメリカ、日本3－5カナダ
10月27日(水)： 日本2－0オランダ、日本6－0中国
10月28日(木)： 日本9－0ガテマラ、日本1－2台湾
10月29日(金)： 日本1－0オーストラリア
予選戦績4勝3敗、決勝トーナメント（プレイオフ）1～4位決定戦へ
10月30日(土)：日本3－1カナダ
10月31日(日)：日本0－4台湾、第3位 銅メダル
11月1日(月)：観光
11月2日(火)：6:20 タンパ出発 11:30 シカゴ発日本へ 国際日付変更線通過
11月3日(水)：15:45 東京成田空港到着 解散式

後記

今大会は2年ごとに開催されることになり、次回は台湾で開催の予定である。今後、大学連盟としては(財)日本ソフトボール協会とさらに連携を強め強化指定選手（仮称）制度を導入し、選手の強化に努めていく予定である。今回の大会から、国際的に活躍できる選手の条件を考えてみると、①目的意識が明確であること、②自分自身のペースを維持できること、③自分自身で精神面および技術面において修正ができること、④物怖じしないこと等の要素が必要であると思われる。また、フィジカルな面を含めて力強さとスピードある選手の育成が急務であると感じた。さらに、技術面では正確に種々のバントができることが重要であると思われた。（末井健作）

今回の日本チームの戦績は、他国のチームによってはナショナルチーム（国代表）の選手が出場している中での3位銅メダルの戦績であり、出場チームのレベルからみると健闘に値するものであった。実際、試合をすると、テクニックについては日本が優れていたが、外国人とのパワー・スピードの違いは想像以上のものがあり、今後は高い技術力をどう活かすかが世界で勝つための条件になると思われる。また、大会を通して強く感じたことは、外国のチームは荒削りではあるが、基本のプレーを本当に大切にしているということである。その一つに単純ではあるが、1塁までの全力疾走である。簡単なようで、最も継続することが難しいプレーである。「全力でプレー」する、ここに忘れかけていた試合に勝つための「原点」を見たような気がした。

最後になりましたが、大学生及び私自身にこのような貴重な機会の場を提供して下さいました日本ソフトボール協会、全日本大学ソフトボール連盟、及び関係者の皆様方に厚くお礼申し上げます。（久保田豊司）

【報告】 第3回アジア女子ジュニア ソフトボール選手権大会

板谷 昭彦 (園田学園女子大学)

大会は降雨で1日中止となったが、日程通り無事大会を終えることができた。日本は予選リーグでは苦戦を強いられ2勝2敗の4位で決勝トーナメント進出。決勝トーナメントでは3連勝し優勝することができた。また本大会より大学生の選抜チームでの参加ということで、大学生にとってはこのような国際大会を経験することにより今後大いに役立つものであり、大学ソフトボールの発展の繋がる大会であった。

反省および今後の課題

1. 選手選考方法が書類だけのため、事前に選手の技量を十分に把握できなかった。
2. 出発日に初めて顔を会わせ、練習も試合前日の2時間だけで試合に挑まなければならなかったため、予選リーグを戦いながらのチーム作りとなった。少なくとも出発日の前日かそれ以前に一度集め、事前に大会の目的や目標を伝える時間及び練習時間を設け、意志統一を図る必要があるのではないか。

最後になりましたが、大学生及び私自身にもこのような貴重な経験の場を提供くださいました(財)日本ソフトボール協会関係者の方々に厚くお礼申し上げます。参加した選手はこの経験を生かし大きく成長するものと信じております。また私自身もこの経験を生かし、今後のソフトボール指導に役立てていきたいと思っております。なお、大学生の国際大会への派遣は選手目標や励みとなり、大学ソフトボールの活性化に繋がっていくものと考えられ、今後とも継続していただきますようお願いいたします。

役員・スタッフ

団 長：甲 佐 清 久 (日本ソフトボール協会)
 監 督：吉 野 みね子 (東京女子体育大学)
 コーチ：板 谷 昭 彦 (園田学園女子大学)
 トレーナー：金 城 充 知 (日本ソフトボール協会)
 帯同審判員：小 森 道 宏 (日本ソフトボール協会)
 総 務：藤 井 まり子 (日本ソフトボール協会)

日本代表選手

投手：金 尾 和 美 (日本体育大学)	竹 田 留 衣 (愛媛女子短期大学)
辻 恵理子 (大阪国際大学短大)	別 宮 由 理 (大阪体育大学)
増 田 恵 莉 (東海学園大学)	
捕手：加 茂 香 織 (愛媛女子短期大学)	千 田 えりか (東海学園大学)
内野手：安 部 聖 香 (園田学園女子大学)	佐々木 瞳 (富士大学)
高 橋 あゆみ (日本体育大学)	古 里 夏 季 (仙台大学)
宮 幸 代 (大阪国際大学短大)	森 田 ま ゆ (園田学園女子大学)
外野手：勝 浦 由 紀 (東海学園大学)	下 田 佳 恵 (大阪体育大学)
平 林 真由子 (園田学園女子大学)	(守備位置別五十音順)

【学生委員会報告】

大学生としてのソフトボール競技への関わり方

—全日本大学選手権大会の運営に初めて携わって—

学生副委員長 稲富 稔（大阪大学）

今年度、全日本大学ソフトボール連盟の学生副委員長をやらせていただきましたが、まずは、予定されていた大会等、すべての活動を無事に終了する事ができましたことを、大会運営並びに連盟運営に携わっていただいた皆様に感謝申し上げます。また、私たち学生役員を「全日本大学ソフトボール選手権大会」に関わらせていただいたことを重ねて感謝申し上げます。

さて、私たち3名（新井委員長、上小菌副委員長と私）は、全日本大学ソフトボール選手権大会（富士宮市）の抽選会、並びに大会期間中の会議、開会式の運営に学生役員として初めて携わりました。

抽選会では、抽選に来られた大学以外の代理として、私たちが抽選を行いました。始めに抽選順を決定し、続いて本抽選という形式が採られましたが、改めて大学選手権の「大会としての重み」を感じました。なお、これまではなるべく近隣地区同士が初戦であたらないよう配慮がなされて（参加チームを東・西に分け、1回戦は東西対決としていた。ただ、東海地区のチームについては便宜上、東・西に分けざるをえなかった）いましたが、今回から全くのフリー抽選となりました。「チャンピオンシップを争う大会である」ことを一層明確にするのがその趣旨です。とはいうものの、代理抽選をする側に立つと、「なるべく同地区対決は避けたいなあ」と、参加チームの気持ちを考えつつハラハラでした（結果は幸いにも、男女ともに1試合ずつのみが初戦での同地区対戦でした）。

個人的意見ではありますが、私は抽選の方法が変わったことは、とても良いことだと考えています。確かに、地域性を考慮すべきという考えもあります。参加するチームの立場からすると、「せっかくの全国大会では日頃対戦できない相手とやってみたい！」というのも当然でしょう。しかし、「大学日本一を決める大会」では最終的には、「優勝」のみが意味を持ちます（勿論、チームによっては「初戦突破」が目的であることを否定するつもりはありませんが）。そう考えると、同地区から出場しているチームさえも「倒さなければならない相手」となります。したがって、役員の立場に立って考えると、今回の変更は大学連盟全体として大会の趣旨を明確に反映する一つのステップとして評価できると思われます。さらに、将来的には出場権の選定においても地域による枠が撤廃されるのが望ましいのではとも思っています。そうすることによって、大学選手権では名実共に最高のパフォーマンスが繰り広げられ、しいては大学連盟全体の競技力のアップにつながるのではないのでしょうか

このように大学選手権が明確に位置づけられる一方で、現在少しずつ実施され始めている「地区主催の“交流・研修大会”」（これにも“全国的な参加の呼びかけ”がなされています）が、チーム間のつながりを作るとともに、より多くのチームに対する刺激になるという役割を果たしてくれるのではという期待も抱いています。

話を今回の私たちの仕事に戻しましょう。大会期間中は、まず監督主将会議の案内・受付を、開会式では新井学生委員長が開会宣言を行い、さらに裏方の仕事のいくつかを私たちは担当しました。その中で、学生として日頃あまり意識していない部分にも、開催地の役員の方々、大学ソフトボール連盟の役員の先生方などの多大なご尽力があり、その上に大会が成り立っていることを痛切に実感しました。

このように、私たち学生役員が大会運営にわずかながら携わったことは、大学ソフトボール連盟として大いなる一步を歩みだしたと思います。今後、もっと多くの学生役員が大会運営に携わって様々な経験をする中で、「“ソフトボールを楽しむ”ためには、“プレイする能力”だけでなく、“支える（企画・運営する）能力”も必要である」ことが実感できるようになることを願っています。在学中にそのような観点でソフトボールに関われるようになれば、大学ソフトボールを経験した者は、ソフトボール界においても一層重要視されるようになるのではないかと個人的には思っています。そのためにも、大学選手権大会はもちろんですが、日頃の地区での活動についても学生自身がより一層主体的にやっっていかなばなりません。そして、その財産を持ち寄り話し合うことは、年に数回しか顔を合わせない学生役員ですが、全日本大学ソフトボール連盟の発展にもつながると信じています。

【報 告】 インカレに関する調査結果について

東海地区常任理事 水 谷 博（中京女子大学）

はじめに 第39回のインカレは東海地区の富士宮市において開催されました。来る平成18年には第41回大会が豊橋市で開催されます。東海地区としては全国から厳しい予選を勝ち抜いてお集まりいただく選手・監督の皆さんに、最高のパフォーマンスが発揮できるよう開催地の協会とともに努力してまいりましたし、第41回大会においてもその努力を惜しみません。インカレの開催・運営に係わる諸問題の解決については、地元の努力だけで成し遂げられるものばかりではありませんが、その方向性を見いだすことの意義は大きいと考えられます。そこで、今回の第39回大会に参加された男女56チームを対象に、「インカレに関する調査」を郵送法によって行いました。主な調査内容は、組み合わせ抽選方法・大会日程・開会式・グラウンド・練習会場・宿舎・広報などに関するものです。調査用紙は、9月17日に発送し、10月10日までに返送されたものを分析の対象にしました。大学名を記名しなければならない調査用紙であったのも拘わらず、40チーム（回収率71.4%）から回答がありました。記して御礼申し上げます。

調査結果 調査結果の分析にあたっては、回答チームの大会成績（ベスト8以上を上位とそれ未満を下位）・チーム所在地（東日本と西日本）・種別（男女）・回答者（教職員と学生他）・インカレ出場回数（10回以上とそれ未満）の5項目を分析軸としました。回答のあった全40チームの内訳については、表1に示しました。

表1. 回答チームの内訳

項目	大会成績		地域		種別		回答者			出場回数	
	上位	下位	東	西	男子	女子	教職員	学生	その他	以上	未満
実数	13	27	18	22	20	20	9	29	2	26	14
%	32.5	67.5	45.0	55.0	50.0	50.0	22.5	72.5	5.0	65.0	35.0

1. 組み合わせ抽選方法

今回初めて行われたフリー抽選に対する回答については、表2に示しました。

表2. 組み合わせ抽選方法に対する意見 () 内%

地域	これでよい	地域性の考慮	予選順位の考慮	両方の考慮	その他	計
東日本	12 (66.7)	0 (0.0)	2 (11.1)	2 (11.1)	2 (11.1)	18 (100)
西日本	5 (22.7)	10 (45.5)	2 (9.1)	4 (18.2)	1 (4.5)	22 (100)
計	17 (42.5)	10 (25.0)	4 (10.0)	6 (15.0)	3 (7.5)	40 (100)

P < 0.01

現状を肯定する意見は半数に満たず、地域性や予選順位の考慮を希望する意見が過半数を占めていました。しかし、これには東西で1%水準で有意差が認められ、東日本のチームは現状肯定が3分の2を占めるのに対し、西日本のチームは地域性の考慮を望むのが半数近くを占めていました。その他の分析軸での有意差はありませんでした。

2. 大会日程

大会日程については、男女で決勝戦の日が異なったことと1日の試合数などについて尋ねました。前者については、「やむを得ない」とする回答が大多数を占めていましたが、下位チームでは「同日にすべき」が3分の1以上あり、これには5%水準で有意差が認められました。後者については、表3に示したように、「1日1試合」を肯定する意見が大多数を占め、「1日2試合の方がよい」とする意見はごく少数でした。これには、いずれの分析軸でも有意差は認められませんでした。

表3. 1日の試合数に対する意見 () 内%

これでよい	準決勝も1試合	2試合でもよい	2試合の方がよい	計
18 (45.0)	14 (35.0)	6 (15.0)	2 (5.0)	40 (100)

また、午前中に開会式、午後に試合という日程については、表4に示したように、反対意見が多数を占めましたが、男子チームは意見が割れました。実際には行っていない女子チームに非常に多くの反対意見がみられ、これには5%水準で有意差が認められました。さらに、ナイター試合については、「あってもよい」とする意見は4割で、反対意見が過半数を占めていました。

表4. 開会式の日程

種別	よい	よくない	計
男子	10 (50.0)	10 (50.0)	20 (100)
女子	3 (15.0)	17 (85.0)	20 (100)
計	13 (32.5)	27 (67.5)	40 (100)

P < 0.05

3. グラウンド

グラウンドについては、インカレでは今回初めてであったグリーンサンドとその選手による整備について尋ねました。前者の回答は「問題ない」というものが9割でした。教職員と学生ではない監督の回答では、二人のうち一人が「避けるべき」とし、回答者でのみ5%水準で有意差が認められましたが、これは、回答者の少なさによる偏りであり、特に問題とするべきことではないと考えられました。また、選手によるグラウンド整備の時機は、今回から行うようにした「フィールドイング終了後」でよいとする意見が8割5分を占め、これも特に問題はないようでした。

4. 練習会場

どの大会でも問題になるのが、この練習会場と宿舎のことです。この調査では、練習会場については、練習時間・会場の広さ・宿舎からの距離・試合会場への距離の4項目について尋ねましたが、いずれの回答も「適当だった」とするものが7割から7割5分を占め、ほぼ問題はないようでした。ただ、大会成績が下位であったチームに練習時間の短さを訴える回答が3分の1を占めて、他の分析軸とは異なる傾向（そう回答するチームは4分の1以下）を示していましたが、有意差は認められませんでした。

5. 宿舎

宿舎については、料金・食事・会場までの距離の3点を質問しました。いずれの項目に対しても否定的な意見は少なく、大方のチームには支障がなかったようでした。特に、食事については、「普通だった」（17チーム・42.5%）より「よかった」（18チーム・45.0%）の方が多く、「よくなかった」とする回答が皆無であったのは注目されました。しかし、料金の高さを訴える回答は14チームで35.0%、宿舎からの遠さを訴える回答は8チームで20.0%認められ、すべてのチームに満足いただくためには細かな配慮がまだまだ必要なことを感じさせられました。なかでも、自由記述欄に「旅館の入浴時間が午後9時まででナイター終了後に入浴ができなかった」とする回答が1チームあり、今後課題を残しました。なお、今回の調査では、宿舎の確保方法については調査しませんでしたので、その違いによる満足度は把握できませんでした。

6. 広報

試合会場では、静岡県記録委員会のご尽力と地元高校生ボランティアの協力で、試合中の両チーム打順表と試合結果の速報が配布され、周知されているようでした。また、学連HPには、イニングスコアとともに戦評まで即日アップされていましたが、大会期間中から閲覧していたチームは4、終了後に閲覧したチームは24で、合わせて7割でした。男子決勝戦が行われた1日のアクセス数は1400を超え、過去最高を記録しました。

結語 自由記述欄にまでご記入いただいたチームが全体の7割あり、回答以外でも多くの示唆を得ることができました。その中で、学連連絡会議は不要とする意見が4チームからありましたが、これはプログラムへの記載不備等が多く、監督主将会議をスムーズに行うためにやむを得ず始まったものと聞いております。開催地区が関与することではありませんが、出場チームのご理解をお願いいたします。再来年度の開催地区としては、主催者とともに、日程の組み方や練習会場の確保に工夫を凝らし、年に一度の学生のチャンピオンシップを争うのにふさわしい大会にしたいと存じています。選手諸君諸姉が最高のパフォーマンスを発揮したいと思うのと同様に、私達も最高の大会にしたいと思っています。ご協力に感謝するとともに、今後のご指導ご鞭撻をお願いして結語といたします。

【研究紹介】ソフトボール・ウインドミル投法における 投球腕の動作分析

福 島 豊 司（東京大学大学院）

【目的】ウインドミル投法は投球腕を一回転させて投球するため、肩、肘、手関節などの動きを伴う。しかし、この投法において投球腕の動きを連続的、定量的に求めた研究報告は少ないようである。本研究の目的は、ウインドミル投法を行う投手の投球腕の動きの3次元解析から、被験者間のボール速度の違いを説明する要因を明らかにすることである。

【方法】被験者は成人男子7名で、国体少年の部で準優勝経験のある投手から、クラブチームとして県の大会に出場している投手まで、技術水準は様々である。2台の高速度ビデオカメラ（400コマ/秒）を用いて、被験者の投球腕を中心に、ボールが肩と同じ高さで最後方に達したときから、フォロースルーまでを撮影した。映像から得られた座標データをもとに、ボール速度、投球腕の各セグメントや関節の運動を算出した。さらに、ボールの肩に対する相対速度と投球腕のセグメントの運動や関節運動との相関係数を求めた。

【結果と考察】本研究でのボール速度は27.9～21.4 m/sであった。ボール速度とボールリリース時の投球腕側の肩の速度は低い相関（ $r=0.22$ ）を示した。つまり、被験者間のボール速度の違いに、ボールリリース時の肩の速度はほとんど影響を及ぼしていないことを意味している。そこで、投球腕の動きと、リリース時のボールの肩に対する相対速度との相関をみると、肩関節内旋のリリース角速度が最も高い相関（ $r=0.73$ ； $0.05 < p < 0.10$ ）を示した。肘が屈曲した状態で内旋動作を行うと、手関節は水平方向に速度をもち、ボール速度に貢献できる。内旋角速度の大きな被験者の肘関節がより伸展位にある傾向はみられなかった（ $r=-0.09$ ）ことから、リリース時の内旋動作そのものがボール速度の違いに大きく影響していると考えられる。従って、被験者間のボール速度の違いを説明する要因のひとつとしては、内旋の角速度が挙げられる。つまり、ボール速度の大きい被験者は、肘関節をやや屈曲させた状態で素早い内旋動作を行うことで、ボール速度を増大させている可能性が示唆された。ボール速度が25m/sを超える被験者では、前腕と大腿部の接触後、内旋と掌屈の角速度がピークを示したことから、接触動作がこれらの角速度増大に貢献している可能性がある。接触動作によるボール速度増大の有無、及びその機構の解明は今後の研究課題である。

【まとめ】本研究では、ソフトボール・ウインドミル投法の投球腕の動作分析を行った。その結果、ボール速度とボールリリース時の肩の速度の投球方向成分との相関が低かった。そこで、投球動作後半において、ボールの肩に対する相対速度と投球腕のセグメントの運動や関節運動との相関をとった結果、ボールリリース時の肩関節内旋角速度と最も高い相関が得られた。内旋角速度の大きな被験者の肘関節がより伸展位にある傾向はみられなかったことから、被験者間のボール速度の違いを説明する主要因の一つとして、ボールリリース時の肩関節内旋角速度が考えられる。

【卒業論文】女子ソフトボールに適した体力指標の開発

宮崎有紀子(姫路工業大学環境人間学部 平成17年3月卒業予定)

末井健作(兵庫県立大学)・板谷昭彦(園田学園女子大学)

【目的】

ソフトボール競技は、「投げる」「捕る」「打つ」「走る」といった基本動作から構成されている。この基本動作は、選手の形態的資質、基礎体力、ソフトボールに必要な技術的能力から構成されていると考えられる。ソフトボール競技においては、体力面よりも技術面が重要視される傾向にあり、練習の内容に体力面の強化がさほど取り入れられていないのではないと思われる。そこで本研究では、熟練者である女子ソフトボール選手の形態・体力の測定および運動能力テストを行い、競技力向上に大きく貢献すると考えられる女子ソフトボールに適した体力の指標として、評価基準を作成することを試みた。

【被験者および方法】

表1 被験者の身体的特徴

(平均値±標準偏差・N=51)

(1) 被験者

被験者はS女子大学の部員51名(3年間の延べ人数)である。被験者のソフトボール歴は7年~14年で、年齢は19~21歳の範囲にあった。被験者の身体的特徴を表1に示した。

(2) 測定項目

1. 最大酸素摂取量

自転車エルゴメーター(MONARK ERGOMEDIC Model 818e)と呼気ガス分析計AE-300S(ミナト医科学株式会社)を使用し、プロトコルは漸増負荷法を用いて測定した。

2. 等速性筋力の測定

BIODEX SYSTEM3(酒井医療株式会社)を使用し、利き腕側の肩関節、肘関節および膝関節の伸展筋力を測定した。いずれの部位も角速度は60°/sec(低速)、180°/sec(中速)、300°/sec(高速)の3つの速度で、椅座位姿勢で行った。

3. 握力、4. 上体起こし、5. 長座体前屈、6. 反復横とび、7. 立ち幅跳び、8. 50m走、9. ソフトボール投げ、10. 3塁打走(本塁から3塁ベースに到達する時間で評価するテスト)、11. シャトルスタミナテスト(直線10mを3分間往復走したときの距離で評価するテスト)、12. 全身反応時間

(3) 評価基準作成法

各体力測定結果の平均値と標準偏差から度数分布を求め、度数分布についてShapiro-Wilkの正規性検定を行った。正規性が認められた測定項目において5段階の評価基準を作成

身長 (cm)			159.4±5.3
体重 (kg)			56.9±5.8
体脂肪率 (%)			26.8±3.9
音響的骨評価値			3.272±0.287
筋厚 (cm)	上腕部	前部	1.48±0.40
		後部	2.29±0.82
	大腿部	前部	4.61±0.64
		後部	5.15±0.80
皮下脂肪厚 (cm)	上腕部	前部	0.55±0.23
		後部	0.66±0.24
	大腿部	前部	0.71±0.24
		後部	0.82±0.42
筋体積 (cm ³)	上腕部	前部	160.6±91.0
		後部	400.0±259.7
	大腿部	前部	1911.9±530.5
		後部	2417.5±796.4

した。

【評価基準】

5段階の得点表を表2に示した。ここでは、全身持久力・筋力・筋パワー・敏捷性・柔軟性・等速性筋力・ソフトボールに必要な運動能力について評価基準を作成した。これを参考に自己評価し、目標を設定することで体力トレーニングの向上に繋がるのではないかと考えられる。

表2 得点表

1) 全身持久力

得点	最大酸素摂取量(ml/kg)	シャトルスタミナテスト(m)
5	48.0以上	529以上
4	43.6～47.9	513～528
3	39.2～43.5	497～512
2	34.8～39.1	481～496
1	34.7以下	480以下

2) 筋力

得点	握力(kg)	上体起こし
5	40.6以上	49以上
4	36.0～40.5	41～48
3	31.4～35.9	33～40
2	26.8～31.3	26～32
1	26.7以下	25以下

3) 筋パワー

得点	立ち幅跳び(cm)
5	217以上
4	199～216
3	181～198
2	163～180
1	162以下

4) 敏捷性

得点	反復横とび(点)	全身反応時間(ms)
5	63以上	203以下
4	60～62	204～244
3	57～59	245～285
2	53～56	286～326
1	52以下	327以上

5) 柔軟性

得点	長座体前屈(cm)
5	61以上
4	53～60
3	46～52
2	38～45
1	37以下

6) 等速性筋力

①肩関節

得点	60° /sec	180° /sec	300° /sec
	伸展 (Nm/kg)	伸展 (Nm/kg)	伸展 (Nm/kg)
5	1.086以上	1.238以上	1.572以上
4	0.870～1.085	0.978～1.237	1.179～1.571
3	0.654～0.869	0.718～0.977	0.786～1.178
2	0.438～0.653	0.458～0.717	0.393～0.785
1	0.437以下	0.457以下	0.392以下

②肘関節と③膝関節は省略

7) ソフトボールに必要な運動能力

得点	50m走(秒)	3塁打走(秒)	ソフトボール投げ(m)
5	7.12以下	9.22以下	60.96以上
4	7.13～7.48	9.23～9.58	53.46～60.95
3	7.49～7.84	9.59～9.94	45.96～53.45
2	7.85～8.20	9.95～10.30	38.46～45.95
1	8.21以上	10.31以上	38.45以下



白球が青空に舞う。音が消え時間が止まる。

おとずれるクライマックス。どよめきが起り、

ためいきがもれる。

一球に笑い、一球に泣く、ホットなドラマ。

naigaiのボールは、永年の経験が
うみだす信頼のブランド。品質に対する情熱の
ドラマがいきづく一球です。

ガンバレ！白球ドラマの主人公たち。

いま、熱いドラマが始まる。



NAIGAI SOFTBALL

(財)日本ソフトボール協会検定球 検定1号・2号・3号・皮製3号・14インチ



NAIGAI BASEBALL

(財)全日本軟式野球連盟公認球 A号・B号・C号・D号・H号

内外ゴム株式会社

第1回世界女子大学選手権大会

会期：2004年10月26日（火）～10月31日（日）

会場：アメリカ・フロリダ州・プラントシティ

1. 予選リーグ戦

参加国	AUS	カナダ	中国	台湾	GTM	日本	NTL	USA	勝	負	順
A U S	●	○	○	○	○	●	○	●	4	3	5
カナダ	○	●	○	●	○	○	○	●	5	2	3
中国	●	●	●	●	○	●	○	●	2	5	6
台湾	●	○	○	○	○	○	○	○	6	1	1
グアテマラ	●	●	●	●	○	●	●	●	0	7	7
日本	○	●	○	●	○	○	○	●	4	3	4
オランダ	●	●	●	●	○	●	○	●	1	6	7
U S A	○	○	○	●	○	○	○	○	6	1	2

10月26日14:30～ アメリカ：0000200:2
 日本：0000000:0 ●松村-小森

19:15～ カナダ：0000005:5
 日本：0000021:3 後藤・●松村-小森
 【二塁打】古渡 【三塁打】宮下

10月27日10:00～ 日本：0000013:4 ○後藤-小森
 オランダ：0000000:0
 【二塁打】小森

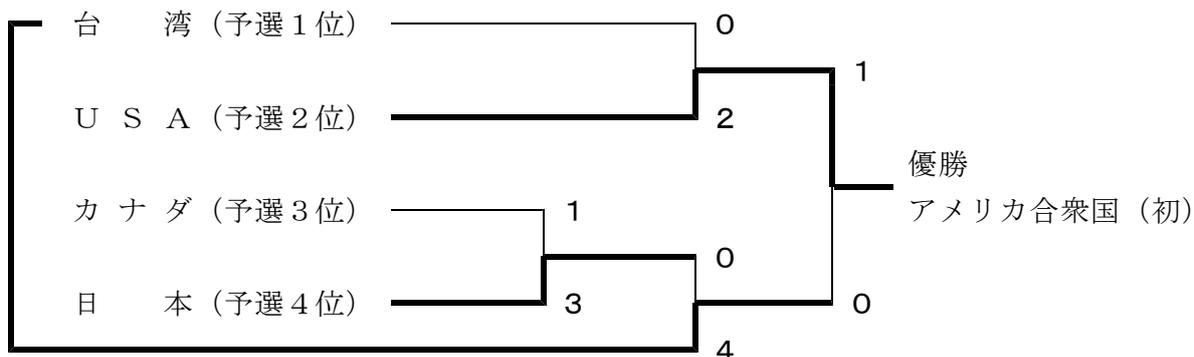
19:00～ 中国：0000000:0
 日本：020022x:6 ○松村・五島-小森
 【二塁打】酒井

10月28日9:00～ グアテマラ：00000:0
 日本：3132x:9 ○金尾・中村-小森・鮫島
 【二塁打】竹野・松村・小幡

12:00～ 日 本：01000000：1 ●後藤ー小森
 台 湾：10000001x：2
 【二塁打】竹野・松村

10月29日10:00～ オーストラリア：000000000：0 後藤・村松・○五島
 日 本：000000001x：1 ー小森・鮫島・小森
 【二塁打】小森 【三塁打】古渡

2. 決勝トーナメント (プレイオフ)



10月30日18:00～ 日 本：0002100：3 ○後藤ー小森
 カ ナ ダ：0000100：1
 【二塁打】小森

10月31日11:00～ 日 本：0000000：0 ●後藤・松村・五島
 台 湾：003001x：4 ー小森・鮫島・小森
 【二塁打】白井

3. 最終順位

- | | |
|-------------|-------------|
| 優 勝：アメリカ合衆国 | 5 位：オーストラリア |
| 準優勝：台湾 | 6 位：中国 |
| 3 位：日本 | 7 位：オランダ |
| 4 位：カナダ | 8 位：グアテマラ |

4. 第2回世界女子大学選手権大会
 2006年に台湾において開催予定



第3回アジア女子ジュニア大学選手権大会

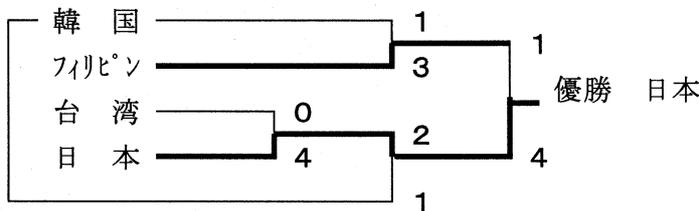
会期：2004年5月27日（木）～10月30日（日）

会場：韓国・仁川

1. 予選リーグ戦

参加国	日本	台湾	韓国	タイ	フィリピン	勝	敗	順位
日本	●	○	○	○	●	2	2	4
台湾	○	●	○	○	●	2	2	3
韓国	●	○	●	○	○	3	1	1
タイ	○	●	○	●	○	0	4	5
フィリピン	○	○	○	○	●	3	1	2

2. 決勝トーナメント



3. 詳細

(財)日本ソフトボール協会広報委員会のご厚意により、協会機関誌「JSAソフトボール」第254号の一部を転載させていただきました。

去る5月27日（木）～30日（日）、第3回アジア女子ジュニア選手権が、韓国・仁川で開催された。日本は、'97年の第1回大会（インド・チェンナイ/7カ国が参加）で白鷗大足利高（栃木）が日本代表として出場。完全優勝を飾っているが、第2回大会は他の国内大会とのスケジュール調整に折り合いがつかず不出場。久々の大会出場となった。

この第3回アジア女子ジュニア選手権は、大学生のジュニア世代を対象に選手選考を行い、チームを編成したが、この時期は各種全日本大会の各地区予選や大学のリーグ戦などのスケジュールが目白押し。それぞれのチーム事情もあって選手選考は難航したが、何とか大会出場にこぎつけた。

5月25日（火）、12時30分に成田空港に集合。初めて全員が顔を合わせ、自己紹介もそこそこに15時ちよほどの成田発JAL955便に乗り込み、大会の開催地である韓国・仁川へと飛び立った。

大会には、ホスト国の韓国をはじめチャイニーズ・タイペイ、タイ、フィ

リピン、日本の5カ国が参加。まずシングルラウンドロビン方式（1回戦総当たり）の予選リーグを行い、上位4チームがページシステム（敗者復活戦を含むトーナメント）で行われる決勝トーナメントに進出する試合方式で行われた。

5月27日（木）、大会が開幕。日本は初戦のチャイニーズ・タイペイ戦を2-4の逆転負けで落としたものの、ダブルヘッダーとなった韓国戦は9-2で大勝。

翌28日（金）は雨のため順延。再びダブルヘッダーとなった29日（土）は、タイに16-0と4回コールド勝ちを収めたものの、勝てば予選リーグ1位通過が決まる大事なフィリピン戦に0-1とまさかの完封負け。一気に4位に転落し、決勝トーナメント進出こそ決めたものの、優勝するには3連勝するしか道はなくなった。

大会最終日となった30日（日）、9時から予選リーグ3位のチャイニーズ・タイペイと対戦。千田えりか（東海学園大/愛知）の本塁打などで3点を挙げ、金尾和美（日本体育大/東京）、増田恵莉（東海学園大/愛知）の継投でチャイニーズ・タイペイ打線に得点を許さず、3-0で勝利を収めた。

日本は休む間もなく、11時から1位・2位戦でフィリピンに敗れた韓国と

第3回アジア女子ジュニア選手権

対戦。息詰まる投手戦を展開し、両チーム無得点のまま、延長タイブレーク1に突入。8回、先攻の韓国に1点を先制されたが、その裏、日本は土壇場で驚異的な粘りを見せ、1-1の同点に追いつくと、最後は高橋あゆみ(日本体育大/東京)が執念のヒットエンドラン。好投の辻恵理子(大阪国際短大/大阪)が逆転サヨナラのホームを踏み、熱戦に終止符を打ち、決勝進出を決めた。

こうなると日本の勢いは止まらず、トリプルヘッダーとなったファイナルでも投打が噛み合い、フィリピンを圧倒。4-1で勝利を飾り、鮮やかな3連勝で優勝を勝ち取った。

吉野みね子監督(東京女子体育大/東京)、板谷昭彦コーチ(園田学園大/兵庫)は、「予選リーグ最終戦のフィリピン戦を落としたことで一気に苦しくなってしまったが、選手たちが本当によく頑張ってくれた。急造チームが試合を重ねるごとにチームとしてまとまり、トリプルヘッダーをものともしないたくましさは感動的でした。あつた」と、選手の健闘を異口同音に称えた。

日本選手団の団長を務めた日ソ協・甲佐清久副会長は、「選手が本当によく頑張ってくれた。また、日本が勝つだけでなく、ホスト国の韓国が予選

リーグ1位、最終的にも3位という好成績を残したことも喜ぶたい。日韓交流事業などを通じてともに強化に励んできたことが実を結んだのだと受け止めているし、今後も自国の利益だけでなく、アジア全体を視野に入れ、アジアの友人たちと手を携えて、ソフトボールの普及・発展とレベルアップのために力を尽くしたい」と、この大会の成果を語った。

シニア・ジュニアを通じて、韓国が国際大会で予選リーグを突破したのは初めてのことで、ホスト国として開催したこの大会での「快挙」を、ことのほか喜んでいった。

また、「この結果は日本のおかげ」とまで語る関係者もあり、日韓交流事業をはじめとする国際的な交流や強化策が徐々にではあるが、着実に成果として現れはじめている。そして、窮地に追い込まれながら、優勝まで登り詰めた日本の「底力」は紛れもなく本物で、中学生・高校生の優秀選手研修合宿の実施をはじめとするジュニア世代の地道な強化がこの結果に結びついたといえるだろう。

アジアで、さらには世界で、リーグ1シッブを執ることが期待される日本。日本の進むべき道、その方向性がこの大会によってより鮮明になった気がする。

(文責/編集部)

●全試合結果

《予選リーグ》

チャイニーズ・タイペイ	0 0 0 0 4 0 0 0	4
日本	0 1 0 1 0 0 0 0	2

(日) ●金尾・竹田―千田

▽国加茂

韓国

日本	0 0 0 0 2	2
日本	5 1 0 0 3x	9

※5回得点差コールド

(日) ○辻―千田

▽国金尾 国宮、加茂、佐々木

日本

日本	3 6 4 3	16
タイ	0 0 0 0	0

(日) 金尾・○増田・竹田―千田

※4回得点差コールド

▽国加茂、高橋

国千田、高橋、佐々木、金尾

日本

日本	0 0 0 0 0 0 0 0	0
フィリピン	0 0 0 0 0 1 0 X	1 0

(日) ●増田―千田

▽国佐々木

《予選リーグ順位》

- 1位 韓国(3勝1敗)
 - 2位 フィリピン(3勝1敗)
 - 3位 チャイニーズ・タイペイ(2勝2敗)
 - 4位 日本(2勝2敗)
 - 5位 タイ(0勝4敗)
- ※1位・2位、3位・4位の決定は、当該チームの対戦成績による。

《決勝トーナメント》

《3位・4位戦》

チャイニーズ・タイペイ	0 0 0 0 0 0 0 0	0
日本	0 2 1 0 0 0 X	3

(日) ○金尾・増田―千田

▽国千田

韓国

韓国	0 0 0 0 0 0 0 1	1
日本	0 0 0 0 0 0 0 2x	2

(日) ○辻―千田

《ファイナル》

フィリピン

日本	0 0 0 0 0 0 0 1	1
日本	0 2 1 0 1 0 X	4

(日) ○金尾―千田

▽国佐々木

文部科学大臣杯第39回全日本大学男子ソフトボール選手権大会

会期：平成16年8月25日(水)～8月28日(土)

会場：静岡県富士宮市静岡県ソフトボール場他

大会感想

第39回全日本大学男子ソフトボール選手権大会は、厳しい予選を勝ち抜いた全国の精鋭32チームが静岡県富士宮市に会して覇権を争った。メイン会場の静岡県ソフトボール場は平成10年の第9回女子世界選手権、更に昨年のわかふじ国体の成年男子の競技が行われたグラウンドで、その規模・設備は日本一というより世界一であるとのこと。選手諸君は日頃鍛えた技量を発揮するには絶好の晴舞台であった。25日の開会式は静岡県ソフトボール場で行われた。男女合同の開会式で、参加56チームが堂々の入場、開会宣言、国旗掲揚、優勝杯・優勝旗返還、主催者挨拶、歓迎の言葉と形どおりだが、厳粛な雰囲気の中スピーディに進められ、最後の選手宣誓は参加選手を代表して地元常葉学園大学主将山崎良選手が行い、互いの健闘を誓い合った。

メイン会場の静岡県ソフトボール場は勿論、立派な観覧席があるが、隣接する山宮ふじぎくろ競技場も周囲がグラウンド面より高く観覧席もあるので、見物や応援に適していて、大会期間中は多数の市民の来場、応援する部員、先輩後輩の交流等で賑わい、歓声や声援で活気に溢れていた。

本大会は例年その様であるが、各チームの力の均衡が今ひとつ取れていず、ワンサイドゲームが目立った。また、昨年の準優勝校早稲田大学が2回戦で敗退した以外、番狂わせもなかったと言える。

ソフトボール競技としてはやや大味な試合が多かったという印象で、たとえば得点差によるコールドゲームが31試合中7試合もあり、更に準決勝戦は両試合ともに11対1の一方的な試合であったことは、一旦歯車が狂うと歯止めがきかない、チーム力が不安定なチームが目についた。

競技の最終結果は五連覇を目指す日本体育大学と35年ぶり2度目の優勝を窺う国士舘大学の激突となり、互いに譲らず0対0のまま7回裏に突入、それまで無安打であった国士舘大学が先頭打者3番照井が中前安打で出塁、犠打と内野ゴロで二死三塁とし、6番夜能條への初球の暴投で生還、劇的なサヨナラ勝ちとなり宿願の栄冠を手中にした。一方の日本体育大学山尾投手はその好投に味方の援護もなく、最後はまさに痛恨の1球に泣いたと言えよう。(記録長 矢島敏克)

主な記録・印象に残った選手

〈投手〉国士舘 照井賢吾(18イニングス 防御率0.78 3勝)、国士舘 小田澤直紀(12イニングス 防御率0.58 2勝)、日本体育 山尾竜則(17.2/3イニングス 防御率0.79 1勝1敗)

※無安打無得点試合 国士舘 照井賢吾(対国際武道)

〈打者〉福岡 平山靖(最高打率.636 11-7)、日本体育 杉山浩之(打率2位.556 18-10)、日本体育 山崎均(打率3位 .533 15-8)、立命館 尾崎和登(打率4位

.500 10-5)

※本大会の本塁打は54本である。又、本大会でそれぞれ3本の本塁打を放ったのは立命館 長岡孝、福岡 平山靖の2名であった。(記録長 矢島敏克)

大会総評

国士舘大学 35年ぶり、宿願の優勝 おめでとう!!

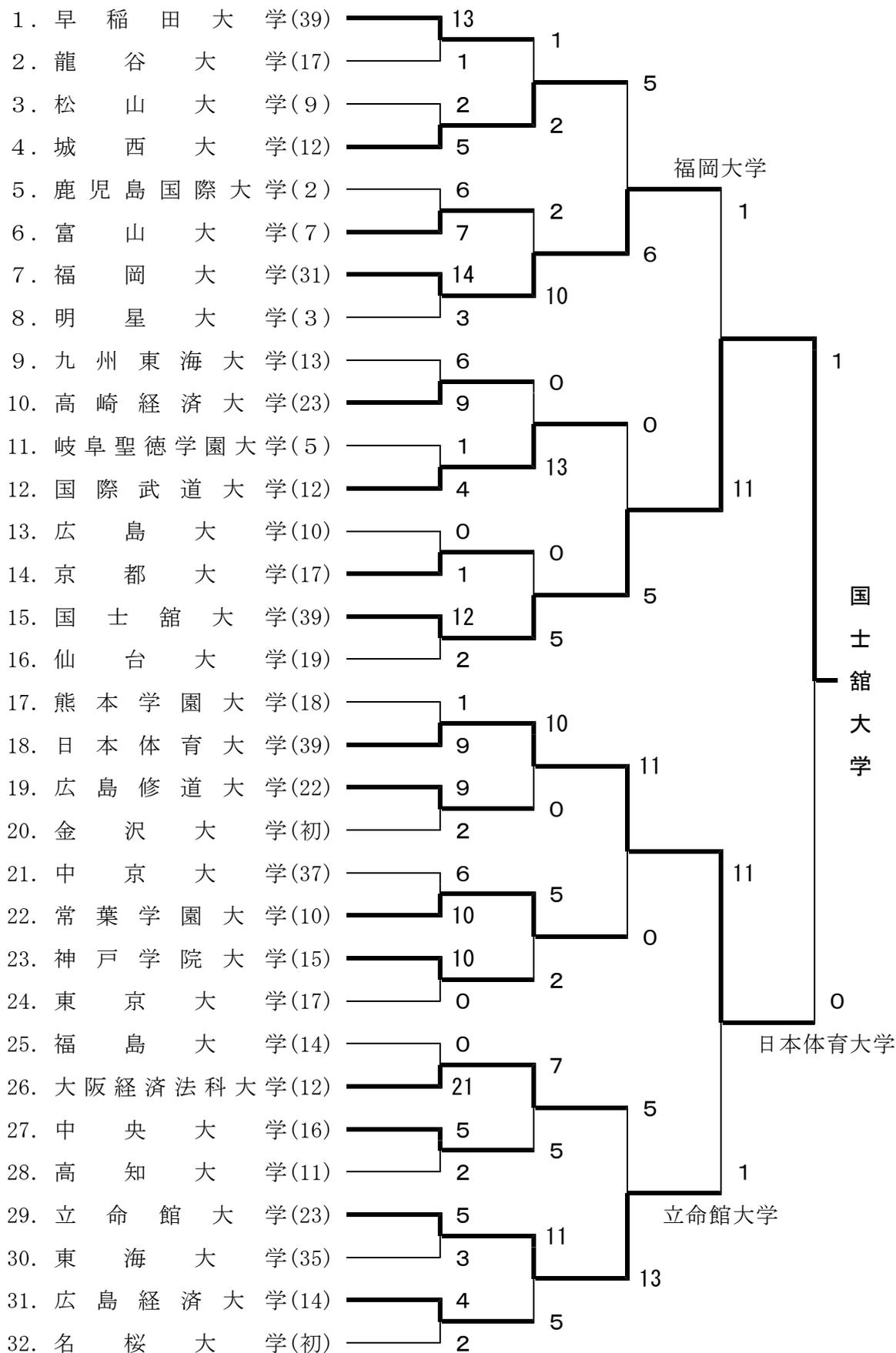
今大会は、従来のインカレとは異なる面が取り入れられた。組み合わせ抽選の完全オープン化と大会期間の延長がその最たるものである。前者は学連がインカレをチャンピオンシップとしての位置づけを強化しようとするものであり、後者は開催地の事情によるところが大きかった。そして、立派な球場と多数の観客に支えられて盛り上がった大会となった。

大会は午前中の開会式に引き続き、午後1時から1回戦が5球場で一斉に開始された。第2試合の岐阜聖徳学園大学と国際武道大学の試合は、東日本・西日本の準優勝チーム同士の対戦で注目されたが、国際武道大学がタイブレーカーで2回戦へ駒を進めた。また、組み合わせ抽選の結果、東海地区のライバル校である常葉学園大学と中京大学との東海ダービーは、ともに4本ずつの本塁打が飛び出す打撃戦となったが、地元常葉学園大学が打ち勝った。さらに、初の試みであった19時試合開始のナイトゲーム3試合は、うち2試合が球場周辺住民の方への配慮からサスペンデットになり、今後課題を残した。翌26日の2回戦では、昨年準優勝で本大会でも優勝候補にあげられていた早稲田大学が城西大学に1点差負けし、涙を呑んだのが注目された。また、2回戦突破校は、関東勢・東京・近畿が各2、東海・九州が各1で、東西に2分すれば4校同士となり、地域性を考慮しなかった組み合わせであることから思えば、興味深い結果になった。続く27日の3回戦4試合はほぼ順当な結果であったが、うち2試合が二桁得点、1試合は11点差のコールドゲームというのは大会の緊張感を失わせて残念であった。

最終日の28日まで残った4校は、福岡大学・国士舘大学・日本体育大学・立命館大学であり、いずれも本大会での優勝や準優勝の経験がある古豪の強豪校であった。しかし、準決勝2試合は大きな点差で東京の2校が決勝へ駒を進めたのは意外であった。これは、国士舘大学と日本体育大学の力がずば抜けていたからに他ならない。その決勝戦は、緊迫した投手戦となり、本大会唯一長打のないソフトボールらしい息詰まるような試合であった。結果、一つのワイルドピッチで35年ぶりに国士舘大学の上に栄冠が輝いた。しかし、これだけが注目されるのではなく、そうなるまでには強力な打線はもとより、フェンスを越えた打球を逆シングルでもぎ取った松崎中堅手のプレイに代表される堅実な守備力があつたからに他ならない。この試合も勿論失策0であった。過去6度、いずれも日本体育大学に決勝戦で敗れての2位があつたが、これでシルバーメダル・コレクターの汚名を見事に返上した。心から拍手を送りたい。

なお、本大会で気になったことは、本塁打54本という長打の多さだけではない。2時間を超える試合が10、1時間50分台の試合は12、これらが3分の2以上を占めるという試合時間の長さである。年に1回のインカレ、勝負にこだわるのは十二分に理解できる。しかし、野球とソフトボールの違いは、ボールと球場の大きさだけではない。ソフトボールの本質は野球にはないスピードである。一考を促したい。(東海地区常任理事 水谷 博)

大会結果



※ () 内は出場回数で、校名変更のあった大学は以前の名称での出場も含む。

★第1日目（8月25日・1回戦）

No.1 【試合時間】1時間56分

龍谷大学：00010：1 ●長池和也ー門田空士

早稲田大学：11020x：13 ○中島幸紀・高原辰徳ー橋内基純

【本塁打】橋内基純・新井悠馬（早） 【二塁打】吉村幸彦・浅川拓也（早）

早稲田 初回の11点で試合を決める。

早稲田大学は相手投手の立ち上がりの乱投に乗り、2四球と内野安打で無死満塁から新井の犠飛で先取点を挙げ、なおも5四死球と2本塁打など、初回打者14人を繰り出して、11得点を挙げた。3回にも2点を加えて5回コールド勝ちを収めた。

一方、龍谷は、相手2投手に10三振を喫し、敵失で1点を返すのが精一杯であった。

（記録員 遠藤孝行）

No.2 【試合時間】1時間45分

松山大学：0002000：2 ●森山敦朗ー山根和也

城西大学：000140x：5 ○加藤潤一ー稲木香介

【三塁打】植松洋介（城） 【二塁打】小田巻竜也（城）

城西 逆転勝利で2回戦進出を果たす。

城西大学は、4回裏無死一二塁を確実に犠打で走者を進め、七番金田の遊ゴロの間に1点を返し、5回には、九番富井の四球を足掛かりに一番吉村、二番高橋の連続安打等で同点とした。さらに、四番植松の三塁打で2点を加えて逆転し、六番小田巻の安打で1点を加えた。

一方、松山大学は4回表に三番中田、四番井関の連続安打と遊撃手の一塁への悪送球の間に2点を先行したが、相手加藤投手から10三振を喫し、また、チャンスに後続がなく敗退した。（記録員 堀場敏之）

No.3 【試合時間】2時間03分

鹿児島国際大学：2100300：6 ●山中 卓ー松下大輝

富山大学：0005002x：7 西村真一・○雨宮麗太ー伊藤智仁

【三塁打】若松 慎・田中健太（鹿）、山田雅東（富） 【二塁打】上園康弘（鹿）、岡田 侑（富）

富山大 逆転サヨナラ

鹿児島国際大学は、初回、富山大学西村投手の立ち上がりを攻め、2点を先制して序盤をリードするも、4回に富山大学は、連続死球と五番鈴木の内野安打、八番山田の中前安打と中堅手の失策などで5点を挙げて逆転した。5回に鹿児島国際大学は2つの四球と3連続安打で再度逆転するが、富山大学は最終回、敵失と野選をからめて2点を追加、逆転サヨナラで初戦を突破した。（記録員 多湖初美）

No.4 【試合時間】1時間24分

明星大学：00300：3 ●桑名俊介・兵藤憲二ー伊藤貴之

福岡大学：35024x：14 ○牛島孝士郎ー平山 靖

【本塁打】鈴木達朗・古賀啓雄（福） 【二塁打】吉田昌史（明）、浦野将喜・平山

靖・鈴木達朗（福）

福岡大 5回コールドで2回戦へ

初回福岡大学は、鈴木の本塁打をきっかけに浦野の二塁打等で3点を先取り、2回は鈴木の本塁打を含む5本の安打で5点を奪い、試合の主導権を握った。4回にも2点を追加し、5回代打古賀の本塁打でコールド勝ちを収めた。一方の明星大学は、吉田の二塁打で3点を返すのが精一杯で、要所で三振を5個奪われ、なすすべなく涙を飲んだ。（記録員 石塚俊明）

No.5 【試合時間】 1時間55分

九州東海大学：0031020：6 平江慶太・●穴見講生－藤本卓

高崎経済大学：231003x：9 佐土原剛・○高橋元太－降矢亮太

【本塁打】中山善量（九）、土屋徳太・薄 雅也（高） 【二塁打】土屋徳太・薄 雅也・庄野陽介（高）

高崎経済 執拗な追撃を振り切って2回戦進出

高崎経済大学は1回裏、一番土屋、二番薄が連続二塁打を放って先制し、五番高橋の三遊間を抜けるタイムリーで2点目を挙げた。2回裏には一番土屋が本塁打、3回裏には庄野の二塁打で加点した。同点とされた6回裏には二番薄が二死一塁で本塁打を放ち、なおも、バッテリー間の守備の乱れから1点を追加し、3点のリードを守りきった。一方、九州東海大学は、3回表四番中山の本塁打で反撃、6回表には2点を挙げて追いつくも、高崎経済大学の打力が勝り、力尽きた。（記録員 河合恵利子）

No.6 【試合時間】 2時間14分

国際武道大学：100000003：4 山本逸平・○西森彰悟－土居 猛

岐阜聖徳学園大学：100000000：1 ●藤本 充－小野寺瞬

【三塁打】高嶋親史・岸本健作（国）、長沢周一（岐） 【二塁打】伊芸要介・平良礼任（国）

国際武道 タイブレーカーの9回に一举3点を挙げて2回戦に駒を進める。

国際武道大学は1回、安打で出た平良を三番高嶋が三塁打で迎え入れて先行した。岐阜聖徳学園大学もすぐにその裏、三塁打の長沢を山崎の安打で同点とし、その後は緊張した投手戦が続いた。タイブレーカーの9回、国際武道大学は無死一・三塁から七番伊芸の二塁打でまず勝ち越し、二番平良の二塁打で2点を加えて3点差を付けた。その裏、西森投手は岐阜聖徳学園大学打線を3人で抑え、長い試合に決着を付けた。（記録員 土屋一夫）

No.7 【試合時間】 1時間53分

広島大学：0000000000：0 ●下村和義－森 善則

京都大学：000000001x：1 ○藤本義樹－宇野勝浩

【長打】なし

京大 延長9回 タイブレーカーを制して2回戦へ

京都大学は初回一死二塁、3回には無死一塁の好機を逃すなどして、両チーム無得点のまま迎えた延長9回裏、タイブレーカーの走者をバントで三塁へ送ると、藤本の二遊間安

打で待望の得点を挙げた。投げては藤本が2回を除く毎回の14奪三振の投球が光った。広島大学は走者を出したが、いずれも二死からで、後続が断たれ、下村の3安打9奪三振の好投に報いることができなかつた。(記録員 加藤 進)

No.8 【試合時間】2時間24分

国 士 館 大 学 : 0 3 3 1 0 0 5 : 12 ○照井賢吾ー山下貴史

仙 台 大 学 : 0 0 0 2 0 0 0 : 2 ●三浦伸太郎ー真壁輝旭

【本塁打】山下貴史・浦本大嗣(国)、佐藤 航(仙) 【三塁打】小田澤直紀・浦本大嗣(国)、尾形 敦(仙) 【二塁打】照井賢吾・河合陽之介・平良 求(国)、堤卓也(仙)

国士館 2本塁打を含む16安打12点の猛攻で大勝

国士館大学は2回表、無死一・三塁で七番小田澤の右中間三塁打で先制し、さらに犠飛で1点を追加した。続く3回にも3点を加え、7回表には6本の長短打と敵失で決定的な5点を奪い、相手の反撃も照井・村上両投手が10奪三振の2点に抑えた。仙台大学は4回裏、先発照井投手から三番佐藤の右中間本塁打等で2点を返したが、5回から二番手の村上投手に2安打無得点に抑えられて完敗した。(記録員 内野吉博)

No.9 【試合時間】2時間05分

熊 本 学 園 大 学 : 1 0 0 0 0 0 0 : 1 ●鶴田龍馬・別府慶太郎ー北岡純一

日 本 体 育 大 学 : 3 0 0 2 3 1 x : 9 ○山尾竜則・森 勇紀ー井上大輔

【本塁打】半谷善明(日) 【三塁打】高橋流星②(日)

日体大 効果的な攻撃で好調なスタートを切る。

日本体育大学は1点を先行された1回裏、敵失に安打をからめ、高橋の三塁打で逆転し、さらに山城の犠飛で3点目を入れた。4回には鶴田投手の制球の乱れを突いて2点を追加し、5回には半谷の3点本塁打でダメを押して試合を決めた。一方の熊本学園大学は先制したものの、その後調子を上げた山尾投手を打ちあぐね、散発4安打に抑えられた。7回、二番手の森投手を攻めたが後続を断たれ、完敗した。(記録員 丸山茂行)

No.10 【試合時間】1時間49分

広 島 修 道 大 学 : 0 0 7 2 0 0 0 : 9 ○井原幸法ー越智健介

金 沢 大 学 : 0 0 0 0 0 2 0 : 2 ●津田尊範ー谷口英次

【三塁打】光岡孝平・山田隼平(広) 【二塁打】井原幸法(広)

広島修道 効果的な攻めで快勝

3回表広島修道大学は四球・敵失で1点を先取。無死二・三塁から光岡の二塁後方への思わぬ三塁打で2点、さらに4本の長短打で4点、計7点を挙げた。続く4回にも相手守備の乱れに乗じて2点を追加し、試合を決定づけた。金沢大学も6回に2点を返したが、1回の無死満塁の先制の好機を逃がしたことが痛かつた。(記録員 桜井庸三)

No.11 【試合時間】2時間08分

常 葉 学 園 大 学 : 4 1 0 0 3 0 2 : 10 ○山田直人・古谷修平ー山崎 良

中 京 大 学 : 3 0 0 0 2 0 1 : 6 ●浦 宏和・金森慎也・高城将哲・服部

創・大内達則

一川井慎吾

【本塁打】石川 彬・梅田貴晶・鈴木翔也②（常）、清水雅仁・川井慎吾・田中直人②（中）

【二塁打】梅田貴晶・鈴木翔也（常）

常葉学園 4本塁打を含む11安打で乱打戦を制す。

常葉学園大学は初回、3四球で好機をつかみ、梅田・鈴木の連続二塁打で4点を先取した。その後も追いつがる中京大学を鈴木（2本）・石川・梅田の4本塁打で突き放し、圧勝した。中京大学は、初回到清水の2点本塁打などですぐに1点差に迫り、その後も3本の本塁打等で追撃したが、常に先行する常葉学園大学に追いつくことはできなかった。

（日比野一義）

No.12 【試合時間】1時間35分

東 京 大 学：00000：0 ●金森拓也・西川雅之―星野拓哉

神 戸 学 院 大 学：60103x：10 ○小藤 透・近沢 恵―川西克志

【二塁打】古見用太・橋本直幸（神）

神戸学院 コールドゲームで圧勝

神戸学院大学は1回、内野の3失策と金森投手の制球の乱れに乗じ、古見の二塁打等で大量6点を挙げた。さらに、3回に橋本の二塁打で加点し、5回には四死球等で3点を追加して計10点となり、コールド勝ちした。東京大学は2回、敵失・安打・四球で満塁にしたが後続はなく、その後も小藤投手の速球に抑えられ完封された。（記録員 池谷恵美子）

No.13 【試合時間】2時間06分

大 阪 経 済 法 科 大 学：70239：21 ○三好裕二・岩井裕一―西森淳平

福 島 大 学：00000：0 ●向川原令・柳沼康太―佐藤章貴

【三塁打】安井 健（大） 【二塁打】土居武史・北岡佑規（大）

大阪経法 相手投手の乱調に乗じて大勝

大阪経済法科大学は1回に8四球と2安打7点、4回には三塁打と二塁打を含む4安打で3点を追加、5回には代わった柳沼投手も四死球を連発、打者15人、9点を取り、コールド勝ちした。福島大学打線は5回二死から2連続安打したが、いかにも遅すぎ、三好・岩井の継投に4安打完封された。（記録員 鈴木完治）

No.14 【試合時間】2時間17分 サスペンデッド中断12時間28分

中 央 大 学：0002300：5 金丸真也・○横山智行―坂東雄志

高 知 大 学：0010100：2 ●中間友浩―橋本圭央

【本塁打】金丸真也（中）、中間友浩（高） 【三塁打】吉名正徳（高）

【二塁打】堀口和保（中）

中央 サスペンデッドゲームを逆転で制して快勝

3回表で時間切れサスペンデッドとなったゲームは、再開直後に1点を先制された中央大学が四回表、三番谷島が安打と盗塁により3進し、四番坂東の三塁強襲安打で同点に追いついた。その後も五番金丸が四球を選び、七番堀口の左翼前安打で逆転に成功した。ま

た5回には五番金丸の右翼越え本塁打等により決定的な3点を追加し、高知大学の追撃を1点に抑えて勝利を収めた。(記録員 池田雅彦)

No.15 【試合時間】1時間36分

立命館大学：0400100：5 ○森脇亮太ー市村 太
東海大学：0210000：3 ●大黒貴将ー猪股 要

【本塁打】長田 孝(立)、田辺郁生・猪股 要(東) 【二塁打】石井憲介(立)

立命館 序盤の大量点を守って逃げ切る。

立命館大学は2回表、四球・安打・敵失・野選で1点を先制後、九番石井が満塁の走者を一掃する左中間二塁打でこの回一挙4点を挙げた。5回にも長岡の本塁打で1点を追加した。一方、東海大学は、2回に田辺、3回に猪股の本塁打等で1点差に迫ったが、後半立ち直った森脇投手に抑え込まれ、早々と敗退してしまった。(記録員 杉本義明)

No.16 【試合時間】1時間54分 サスペンデッド中断11時間25分

名桜大学：0000200：2 ●奥間政吾ー仲嶺真里
広島経済大学：001021x：4 ○高垣裕吉ー滑 俊之

【本塁打】大城朝久(名)、渡辺健一・伊崎義宏(広)

【二塁打】奥間政吾(名)、渡辺健一・原 弘樹(広)

広島経済 一番渡辺の2日間にわたる活躍でサスペンデッドゲームを制する。

広島経済大学は、一番渡辺の先制本塁打で先行した。一時逆転された5回裏には、三番伊崎の2点本塁打で再逆転した。(ここで時間切れサスペンデッドゲームとなる。)翌日再開された6回裏にも、一番渡辺の適時打で貴重な追加点を挙げた。名桜大学は、5回に四番大城の2点本塁打で一旦は試合の主導権を手にしたかに見えたが、広島経済大学投手高垣の前に5安打に抑えられて惜敗した。(記録員 鈴木和広)

★第2日目(8月26日・2回戦)

No.17 【試合時間】1時間51分

早稲田大学：0010000：1 ●中島幸紀ー橘内基純
城西大学：200000x：2 ○加藤潤一ー稲本香介

【三塁打】構 真吾(早)

城西 先制攻撃で早稲田の猛追を振り切って殊勲の快勝

城西大学は1回、2つの内野安打と敵失で2点を先制し、追う早稲田大学の再三の好機を加藤投手が粘り強く投げ抜き、接戦をものにした。一方、早稲田大学は3回、二死からチーム初安打となる根ヶ山を一塁に置いて構が右中間を破る三塁打で1点を返した。その後、4回と7回に満塁まで攻め立てたが、後続を断たれた。中島投手が2回以降、城西打線を完璧に抑えていただけに、惜しまれる敗退だった。(記録員 池谷恵美子)

No.18 【試合時間】1時間51分

福岡大学：4500010：10 牛嶋孝士郎・○阿比留丈治・浦野将喜ー平山 靖
富山大学：0100001：2 ●西村真一・雨宮麗大・小林一三ー伊藤智仁

【本塁打】平山 靖(福)、伊藤智仁・山本一途(富)

【二塁打】浦野将喜（福）、鈴木駿平（富）

福岡 先制パンチで大勝

福岡大学は初回、平山の3点本塁打を含む4点、2回には打者一巡で5点を奪い、序盤で試合を決めた。中盤は両チームの投手が踏ん張ってしのいだが、6回福岡は浦野の二塁打による追加点を挙げ、試合を確実なものにした。富山大学は、相手が繰り出す3投手の前にいとうと矢本の2本塁打による2点に抑えられ敗れた。（記録員 日比野一義）

No.19 【試合時間】1時間38分

高崎経済大学：00000：0 ●砂土原剛・高橋元太ー降矢亮太・工藤 猛
国際武道大学：2119x：0 ○山崎拓登ー土居 猛

【本塁打】伊芸将志・知念大紀（国） 【三塁打】畠 久人・岸本健作（国）

【二塁打】岸本健作・高嶋親久（国）

国際武道 猛打爆発してコールドで準々決勝へ駒を進める。

国際武道大学は初回、先頭打者畠の四球を足掛かりに犠打と内野ゴロで二死三塁と走者を進め、この好機に四番伊芸将志が右中間越えに本塁打して先取点を挙げた。2回以降も知念の本塁打を含む長短10安打で11点を加え、内野守備陣の堅い守りと投手山崎の好投で圧勝した。一方、高崎経済大学は5回に2安打するのが精一杯で2回戦で涙を吞んだ。

（記録員 遠藤孝行）

No.20 【試合時間】1時間53分

国士舘大学：0100040：5 ○小田澤直紀・村上朋法ー河合陽之介・山下貴史
京都大学：0000000：0 ●藤本義紀ー宇野勝浩

【三塁打】平良 求（国）

国士舘 終盤の集中打で京大を破って8強進出

国士舘大学は、2回敵失で1点を先制。6回に1点を追加した一死満塁で二番平良の左中間三塁打で決定的な3点を追加し、試合の大勢を決めた。京都大学は、国士舘大学の小田澤・村上両投手の前に完全に抑えられ込まれ、走者を出せずに2回戦敗退となった。

（記録員 杉本義明）

No.21 【試合時間】1時間50分

日本体育大学：1004113：10 ○森 勇紀・柳沼孝志・山城一平・原田千尋ー井上大輔
広島修道大学：0000000：0 ●井原幸法ー越智健介

【本塁打】山崎 均（日） 【三塁打】山崎 均・山尾竜則（日）

日体大 投打にわたって広島修道を圧倒して8強へ駒を進める。

日本体育大学は1回、先頭楠本の四球を足掛かりとし、四番高橋の犠牲飛球で先制点を挙げた。4回には6安打を集中し、4点を追加して試合を決定づけた。守っては4人の投手リレーで、広島修道大学打線を無安打に抑え、勝利を収めた。広島修道大学は、日本体育大学の前につけているスキさえ見出せず、完敗を喫してしまった。（記録員 小島常夫）

No.22 【試合時間】2時間18分

常葉学園大学：1013000：5 ○古谷修平ー山崎 良
神戸学院大学：1000010：2 ●小藤 透・近沢 恵ー川西克志

【本塁打】杉山 惇・望月方史（常） 【二塁打】三浦和也（神）

地元常葉学園 2本塁打で8強進出!!

常葉学園大学は初回、杉山の先頭打者本塁打で先制し、3回には二死から3連打で1点を加え、続く4回にも一死一・三塁から代打望月の3点本塁打で突き放した。古谷投手は序盤から走者を背負いながらも要所を締め、ピンチの失点も最小に抑えた。神戸学院は初回、相手の失策ですぐに追いついたが、2回以降には出るものの決定打がなく、6回になって三浦の二塁打で2点目を取るのがやっとであった。（記録員 松本直巳）

No.23 【試合時間】2時間04分

大阪経済法科大学：4200100：7 ○三好裕二ー西森淳平

中央大学：2111000：5 ●横山智行・金丸真也ー坂東雄志

【本塁打】三好裕二（大）、横山智行（中） 【三塁打】堀口和保（中）

【二塁打】三好裕二・山田将平（大）

大阪経済法科 序盤のリードを守ってベスト8へ

大阪経済法科大学は初回、中央大学先発の横山投手の乱れを突いて、2四球と失策絡みの2点をもぎ取り、その後五番三好の左中間二塁打で計4点を挙げた。2回に2点、5回にも三好の本塁打で計7点とした。中央大学は4回までに小刻みに5点を返したが、立ち直った三好の前に惜敗した。（記録員 杉本義明）

No.24 【試合時間】1時間50分

広島経済大学：2000003：5 ●高垣裕吉ー滑 俊之

立命館大学：021701x：11 ○森脇亮太・小岩良行ー市村 太

【本塁打】滑 俊之（広）、長岡 孝・尾崎和登（立） 【三塁打】小原直樹（立）

【二塁打】立花大希・春日健太郎（立）

立命館 13安打の猛攻で快勝!!

初回に2点を先行された立命館大学は、2回に相手失策に乗じて同点にし、続く3回には四番尾崎の犠飛で勝ち越した。さらに4回には打者11人を送り、一番長岡の満塁本塁打、四番尾崎の2点本塁打等で一挙7点を加えて試合を決めた。広島修道大学は、初回に滑の2点本塁打で先行したものの、森脇・小岩両投手に7安打5点に抑えられて完敗した。（記録員 鈴木和広）

★第3日目（8月27日・準々決勝戦）

No.25 【試合時間】1時間49分

福岡大学：0002202：6 ○牛嶋孝士郎・阿比留丈治ー平山 靖

城西大学：0011012：5 ●加藤潤一ー稲木香介

【本塁打】佐々木栄治・浦野将喜・平山 靖（福）、後閑 雄（城） 【三塁打】黒木亮輔（福）

【二塁打】高橋康一（城）

福岡 激戦を制して準決勝に駒を進める。

福岡大学は4回、九番黒木の三塁打と一番鈴木のア打で逆転。5回、三番佐々木、五番平山の本塁打で2点を追加し、突き放した。また、7回、四番浦野が右翼越2点本塁打で

勝利を決定づけた。一方、城西大学は3回、八番後閑の本塁打で均衡を破る1点を入れ、4回に同点とした。6回1点を追加して1点差に追い上げ、さらに7回3本の安打で追撃するも、最後は二塁走者吉村が本塁憤死となり、惜しくも敗退となった。(記録員 堀場敏之)

No.26 【試合時間】 2時間15分

国 士 館 大 学 : 0001211 : 5 ○照井賢吾ー山下貴史

国 際 武 道 大 学 : 0000000 : 0 ●西森彰悟・山本逸平・山崎拓登ー土居 猛

【本塁打】照井賢吾(国) 【二塁打】浦本大嗣(国)

国士館照井投手ノーヒットノーラン達成 その投打に亘る活躍でベスト4へ

国士館大学は4回、三番照井の中堅越え本塁打で先制し、5回にも3四死球の満塁からまたも照井の右前田で2点、さらに6回、7回にも1点を奪い、勝利を手中に収めた。国際武道大学打線は、照井投手のコーナーを突く丁寧なピッチングになすすべもなく零封された。(記録員 村松勝一)

参考：内野ゴロ12、内野飛球2、外野飛球2、三振5、四球1、失策出塁1

No.27 【試合時間】 1時間41分

日 本 体 育 大 学 : 243002 : 11 ○山城一平・山尾竜則・原田千尋ー井上大輔

常 葉 学 園 大 学 : 000000 : 0 ●古谷修平・山田直人ー山崎 良

【本塁打】山崎 均(日) 【二塁打】楠本 圭(日)

日体大 二桁安打の6回コールドで圧勝

日本体育大学は初回、一番楠本が左翼越え二塁打を放ち、二番杉山の適時打で生還して先制。さらに相手投手の暴投で1点追加した。2回には山崎の右翼越えなどと相手守備の乱れにより計4点。3回にも四球と敵失が絡んで3点を挙げ、試合を決めた。守っては、山城・山尾・原田の3投手が9奪三振、1安打と好投した。常葉学園大学は、序盤に大量点を与えてしまい、佐藤の1安打で、3投手による無安打試合を免れるのが精一杯であった。

No.28 【試合時間】 1時間55分

立 命 館 大 学 : 1300513 : 13 ○森脇亮太・小岩良行ー市村 太

大 阪 経 済 法 科 大 学 : 0010031 : 5 ●三好裕二ー西森淳平

【本塁打】長岡 孝・森脇亮太(立)、田内紀光(大)

【二塁打】石井憲介・佐々木康仁(立)、中島洋次・安井 健(大)

立命館 先発全員の19安打の猛攻で13点を挙げて圧勝

立命館大学は、1回二死三塁から四番尾崎の右前適時打で先制し、2回には一番長岡の左中間本塁打を含む4安打で3点、さらに5回には集中5安打で5点を奪い、勝利を決定づけた。一方の大阪経済法科大学は、立命館大学森脇投手の力の入った投球に手こずり、終盤3点を挙げて6点差まで追いつがったが、逆に突き放されて涙を飲んだ。(記録員 鈴木和広)

★第4日目（8月28日）

No.29（準決勝戦第1試合）【試合時間】1時間55分

福岡大学：010000：1 ●牛島孝士郎・阿比留丈治－平山 靖
 国士舘大学：012404x：11 ○小田澤直紀－河合陽之介

【本塁打】平山 靖（福）、能條和行・清水亮②（国）

【二塁打】佐々木英治（福）、照井賢吾②・浦本大嗣（国）

国士舘 打線猛打爆発し3年ぶり決勝進出

国士舘大学は、2回宮原の右前打で同点、3回には能條の2点本塁打、4回にも清水の2点本塁打、さらに6回には清水の2打席連続2点本塁打などで得点を重ねコールド勝ち。小田澤投手は5安打1失点に抑え完投した。福岡大学は2回平山の本塁打で先行したが及ばなかった。（記録員 小出文明）

No.30（準決勝戦第2試合）【試合時間】1時間50分

日本体育大学：0063101：11 山尾竜則・○森 勇紀－井上大輔
 立命館大学：0010000：1 ●森脇亮太－市村 太

【本塁打】山城一平・楠本 圭（日） 【三塁打】杉本浩之（日） 【二塁打】石井憲介（立）

日体大 2本塁打を含む14安打の猛攻で圧勝し、決勝戦へ

3回、日本体育大学は九番松井の四球を足掛かりに、二番杉山の中越え三塁打を含む4本の長短打で一挙6点を先行した。続く4回には、指名選手山城の中越え本塁打等で3点を加え、試合を決めた。立命館大学は、日本体育大学山尾・森両投手にわずか3安打と完全に抑えられて完敗した。（記録員 鈴木和広）

No.31（決勝戦）【試合時間】1時間49分

日本体育大学：00000000：0 ●山尾竜則－井上大輔
 国士舘大学：00000001x：1 ○照井賢吾－山下貴史

【長打】なし

国士舘 第4回以来35年ぶり2回目の優勝で、日体大の5連覇を阻む

日本体育大学山尾、国士舘大学照井両先発投手の力強い熱球に、両チーム無得点のまま最終回を迎えた。国士舘大学は先頭打者の三番照井がこの試合のチーム初安打で出塁し、犠打と内野ゴロで二死三塁とし、六番能條の初球が暴投となって、劇的なサヨナラ勝ちを収めた。日本体育大学は、国士舘大学を上回る安打を放ったが、本塁打性の当たりを好捕されるなど、堅実な守備に後続を断たれて好投の山尾を援護することができなかった。

（記録員 吉野 伸）



男子大会打撃ベスト10（規定打席数12以上）

左打	位置	選手名	大学名	打席数	打点	安打	得点	犠打	四球	死球	三振	盗塁	残塁	本塁打	打撃率	試合	
○	2	平山 靖	福 岡	13	11	7	5	6	・	1	1	・	・	4	3	0.636	4
	5	杉山 浩之	日本体育	21	18	10	8	5	1	2	・	・	3	4	・	0.556	5
○	4	山崎 均	日本体育	18	15	8	7	4	1	2	・	1	1	4	2	0.533	5
○	6	尾崎 和登	立 命 館	15	10	5	4	5	1	3	1	・	・	4	1	0.500	4
○	7	村田 隼一	福 岡	14	12	6	4	・	1	1	・	2	1	3	・	0.500	4
○	6	楠本 圭	日本体育	21	17	8	7	4	3	1	・	1	1	3	1	0.471	5
○	1	照井 賢吾	国 士 館	18	17	8	5	6	1	・	・	2	1	3	1	0.471	5
○	3	中島 洋次	大阪経法	14	11	5	4	6	・	2	1	1	・	3	・	0.455	3
○	1	三好 裕二	大阪経法	14	9	4	3	5	・	5	・	1	・	4	1	0.444	3
○	4	長岡 孝	立 命 館	16	12	5	6	8	・	3	1	・	・	1	3	0.417	4
○	3	浦野 将喜	福 岡	14	12	5	5	6	・	2	・	1	・	2	1	0.417	4
○	7	石井 憲介	立 命 館	12	12	5	4	4	・	・	・	2	・	1	・	0.417	4

男子大会投手成績ベスト2（規定投球イニング20以上、19回以下は参考）

左投	選手名	大学名	回	打者数	打点	被安打	失点	自责点	被犠打	与四死	奪三振	被本打	投球数	防御率	勝試合	負試合	試合数
	加藤 潤一	城 西	21	93	80	17	9	7	3	10	16	3	319	2.33	2	1	3
	森脇 亮太	立 命 館	24	111	93	25	17	15	6	12	26	5	414	4.38	3	1	4
○	小田澤直紀	国 士 館	12	42	41	5	1	1	・	1	19	1	157	0.58	2	0	2
	照井 賢吾	国 士 館	18	66	62	8	2	2	・	4	21	1	256	0.78	3	0	3
	山尾 竜則	日本体育	17.2/3	64	59	8	3	2	2	3	15	・	237	0.79	1	1	4
	藤本 義樹	京 都	16	63	56	10	5	4	2	5	17	・	232	1.75	1	1	2

失 敗 は 成 功 の も と

国士舘大学男子ソフトボール部主将 宮原 豊

私が主将になってまずやろうと思ったことは、国士舘大学のイメージチェンジです。例えば、茶髪、ヤジの禁止です。このことは主将になる前から考えていました。大学の頂点を目指す者として、また学生として必要でないと思ったからです。そして「意識改革」です。意識という全ての面において甘いところがある。この思いは森池監督、上川コーチも同意見でした。まずは「意識改革をしよう！」ここからチーム作りがスタートしました。

部員に「意識改革」を言う前にまずは自分から。主将としてチームのために出来る事は何でもしようと思ひ、主将として間違ったことは言えない、間違った行動もできないの

で勉強のためオフの期間には様々な指導者の方の所へ出向きました。そこでは指導法、練習法など様々な事を教えていただくと同時に多くの激励とアドバイスもいただくことができました。これらのことを自分への励みとし、また常に勉強する気持ちを忘れないよう心掛けました。

新チームをスタートさせるにあたりみんなで目標を決めました。「インカレ優勝」全員一致の意見でした。そこで私は「インカレ優勝のためには何をすべきか」みんなに問いかけ、一人ひとり勝つためには何をすべきか、自分の意見や目標を紙に書かせました。そして、練習も試合もこのことを考えながらやろう！それに伴った行動をしよう！と声をかけました。

「意識改革」と言った割には出発は前途多難なものでした。レギュラーメンバーが総入れ替えとなった国士館は、1年2年3年共に今まで通り「人任せ」の甘い考えがまだまだ抜けきらないままであったと思います。そんな考えですから、新チーム発足直後の秋季リーグ戦では露骨に精神的な弱さが出てしまいました。今まで負けたことのない中央大にさえ破れ、大きな挫折を味わいました。この時部員一同このままではダメだというのが分かったと思います。そして関カレです。リーグ戦で味わった苦い経験を生かして、少し自分たちのソフトボールをすることができました。結果は3位でしたが内容は秋季リーグ戦とは全く違うもので「勝つために何をすべきか」各選手が試行錯誤しながら出した結果だと思います。冬の筋トレ、マラソン、沖縄合宿、オープン戦を経て春季リーグ戦。冬からの努力と多くの経験を自信に変えて試合に望みました。結果は3チーム同率ではありますが優勝。チーム発足後初めての形ある結果でした。ここで大きかったのが日体大に勝ったことです。私自身も大学にいて初めての勝利でした。これは部員一同一番の自信になったと思います。続いての総合東京都予選もリーグ戦の勢いそのままに優勝することができました。ここでの収穫は対早稲田大、照井、小田澤抜きで勝ったことです。「勝つために何をすべきか」形になりつつある大会でした。ところが、スポーツというのは皮肉なものでその後の総合関東予選、東日本と全く自分たちのソフトボールができなくなりました。成功という自信がいつのまにか過信へと変わっていつの間にか感じていました。しかし、負けて良いことはありませんが自分自身、この時負けて良かったと思います。なぜなら、インカレ前に「なぜ負けたのか」確認することができると共に、「勝つために何をすべきか」全員の気を引き締めることができると思ったからです。ここでもう一度初心に戻ろう！残り少ない時間「がむしゃらに」を合言葉に練習に没頭しました。そしてインカレです。いつもどおりに！失敗を恐れず！やるっきゃない！皆一つの目標に向かってただひたすらがむしゃらにプレーしました。そして35年ぶり2度目の優勝。目から熱いものが込み上げてきました。その裏には多くの失敗、挫折がありそれを通して成功へのステップを踏んでいたのだと思います。「失敗は成功のもと」まさにその通り。色々ありましたが、すべてはこの日のためにあったんだと確信しました。

最後になりましたが、この一年失敗ばかりのチームを森池監督、上川コーチが根気よく指導してくださったおかげで目標を達成することができました。そして多くの方々にご支援をいただいたおかげで思う存分ソフトボールをすることができました。本当に感謝しています。ありがとうございました。

文部科学大臣杯第39回全日本大学女子ソフトボール選手権大会

会期：平成16年8月26日(木)～8月29日(日)

会場：静岡県富士宮市静岡県ソフトボール場他

大会感想

開会式は25日。女子は26日から試合が始まる。出場校は前年と比べ6校の入れ替わりがあった。注目は、淑徳大の2連覇になるか。あるいは、東京女子体育大のリベンジになるか。はたまた、古豪の復活、新鋭の台頭があるか。調子の波に乗ると波瀾が起きやすい女子の大会だけに興味は尽きない。組み合わせをみると、早くも一回戦で昨年決勝対決の淑徳と東女体が対戦する。抽選の妙味か、結果がどうであれ、他チームの上位進出のチャンスも増え、白熱した試合が期待出来る。

全体の試合を点差のゲーム数でみてみると、1点差が9試合(内タイブレーカー2)、2点差が4(内タイブレーカー2)のように6割が接戦で、5点以上の差は6試合(内コールド2)である。ちなみに完封は10試合であった。また、驚くのは本塁打である。前年は1本であったが、今年は11本もあり、しかも、勝敗に関わる劇的な話題に富むものが多かったことは特筆のものであろう。

一回戦では、大阪国際2-1国士舘戦が延長9回の息詰まる好試合。東女体0-1淑徳戦は、淑徳山口の本塁打が決勝点となり、東女体のリベンジ叶わず惜敗。大谷女1-0城西戦は、大谷女中村の本塁打が決勝点、投げては継投ながらノーヒットノーランに抑えた。二回戦では大谷女1-0福岡戦も緊迫した好試合。準々決勝はどれもが好試合であったが、東海女3-2清和戦は劣勢の東海女が最終回に代打吉村の逆転スリーランで劇的勝利。清和は初出場ながら試合巧者ぶりを発揮し、来年度に期待がもてる。淑徳1-2大谷女戦は勝敗の綾が交錯した一戦。準決勝は日体8-0愛媛女短戦は一方的になったが、前年は2回戦敗退の愛媛女短が今年はこちらまで進出。その爽やかな戦いぶりに惜しみない拍手が送られた。もう一つの準決勝、前年東海女子は三回戦で、大谷女子に至っては一回戦で敗退した両チームであるが、今年の活躍はめざましい。東海女子3-7大谷女子戦は6回裏、3点を追う大谷女子はここまでの活躍を象徴するような、代打井上の逆転満塁本塁打という奇跡的快挙で決勝進出を果たした。

決勝戦は日体と大谷女子となったが、台風の影響で一日延期したにも関わらず実施不能で、大会史上初の両大学優勝という結果になった。日体は7年ぶり18度目、大谷女は初優勝である。

24大学の日頃の研鑽が実を結び、実力伯仲で次年度以降にさらなる興味を抱かせる大会であった。(記録長 小山光弘)

印象に残った選手

投手では、森川憲子(大谷女子)4勝を挙げ、防御率0.41のすばらしい成績。

竹澤苑美(東海女子)3勝を挙げ、防御率2.74。打撃も本塁打2本。打率0.462

竹田留衣、福田知香(愛媛女短)2人で3勝を挙げ、防御率も2点台である。

金尾和美、五島麻美（日体）規定投球回数に達しないが、防御率は金尾が1.62、五島は0.00と非常によく、2人で3勝を挙げた。

打撃では、山崎萌0.667、根本美咲0.625（清和）、宮幸代0.556（大阪国際）、内海さゆり0.556（日体）、中川恵0.545（東海女子）、藤田恵0.545（大阪国際）また、長打者として小幡麻由、白井沙織（日体）、山口ひとみ（淑徳）の本塁打をはじめ、代打で本塁打を打った吉村、井上の力強いスイングも印象に残る。

（記録長 小山光弘）

大会総評

本大会は、39回にして初めてのことが多かった。決勝戦が雨天中止となって優勝校が2校となったのはもちろんのこと、シードも何もないフリーな組み合わせ抽選、開会式の後2日間試合のないチームが生じるという日程の長さ、試合を決定づける本塁打の多さ、会場があふれんばかりの観客の多さ、そしてすばらしい球場と熱気あふれるプレイ、感動的なドラマの連続であった。それだけに、決勝戦を雨で流してしまったのが悔やまれる。日程の長さにご批判をいただくが、これはできるだけすばらしい球場で多くの試合をさせたあげたいという開催地富士宮市と富士宮協会のご配慮であり、現に1日早く始まっていれば雨に泣かされることもなかったわけで、日程の長さが決勝戦を流したわけではない。それにしても、4年生ののしてみれば、決勝戦は、4年間苦楽をともにしたチームメイトとともに戦う最後の試合になるはずであったわけで、その涙は察するにあまりある。だからこそ、悪コンディションの中での決勝戦を執行するには、忍びなかったのでもある。それまでの優勝校らしい両校の見事な戦いぶりに心から拍手を送り、両校の栄誉を讃えたい。

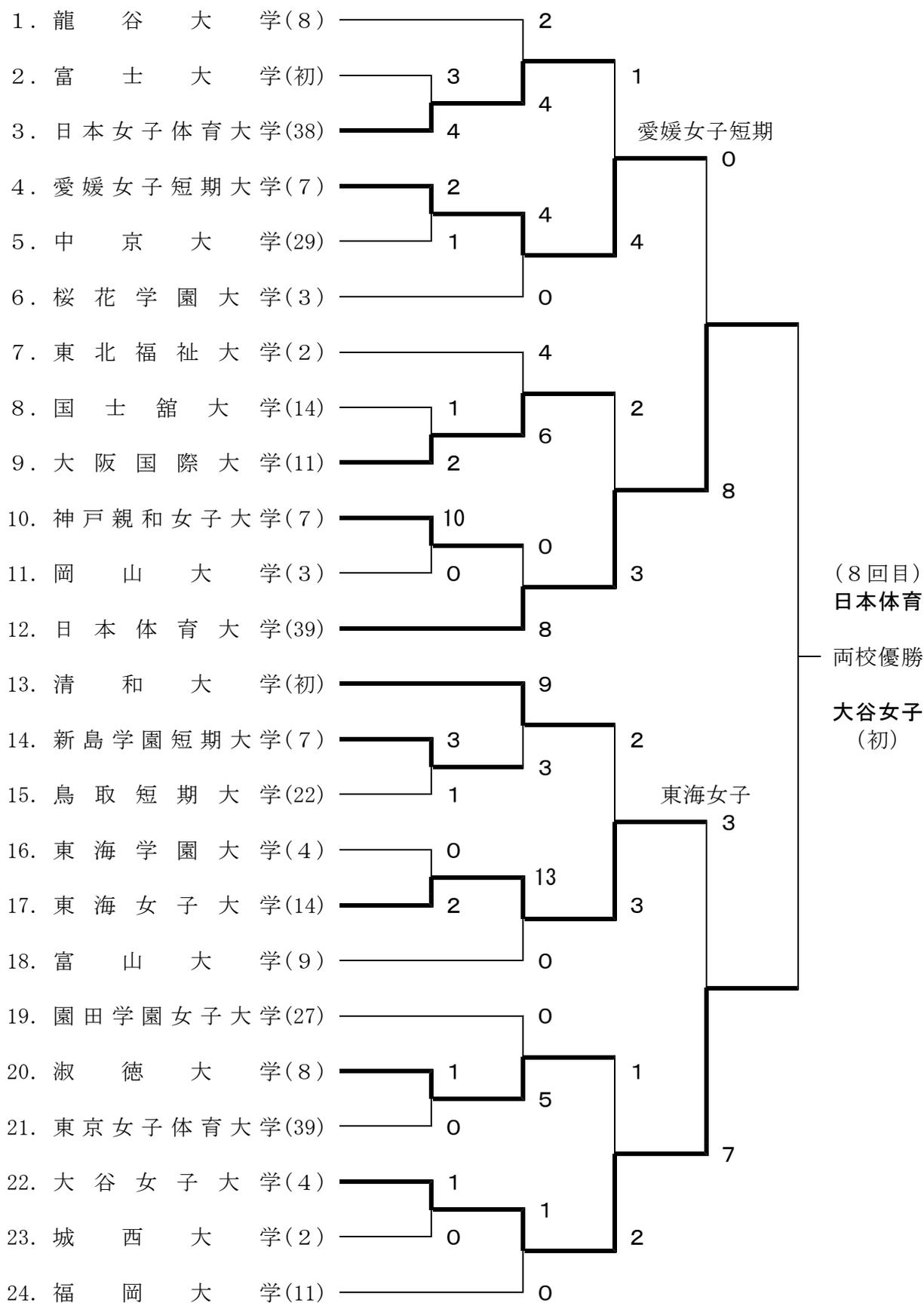
さて、試合の方に目を移すと、初出場は2校であったが、これまでになくフレッシュな大学の活躍が目についた。初戦を突破したのは清和大学だけであったが、富士大学・東北福祉大学・城西大学の若さあふれるプレイは、古豪・強豪チームを十分に震え上がらせたに違いない。また、昨年の決勝戦が1回戦で再現されるという組み合わせも、優勝するためにはすべてのチームに勝たなければならないというチャンピオンシップを争うに相応しいという解釈もできる。

ベスト8を占めたのは、関東・東京・近畿から各2チームと東海・四国から各1チームであった。今年度の実力のあるチームが順当に勝ち上がってきた感がある。その中から日本体育大学と大谷女子大学の2校が勝ち残ったわけであるが、いずれの大学も紙一重の試合を経験してきている。新興チームあり、伝統校あり、大学女子ソフトボール界はまた新たな戦国時代に突入したように思われる。

ひとつひとつのプレイに注目すると、男子ほどではないが、長打特に本塁打の威力を見せ付けられた。また、攻守にわたる走力と打球・送球のスピードが試合を決定づけているように感じられる。秋には第1回の世界女子大学選手権大会が開催されるが、世界に通用する日本の学生代表チームには、このスピードとパワーに裏付けられたプレイを期待したい。

最後にもう一つだけ付け加えさせていただきたい。それは、台風の襲来があつたにも拘わらず、爽やかな試合会場であったことである。広い会場に2カ所の喫煙所を除いては、よく禁煙が守られていた。今後ともかくありたい。（東海地区常任理事 水谷 博）

大会結果



※ () 内は出場回数で、校名変更のあった大学は以前の名称での出場も含む。

試合結果

★第1日目（8月26日）

No.1 【試合時間】1時間45分

富 士 大 学 : 1 0 0 0 0 0 2 : 3 ●遠藤千賀子・白石友梨子・三澤由佳・秋葉由香里

日本女子体育大学 : 0 0 3 0 1 0 x : 4 ○中村かおり・粕谷香織

【二塁打】菅原ひろみ（日）

日女体 最終回の追い上げを振り切って逃げ切る。

1点を先制された日本女子体育大学は3回、櫻岡・古口・内海の3連打など、打者一巡の猛攻で一挙3点を奪って逆転した。さらに、5回にも菅原の二塁打で1点を加えた。一方の富士大学は、初回到に足を生かして1点を先制した。その後0行進を続けた最終回、佐藤・秋葉・門脇・木沢の4連打などで2点を挙げ、1点差まで詰め寄ったが、追い上げもここまで、1点に涙を飲んで初めての夏は終わった。（記録員 石川雅巳）

No.2 【試合時間】1時間30分

中 京 大 学 : 1 0 0 0 0 0 0 : 1 ●東 瑠璃・岩切奈那

愛媛女子短期大学 : 0 1 0 0 0 1 x : 2 ○福田知香・外山恵美

【二塁打】高橋愛菜（中）、外山恵美（愛）

愛短 接戦を制して2回戦へ進出

中京大学は1回、愛媛女子短期大学は2回、ともに二塁打で1点を挙げたが、その後は両投手の緩急を交えた好投で緊張した投手戦になった。1対1で迎えた6回裏、愛媛女子短期大学は、先頭打者の内野安打と敵失で3塁まで走者を進め、ここで相手投手の痛恨のワイルドピッチで、幸運な勝ち越し点を得た。一方、中京大学も7回到に先頭打者が左前安打で出塁したが、走者をバントで進塁させられず、後続も打ち取られて惜敗した。（記録員 近藤智子）

No.3 【試合時間】2時間26分

大 阪 国 際 大 学 : 0 0 0 0 0 0 0 1 1 : 2 ○村松 歩・中平裕子

国 士 館 大 学 : 0 0 0 0 0 0 0 1 0 : 1 宮崎隆子・●近江清香・岩崎晴香

【三塁打】藤田 恵（大）

大阪国際 タイブレーカーを辛くも制して2回戦へ駒を進める。

両チーム、それぞれ初回、二死満塁の好機を逃すと、以降は両投手の力投や好守備で試合は降着状態。0-0で動かぬままタイブレーカーへ突入。8回は両チームまたまた1点ずつを取り合い9回へ。大阪国際大学は六番村松が中堅右へ殊勲の安打を放ち貴重な1点を挙げる。一方、国士館大学は9回裏、走者を3塁に進めるも飛球と三振に打ち取られ、息詰まる試合に終止符が打たれた。（記録員 堀場敏之）

No.4 【試合時間】1時間31分

岡 山 大 学 : 0 0 0 0 0 0 : 0 ●橋本尚子・木村由美

神 戸 親 和 女 子 大 学 : 0 4 0 0 2 4 x : 10 中川千明・○井茂麻由・北村麻衣子

【本塁打】浜下春奈（神） 【三塁打】金川結貴（神） 【二塁打】金川結貴②・松本里菜（神）

神戸親和 本塁打を含む15安打の猛攻で大勝

神戸親和女子大学は岡山大学の橋本投手に対し、本塁打を含む15長短打を放ち、6回コールドで岡山大学を一蹴した。岡山大学は、神戸親和女子大学の2人の投手に2安打に抑えられ反撃の糸口を掴めないまま敗退した。(記録員 多湖初美)

No.5 【試合時間】 1時間46分

新島学園短期大学：0100011：3 三原亜貴奈・○佐藤めぐみー光山智佳子
鳥取短期大学：1000000：1 ●前田美由貴ー戸田早紀

【長打】なし

新島学園短期大学 大会唯一の短大決戦を粘って勝利し、2回戦進出

新島学園短期大学は1対1で迎えた6回、一死二塁の好機から四番品田の右前適時打で待望の勝ち越し点を奪い、なおも続く7回には一番柳下の中前適時打で貴重な3点目を入れた。先発三原が先制を許すも、リリーフした佐藤は4回を被安打1に抑えて勝利投手になった。最少人数でよく鍛えられた鳥取短期大学は、初回に先制したが、相手投手陣の継投策と攻守の前に打線が沈黙して2回戦への進出はかなわなかった。(記録員 鈴木利規)

No.6 【試合時間】 1時間42分

東海女子大学：0000200：2 ○竹澤苑美ー中川 恵
東海学園大学：0000000：0 佐貫智子・●今井千夏・吉田有希ー岩崎麻衣

【長打】なし

東海女子 東海ダービーをワンチャンスで制する。

東海女子大学は5回、長澤の安打を名倉の適時打で還してまず1点を先制、なおも一死三塁でを代打吉村が還して1点を加えた。守っても竹澤投手が相手打線を散発5安打に抑えて完封した。一方、東海学園大学も走者は出すが、後続が打ち取られて惜敗した。(記録員 長房泰男)

No.7 【試合時間】 1時間51分

東京女子体育大学：00000000：0 中村祐子・●水上佳奈子ー中野久美・重松沙智絵
淑徳大学：000001x：1 ○後藤真理子ー金子珠枝

【本塁打】山口ひとみ(淑) 【二塁打】酒井かおり(東)、山口ひとみ(淑)

淑徳 昨年の決勝戦の再現で東女体に完封勝利

淑徳大学が緊迫した試合の中、6回裏五番山口の本塁打により勝利を収めた。投げては後藤投手が東京女子体育大学打線を完封し、無四球試合を達成した。一方の東京女子体育大学は、3回表、得点圏に走者を進めたが、今一步のところで得点できず、また、最終回にも無死から安打で出塁したがピックオフで走者を失い、昨年の決勝戦の雪辱ができずに初戦で涙を飲んだ。(記録員 池田雅彦)

No.8 【試合時間】 1時間21分

城西大学：00000000：0 ●岩瀬 碧ー鴨下奈苗
大谷女子大学：000001x：1 上村さつき・○森川憲子ー中村祥子

【本塁打】中村祥子（大） 【二塁打】木村糸遊（大）

大谷女子 4番の本塁打と2投手の継投で無安打無失点の勝利

大谷女子大学の先発上村は、四球は出すものの丁寧なピッチングで5回までノーヒットに抑え、代わった森川も打者の打ち気をかわす投球で失点を許さなかった。無得点のまま回も進んだ6回、四番中村の豪快な中越え本塁打で1点をもぎ取り、7回表も森川投手が抑え切った。城西大学岩瀬投手も散發5安打に抑えて好投したが、打線の援護がなく、涙を飲んだ。両チームの投手の好投が光る一戦であった。（記録員 安本秀樹）

★第2日目（8月27日）

No.9 【試合時間】2時間18分

日本女子体育大学：00010102：4 ○中村かおりー粕谷香織

龍谷大学：10000010：2 馬場由香理・●宮原紗耶香ー福本まどか

【二塁打】千葉優子（龍）

日女体 タイブレーカーで接戦を制してベスト8へ

土壇場で同点とされた日本女子体育大学は、タイブレーカーとなった8回、この回戦打者櫻岡の内野安打で好機を広げ、一死後三番内海の絶妙な投前安打で勝ち越しし、なおも二死から死球で1点を加え、その裏を好投の中村が抑えて準々決勝へ駒を進めた。龍谷大学は、最終回に同点としたが、相手より多くの安打を放ちながら、序盤に突き放せなかったのが最後まで響いた。（記録員 遠藤孝行）

No.10 【試合時間】1時間40分

桜花学園大学：00000000：0 ●伊藤美希・石川 茜ー岩室 愛

愛媛女子短期大学：103000x：4 ○竹田留衣ー重松 文

【二塁打】和志武由美（桜）、原田明希奈（愛）

愛媛女子短 投打に優って3回戦へ進む。

愛媛女子短期大学は初回、一番原田が安打で出塁、これを送って四番黒木も安打で続き、五番加茂が適時打で還して先取点を挙げた。さらに3回には、黒澤・阿南・原田の長短打で一挙に3点を加えて優位に立った。一方、桜花学園大学は6回に無死満塁の好機を得たが、後続を断たれて完封を喫した。（記録員 多湖初美）

No.11 【試合時間】2時間33分

大阪国際大学：001000302：6 ○村松 歩ー中平祐子

東北福祉大学：200000200：4 ●藤原麻起子ー村中 梢

【三塁打】水島優子（大）、関祐理子（東） 【二塁打】柳田優子（大）、藤崎由起子（東）

大阪国際 延長9回3安打集中で終盤もつれた試合を制してベスト8進出

1点差で迎えた7回、逆転あり同点ありで大波乱があり、タイブレーカーに突入。9回大阪国際大学は、3安打を集めて2点を取り、勝利を決めた。先発の松村投手は、13三振と力投した。東北福祉大学は初回、四番関の三塁打で2点を先制した。逆転された7回にも4連打で同点としたが、その後の無死満塁サヨナラ機を活かせなかったのが響いた。

（記録員 清水秀一）

No.12 【試合時間】 1時間40分

日本体育大学：1010033：8 ○金尾和美・五島麻美・岡田伊代－小森由香
神戸親和女子大学：0000000：0 ●井茂麻由・中川千明－北村麻衣子

【本塁打】白井沙織（日） 【二塁打】白井沙織（日）

日体大 3投手の継投での完封により圧勝する。

日本体育大学は初回、白井の本塁打で先制、3回にも白井の犠打で2点目。6回には西村・小幡・今井の3安打と敵失で3点、さらに7回にも敵失と白井の二塁打、今井、山名の安打で3点を挙げて勝利を決定づけた。神戸親和女子大学は、日本体育大学の堅守に4走者しか出すことができず、反撃の糸口すら掴めずに完敗した。（記録員 森 和秀）

No.13 【試合時間】 1時間37分

新島学園短期大学：1000020：3 竹澤・●三原・佐藤－光山・渋谷
清和大学：000144x：9 忠田あかり・○山崎 萌－長谷川三菜子

【三塁打】佐藤麻那（新）、山崎玲央奈（清）

【二塁打】品田枝里子・斎藤香澄（新）、長谷川三菜子（清）

清和大 終盤の大量点で逆転して準々決勝に進出

清和大学は4回に同点、5回に長谷川の二塁打を足掛かりに4連打と捕逸で4点を取り一挙に逆点した。6回にも山崎のきっかけに4点を挙げて大勢を決めた。守っては二番手投手の山崎萌が新島学園短期大学打線を2失点に抑え、勝利をものにした。新島学園短期大学は二・三番手投手の不調が痛かった。（記録員 塚本孝之）

No.14 【試合時間】 1時間37分

東海女子大学：102307：13 ○竹澤苑美・水野由香・有我友里－中川 恵
富山大学：000000：0 ●鈴木由香・鈴木 泉－素波まゆみ

【本塁打】竹澤苑美・今井美幸（東） 【三塁打】竹澤苑美・堀けいこ（東）

【二塁打】名倉ひとみ

東海女子大 投打に優って大量点で圧勝、コールド勝ち

東海女子大学は、竹澤・今井の2本の本塁打を含む17安打で13得点を挙げ、守っては3人の投手による1安打完封リレーで13対0、6回コールドで圧勝した。一方、富山大学は6回に初安打することが精一杯で、反撃の口火を切ることもできずに完敗した。（記録員 横山欽吾）

No.15 【試合時間】 1時間57分

園田学園女子大学：00000000：0 ●濱田みゆき・清水美聡－鮫島優子
淑徳大学：203000x：5 ○後藤真理子－金子珠枝

【二塁打】武田絵美・高橋典子・石川好光（淑）

淑徳 スキを突いて畳み掛ける攻撃で完勝、2連覇も視野!?

相手投手の立ち上がりを攻め、淑徳大学は一死一・二塁から四番武田の左翼線二塁打で2点を先制。3回には犠打を絡めて三番高橋・五番山口の適時打で3点を追加すると、先発後藤が高めに浮く速球とチェンジアップを巧みに操り、好守備にも支えられて完封勝利を飾った。園田学園大学は早いカウントからの打ち急ぎが目立ち、5回一死満塁もあと1

本が出ず、涙を飲んだ。（記録員 高木禮二）

No.16 【試合時間】 2時間02分

大谷女子大学：0010000：1 ○森川憲子・上村さつきー中村祥子
福岡大学：0000000：0 ●金谷さほりー岩英美子

【二塁打】今泉早智（福）

大谷女子 接戦をものにして準々決勝に駒を進めた。

大谷女子大学は、3回伊藤が安打で出塁し、犠打と盗塁で三塁へ、三番下家が適時打を放ち貴重な1点を挙げた。この1点を森川と上村両投手が守り、勝利をものにした。一方の福岡大学は、6安打を放ったものの、相手の堅守にも阻まれ、後続が断たれ惜敗した。（記録員 山田 巧）

★第3日目（8月28日）

No.17 【試合時間】 1時間32分

日本女子体育大学：1000000：1 ●中村かおりー粕谷香織
愛媛女子短期大学：001102x：4 ○福田知香・竹田留衣ー外山恵美

【三塁打】黒木千晶・阿南佳奈（愛） 【二塁打】菅原ひろみ（日）、阿南佳奈（愛）

愛短 逆転後もそつなく加点でベスト4へ

愛媛女子短期大学は3回裏、二死三塁から四番黒木の左中間三塁打で同点に追いつき、さらに、4回裏二死三塁から九番川原の左前打でついに逆転した。6回裏にも、二死三塁から八番阿南の右越え三塁打で加点、続く九番川原のこの試合2本目の右前打でさらに1点を奪い、勝利を決めた。一方の日本女子体育大学は、初回、櫻岡の左前打と菅原の二塁打で先行したが、2回以降、愛媛女子短期大学の福田・竹田両投手から点を取ることができず、敗退した。（記録員 杉本隆彦）

No.18 【試合時間】 1時間55分

日本体育大学：00000201：3 金尾和美・○五島麻美ー小森由香
大阪国際大学：00002000：2 ●松村 歩ー中平裕子

【二塁打】今井美幸（日）、松村 歩（大）

日体大 8回タイブレーカーを制してベスト4に進出

日本体育大学金尾、大阪国際大学松村両投手による息詰まる投手戦の中、5回大阪国際大学は二死三塁から3連打で2点を奪った。しかし、日本体育大学は6回表相手失策から二・三塁とし、五番今井の左翼越え二塁打の2点タイムリーで同点とし、延長タイブレーカーに入った。8回表、日本体育大学は三番白井の左前タイムリーで1点を奪い、その裏大阪国際大学の猛追を二番手五島投手が防ぎ、辛くも逃げ切った。（記録員 杉本義明）

No.19 【試合時間】 1時間27分

東海女子大学：0000003：3 ○竹澤苑美ー中川 恵
清和大学：1000100：2 忠田あかり・●山崎 萌ー長谷川三菜子

【本塁打】吉村理香（東） 【二塁打】竹澤苑美②（東）、山崎 萌（清）

東海女大 最終回代打吉村の3点本塁打で鮮やかに逆転、準決勝へ

2点が重くのしかかっていた東海女子大学は、7回安打と2つの敵失で二・三塁とした後二死から、代打の吉村が劇的な左中間越えの本塁打で一挙に逆転した。初出場の清和大学は、強豪校に2点を先行し、6回まで堅実な守備で優位に立っていたが、勝利を目前にしての失策が痛かった。（記録員 池谷恵美子）

No.20 【試合時間】 1時間53分

淑徳大学：0010000：1 ●後藤真理子－金子珠枝

大谷女子大学：001001x：2 上村さつき・○森川憲子－中村祥子

【二塁打】山口ひとみ（淑）、山口明香（大）

大谷女子 粘り勝ちで前年度の覇者淑徳を破る。

同点で迎えた6回裏、大谷女子大学は二死一・二塁の好機に、代打井上が二塁手のグラブをはじき、打球が右前にころがる間に、二塁走者宗接が長駆生還して勝ち越しに成功した。7回に淑徳大学も反撃を見せたが、二番手の森川が踏ん張り、4強に進出した。淑徳大学は、2回の先制機を逃したのが最後まで響き、連覇の夢を断たれた。（記録員 山口裕一）

★第4日目（8月29日）

No.21 【試合時間】 1時間43分

日本体育大学：0040130：8 ○五島麻美・飯島麻耶・岡田伊代－小森由香

愛媛女子短期大学：0000000：0 ●竹田留衣・福田智香・松下ますみ－外山恵美

【本塁打】小幡麻由② 【三塁打】加藤めぐみ 【二塁打】小森由香

日体大 四番小幡の7打点など投打で圧倒、決勝進出

日本体育大学は2回まで得点圏に走者を進めるものの決定打が出なかったが、3回一死満塁の好機に小幡がセンターオーバーの満塁本塁打で4点を先制、5回にも小幡の2打席連続となるレフトオーバーの本塁打で2点を追加、続く6回にも小幡の適時打などで3点を追加、守っても3投手の継投で危なげなく勝ち上がった。一方の愛媛女子短期大学は2回一死二塁の得点機が唯一の好機で、ここでタイムリーが出ずに敗退した。小雨が降ったりやんだりのコンディションの中、両チームのきびきびした戦いぶりに好感が持たれた。（記録員 小黒善夫）

No.22 【試合時間】 1時間46分

東海女子大学：2010000：3 ●竹澤苑美－中川 恵

大谷女子大学：000061x：7 ○森川憲子－中村祥子

【本塁打】竹澤苑美（東）、井上友恵（大） 【三塁打】川西まどか

西日本の覇者大谷女子大 逆転勝利で初の決勝進出

大谷女子大学は、5回一番伊藤の内野安打を足掛かりに二番川西の三塁打、二つの四球を挟み代わった井上が左中間に代打逆転満塁本塁打を放ち試合を決めた。東海女子大は、竹澤の本塁打等で三点を先行するも、その後投手森川の前に完全に抑えられ、西日本大会と同じような展開でその雪辱を果たせずに敗退した。（記録員 鈴木和広）

女子大会打撃ベスト10（規定打席数9以上）

左打	位	選手名	大学名	打席	打数	安打	得点	打点	犠打	四球	死球	三振	盗塁	残塁	本塁打	打撃率	試合
○	5	宮 幸代	大阪国際	14	9	5	3	・	1	3	1	1	・	3	・	0.556	3
	6	内海さゆり	日女体	10	9	5	3	4	1	・	・	1	2	1	・	0.556	3
	2	中川 恵	東海女子	14	11	6	1	3	1	2	・	・	・	6	・	0.545	4
	8	藤田 恵	大阪国際	13	11	6	・	2	2	・	・	2	・	6	・	0.545	3
○	6	柳田 優子	大阪国際	13	8	4	1	4	4	1	・	1	・	5	・	0.500	3
○	4	武部あゆみ	大阪国際	11	10	5	・	・	1	・	・	・	・	3	・	0.500	3
○	5	佐久間 彩	大谷女子	10	8	4	1	・	1	1	・	・	・	4	・	0.500	4
○	DP	山口ひとみ	淑 徳	9	8	4	1	2	・	・	1	・	・	2	1	0.500	3
○	1	竹澤 苑美	東海女子	13	13	6	4	3	・	・	・	1	・	1	2	0.462	4
	5	黒木 千晶	愛媛女短	12	11	5	1	2	・	・	1	1	・	4	・	0.455	4

女子大会投手成績（規定投球イニング16以上）

左投	選手名	大学名	回	打者数	打数	被安打	失点	自責点	被犠打	与四球	与死球	奪三振	被本打	投球数	防御率	勝試合	負試合
○	森川 憲子	大谷女子	17	70	58	14	3	1	4	5	3	8	1	268	0.41	4	0
	後藤真理子	淑 徳	20	80	75	19	2	2	3	2	・	5	・	257	0.70	2	1
	松村 歩	大阪国際	26	105	87	13	8	3	9	6	3	26	・	381	0.81	2	1
	竹澤 苑美	東海女子	23	100	85	20	9	9	5	7	3	8	1	308	2.74	3	1
	中村かおり	日女体	21	91	77	26	9	9	11	3	・	9	・	295	3.00	2	1
	五島 麻美	日体大	8.1/3	29	24	3	・	・	3	2	・	3	・	114	0.00	2	0
	金尾 和美	日体大	8.2/3	38	35	11	2	2	2	1	・	7	・	126	1.62	1	0
	竹田 留衣	愛媛女短	14	57	47	10	4	4	3	7	・	8	1	222	2.00	1	1
○	福田 知香	愛媛女短	13	53	45	11	6	5	4	3	1	5	1	161	2.69	2	0

「勝って驕らず、負けて腐らず」

日本体育大学女子ソフトボール部主将 小 森 由 香

新チームがスタートしたのは、平成15年9月7日。ミーティングルームに部員全員を集合せ「気持ちを一つにしてインカレ優勝を目指そう」と決意しました。そしてこの日から私たちのインカレ優勝に向けての戦いが始まりました。練習場所や道具など決して恵ま

れた環境にあるわけではなく、限られた中でのスタートとなりました。

一つ一つのメニューをこなしていくうちに技術の向上はありましたが、逆に私はチームの欠点に気づきました。それはただ漠然と練習をこなしているだけで、一つのミスに対して何が原因だったのか、どうすればこのミスを防ぐことが出来るのか。ただ単に技術の向上だけを目的とした練習をしても、それは強いチームにしかありません。しかし、私達にとっては勝てるチームを目指して考える力が必要だったのです。そして全員にこう言いました。「皆には考える力が足りない。体で汗をかくのではなく、頭の中で汗をかくんだよ。自分で考え行動する力こそ勝てるチームを作り上げる」と。その言葉をきっかけに全員が一つのプレーに対し考え、追求するようになりなりました。それと同時に全員がインカレ優勝に向けて気持ちを一つにした瞬間でもありました。

そして、いくつもの大会を経験していく中で勝つことの難しさ、1点の重みというものを試合の中で実感させられました。「勝って驕らず、負けて腐らず」という言葉がありますが、この言葉に何度励まされたか分かりません。今年のチームは強いという周りからの期待をよそに、優勝したのはリーグ戦だけで、公式戦は全て落としきたというのが現状でした。頑張っても、頑張ってもなぜ勝つことが出来ないのか、優勝の喜びを味わうことが出来ないのかと、全員で涙を流し、悔しい思いをしてきました。しかし、その度に私はみんなに言いました。「相手の喜ぶ顔を絶対に忘れるな！この悔しさを忘れなければ負けたことにはならないよ。悔しさを忘れたときが本当の負けだ」全員が涙を浮かべた目で相手の喜ぶ姿をじっとみつめていました。どんなに悔しかったか、どんなに辛かったか、その時はただ我慢するだけでした。

8月24日、日体大女子ソフトボール部41名は「心を一つにして」静岡へ出発しました。これまでの道のりは決して平坦なものではなく、ときには挫けそうな時もありましたが、練習で培ったみんなの顔は自信に満ち溢れ日体大ソフトボール部としての誇りがそこにはありました。そして大会が始まり一戦一戦勝ち進んでいく中で、心からソフトボールを愛し、この大舞台でプレー出来ることに感謝し楽しんで試合をすることが出来ました。そしてグラウンドでプレーをしている9人の後ろには常に励まし支えてくれた仲間がいた事を絶対に忘れてはいけません。ピンチになった時こそベンチやスタンドに居るみんなの顔を見て頑張る力、勇気ももらいました。そして部員41名の心が一つになった瞬間、優勝という栄冠を勝ち取ることが出来たと思います。負けても負けても諦めない気持ちこそ本当の勝者の証だと私は思います。

そして、この夏を共に戦い、苦しいときも辛いときもお互いを励まし、支えあってきた41名の仲間に出会えたことを、心から幸せに思います。最後になりますが、ここまで私達を育て見守ってくれた家族、応援して下さった先輩方、関係者の方々に深く感謝したいと思います。



悔しさをバネに「新生大谷」の羽ばたき

大谷女子大学ソフトボール部主将 下 家 一 恵

昨年のインカレは、一回戦敗退という残念な結果でした。自信を持って臨んだつもりでしたが、最後まで自分たちらしさが出せないで終わってしまいました。何もできなかった悔しさに、涙が止まりませんでした。そのとき私たちはみんなで誓いました。「来年、またインカレに出て、今年の悔しさを、必ず晴らそう！」と。

今年に入り、チームのメンバーも多少入れ替わり、新しい「大谷」となった私たちは、オフシーズンの間も一生懸命に練習に励みました。練習の時は、学年に関係なく、気付いたことは言い合い、お互いに切磋琢磨しながら頑張ってきました。どのチームも毎日練習し、大きな声を出しながら練習しているとは思いますが、私たちは、どこにも負けない練習量をこなしてきたつもりです。また、どんなときでも元気よく大きな声を出していこうと、気持ちの面でも負けないよう頑張ってきました。元気よく、明るく、そして一球一球に全力でぶつかっていく。そこに今年の「大谷らしさ」がありました。

今年のインカレでは、1回戦から1点差のゲームが続きましたが、最後までねばり強く戦うことができました。準々決勝の淑徳大学戦・準決勝の東海女子大学戦では、序盤にリードされる苦しい展開でしたが、だれ一人として勝利を諦めることはありませんでした。お互いを信じ、みんなで勝利に向かって全力で戦いました。ベンチに入っている者も、スタンドで応援している者も、心はひとつでした。決勝戦は雨で行うことができず、大会史上初の両校優勝という形で終わりました。表彰式の時は、優勝旗や優勝カップ・賞状・メダル等を授与していただきましたが、試合ができなかったという思いがあり、正直、複雑な気持ちでした。しかし、最後に、大会本部の方々のご厚意により、決勝戦が行われるはずだった球場のスクリーンに「大谷女子大学」の名前が映し出されたとき、「優勝したんだな」という実感がわき、「インカレ優勝」を目標に頑張ってきたそれまでの日々が走馬灯のように浮かんできました。スクリーンをバックにして、金メダルを掛けて記念写真を撮るときのみんなの表情は、最高の笑顔でした。ほんの一時ではありましたが、雨も止み、陽が差し込んでいました。まるで空も私たちを賞讃してくれているかのようでした。

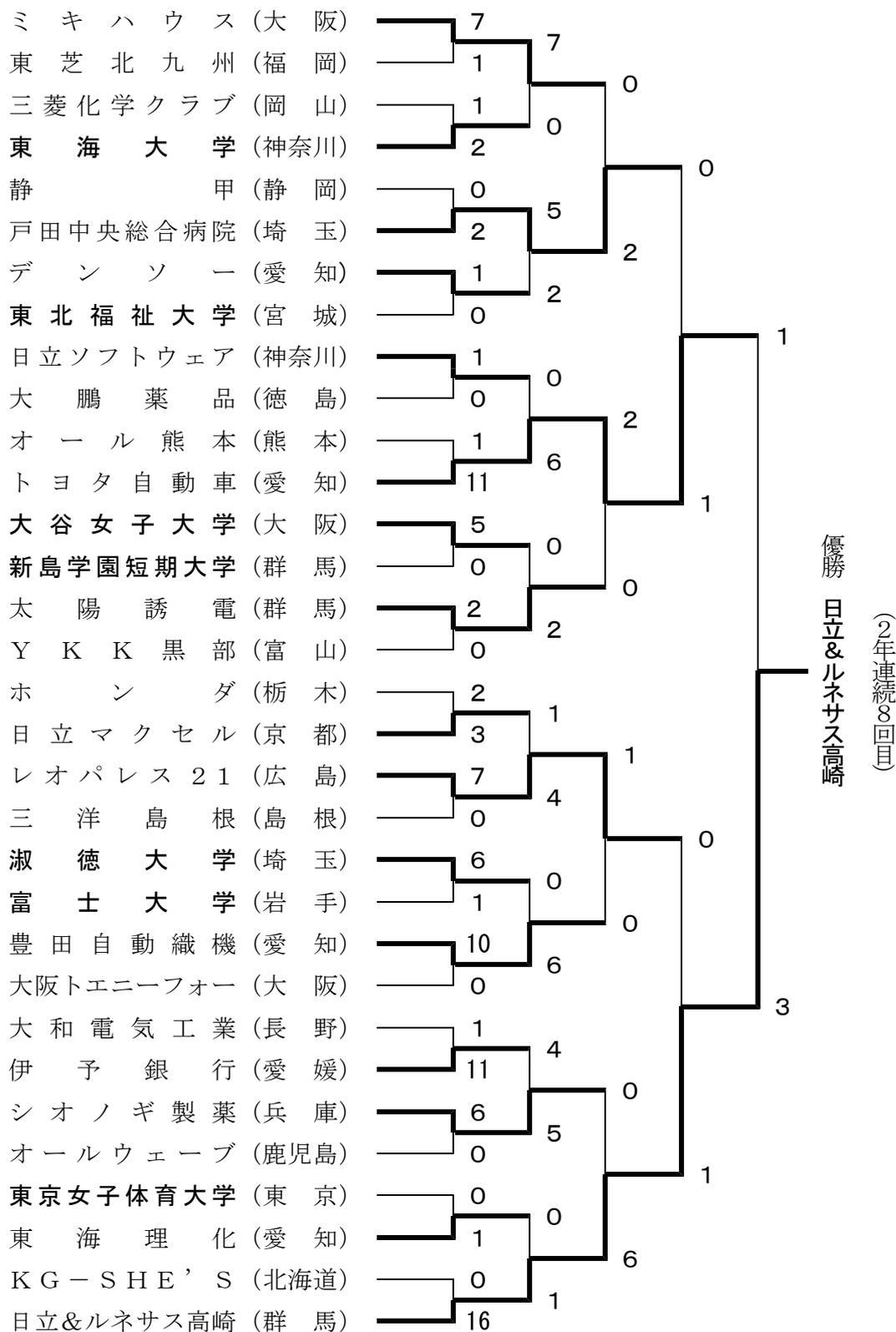
私たちは今年、西日本インカレと全日本インカレの両大会で優勝することができました。しかし、まだまだ発展途上のチームです。優勝したとはいえ、克服しなければならない課題がたくさんあります。「優勝」という響きに酔い浸るのではなく、これからも現状に満足することなく、努力を積み重ねていきたいと思います。「両校優勝」ということは、まだ上があるということです。今年のメンバーも多く抜け、来年は新しい大谷女子大学のチームとなりますが、これからも成長し続けていってくれることと信じています。大谷の伝統を継承しつつ、さらに飛躍して欲しいと願っています。

最後になりましたが、日本ソフトボール協会・富士宮市の大会本部・関係者の皆様方に厚く御礼申し上げます。決勝戦の日も、降りしきる雨の中、私たちのために一生懸命にグラウンドを整備してくださっていた方々に、また、何とか試合を行いたいと、いろいろとご配慮いただいた役員の皆様方のご厚意に、心より感謝申し上げます。どうも有り難うございました。

第56回全日本総合女子選手権大会

会期：平成16年9月25日（土）～27日（月）

会場：広島県呉市二河野球場他



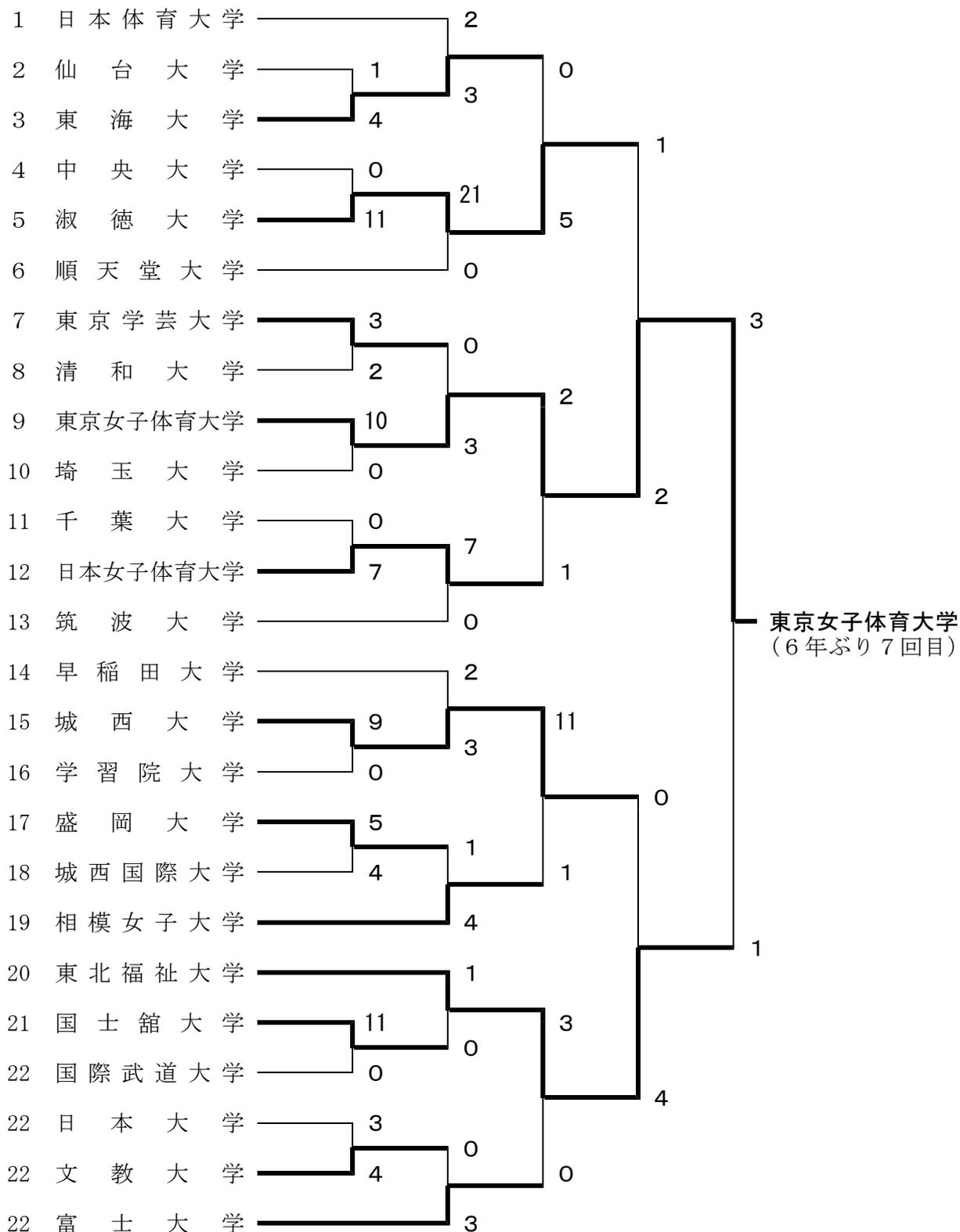
※本年度の全日本総合男子選手権大会に、大学チームの出場はありませんでした。

第19回東日本大学ソフトボール選手権大会

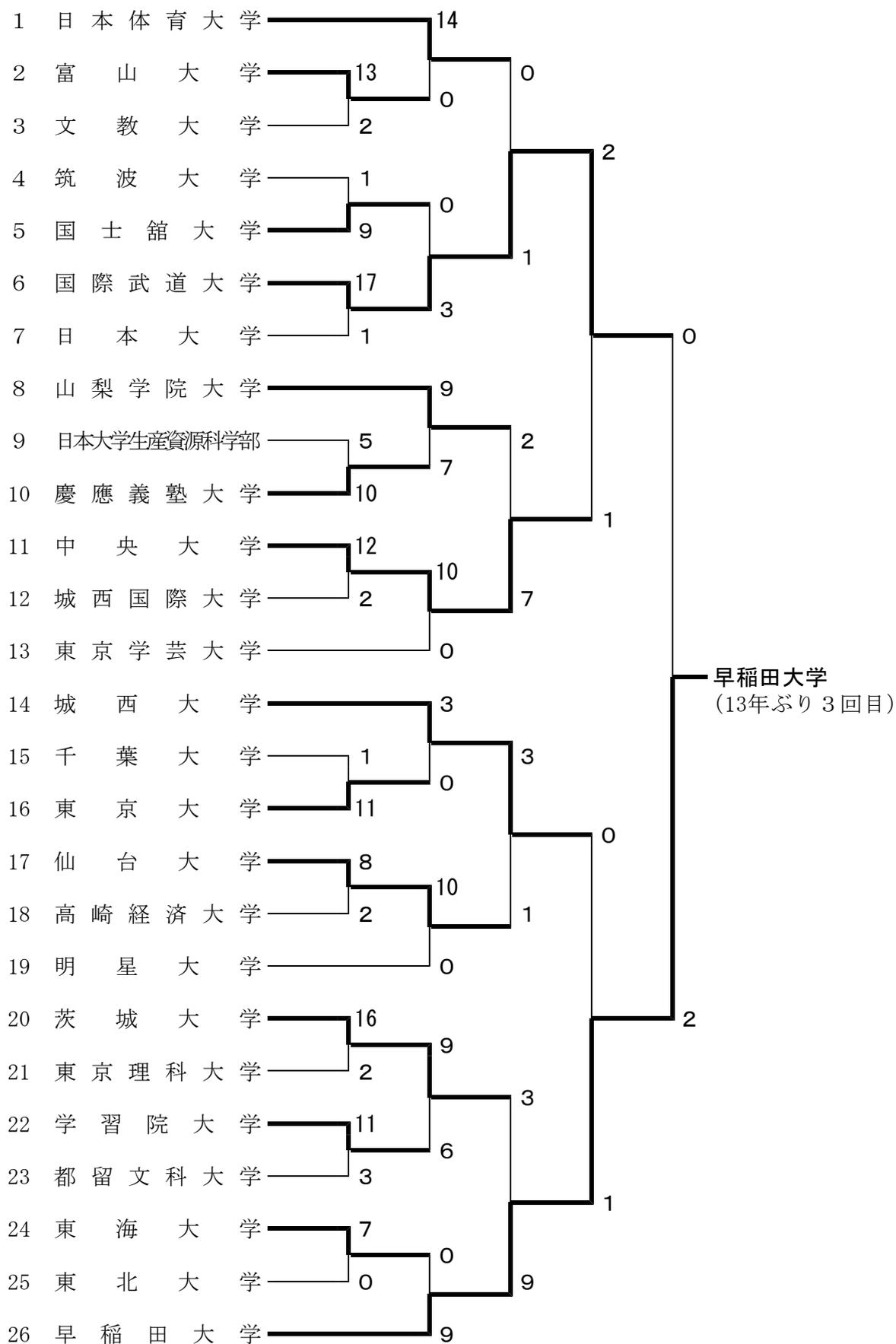
会期：平成16年8月6日（金）～9日（月）

会場：茨城県真壁町町民運動場 他

女子試合結果



男子試合結果

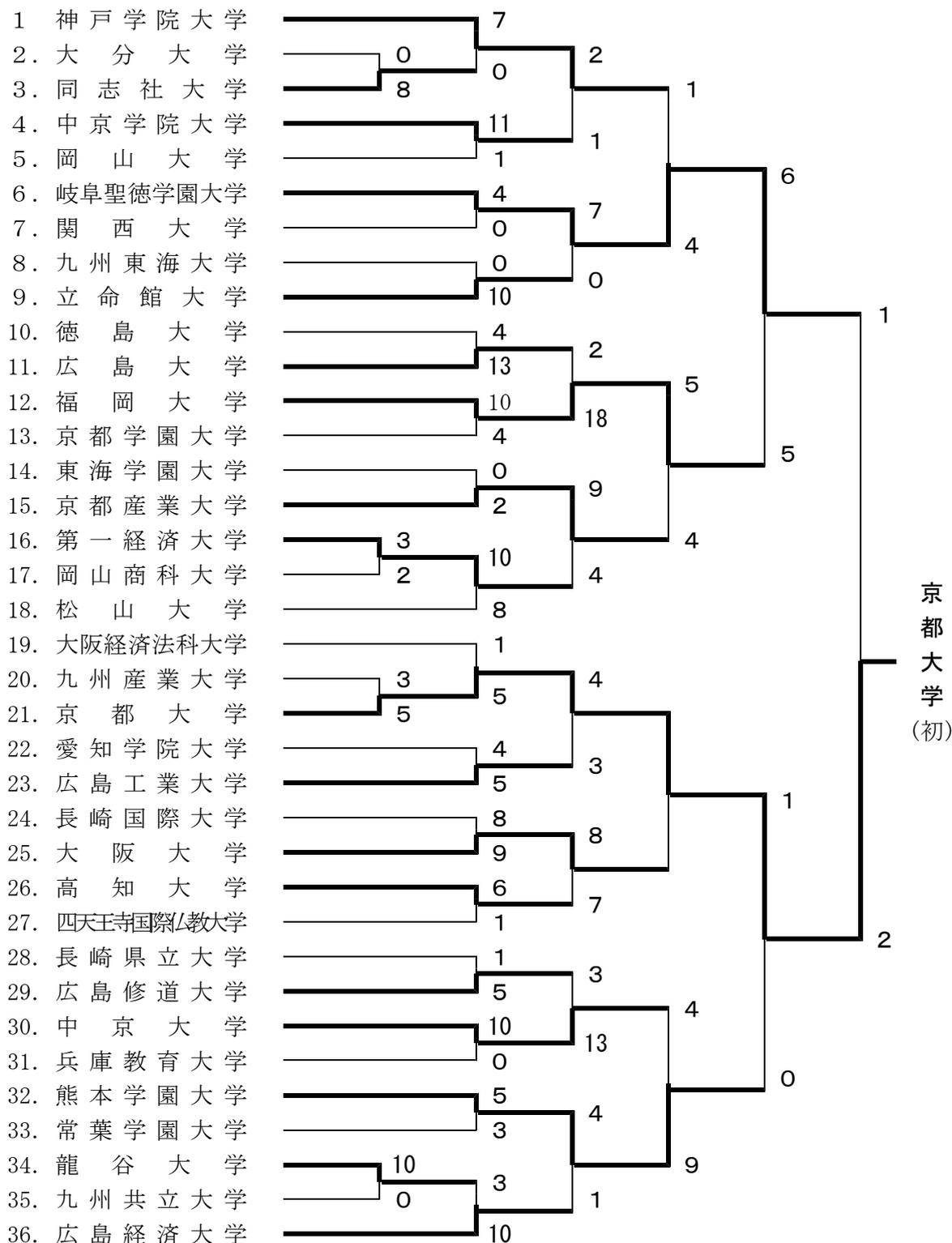


第36回西日本大学ソフトボール選手権大会

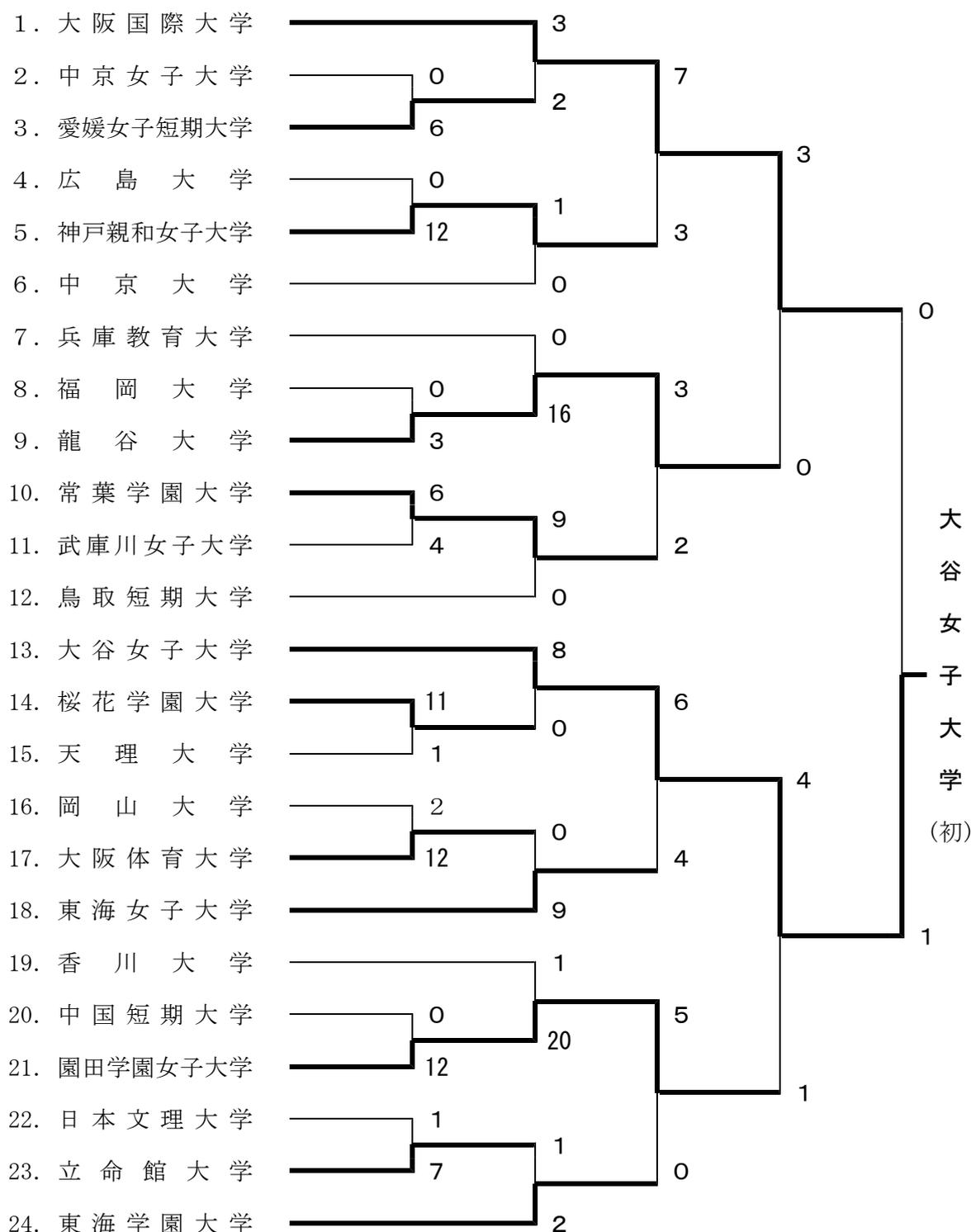
会期：平成16年8月7日（土）～10日（火）

会場：鳥取県北条町町民野球場・倉吉市倉吉産業高校野球場他（男子）
鳥取県大山町町民野球場・農村運動広場（女子）

男子試合結果



女子試合結果



講評 第36回西日本大学ソフトボール選手権大会は、男子は京都大学、女子は大谷女子大学の、ともに初優勝で幕を閉じた。

男子では、3回戦辺りまでは一方的な試合が目についたが、準々決勝戦からは内容的にも引き締まり、好ゲームが展開された。決勝戦は、打力の岐阜か投手力の京都か注目の一戦となったが、京都大学が岐阜聖徳学園大学の攻撃を1点に抑え、2-1で見事初優勝を飾った。

女子では、関西勢の戦力が優勢でベスト4に進んだのは全て関西の大学となった。決勝戦は、息詰まる投手戦が展開されタイブレーカーまで持ち込まれるのではないかとと思われるが、7回の裏に無死満塁と攻め立てた大谷女子大学が、二死から決勝点をもぎ取り初優勝を飾った。(中国地区常任理事 逢坂秀樹)

トヨタ・デンソー・豊田織機・東海理化杯 第3回大学ソフトボール東海オープン

会期：3月23日（火）～24日（水）

会場：安城市総合運動公園ソフトボール場（2球場）、野球場（3球場）、多目的グラウンド

1. 男子の部

予選リーグ戦（3月23日）

Aグループ	聖徳	金沢	名古屋	順位
岐阜聖徳学園	○	○	○	1
金沢	●	○	●	3
名古屋	●	○	○	2

順位決定リーグ戦（3月24日）

1～3位	聖徳	信州	愛学	順位
岐阜聖徳学園	○	○	○	優勝
信州	●	○	●	3位
愛知学院	●	○	○	2位

Bグループ	常葉	信州	南山	順位
常葉学園	○	○	○	2
信州	○	○	○	1
南山	●	●	○	3

4～6位	名古屋	常葉	静岡	順位
名古屋	○	○	○	5位
常葉学園	○	○	○	4位
静岡	●	●	○	6位

Cグループ	愛学	慶應	静岡	順位
愛知学院	○	○	○	1
慶應義塾	●	○	●	3
静岡	●	○	○	2

7～9位	金沢	南山	慶應	順位
金沢	○	○	○	8位 失点 39
南山	○	○	○	7位 失点 33
慶應義塾	●	○	○	9位 失点 54

2. 男子個人表彰

最優秀選手賞：山崎 優 中堅手（岐阜聖徳学園大学2年）

敢闘選手賞：堀部浩司右翼手（愛知学院大学4年）

3. 女子の部

予選リーグ戦（3月23日）

順位決定リーグ戦（3月24日）

Aグループ	日女体	福岡	東学	順位
日本女子体育		△ 3-3	● 1-2	3
福岡	△ 3-3		○ 3-0	1
東海学園	○ 2-1	● 0-3		2

1～3位	福岡	国士舘	中京	順位
福岡		○ 1-0	● 3-4	2位
国士舘	● 0-1		● 0-5	3位
中京	○ 4-3	○ 5-0		優勝

Bグループ	東女	国士舘	中女	順位
東海女子		● 1-3	○ 7-1	2
国士舘	○ 3-1		○ 7-6	1
中京女子	● 1-7	● 6-7		3

4～6位	東学	東女	東筑	順位
東海学園		○ 9-0	○ 5-2	4位
東海女子	● 0-9		○ 8-6	5位
東京学芸筑波	● 2-5	● 6-8		6位

Cグループ	中京	東筑	桜花	順位
中京		○ 1-0	○ 6-3	1
東京学芸筑波	● 0-1		○ 3-1	2
桜花学園	● 3-6	● 1-3		3

7～9位	日女体	中女	桜花	順位
日本女子体育		○ 4-3	○ 5-4	7位
中京女子	● 3-4		● 0-10	9位
桜花学園	● 4-5	○ 10-0		8位

4. 女子個人表彰

最優秀選手賞：東 瑠 璃投手（中京大学3年）

敢闘選手賞：牧野志摩子右翼手（福岡大学2年）

5. 概評

男子は岐阜聖徳学園大学が三連覇を飾り、女子は地元東海地区の中京大学が初出場初優勝を成し遂げた。今シーズン初の公式戦ということで、各チームとも堅さが見られたが、大学生らしい鋭刺としたプレーも随所に発揮されていた。優勝した両チーム以外にも、今年8月に富士宮市で開催されるインカレでの再会を期していたので、いっそうの飛躍を望みたい。なお、菜種梅雨にたたられが、開催地安城協会と審判団の献身的なご尽力で無事終了できたことに感謝したい。（東海地区大学ソフトボール連盟理事長 水谷 博）

第1回国公立大学ソフトボールオープン大会

会期：3月27日（土）～29日（月）

会場：兵庫教育大学、社町第1・3グラウンド

1. 男子

3/27（土）

《大学ソフトボール場》

佐賀大学 0-3 東京大学
岡山大学 4-9 兵庫教育大学
大阪大学 9-0 東京大学
佐賀大学 7-7 兵庫教育大学
岡山大学 0-10 大阪大学

《社町第3グラウンド》

高崎経済大学 0-1 広島大学
神戸大学 9-7 名古屋大学
高崎経済大学 2-5 名古屋大学
広島大学 8-6 神戸大学

3/28（日）

《大学ソフトボール場》

東京大学 2-1 名古屋大学
広島大学 3-4 兵庫教育大学
岡山大学 0-13 京都大学
高崎経済大学 8-2 兵庫教育大学
佐賀大学 2-5 京都大学

《大学サッカー・ラグビー場》

高崎経済大学 7-0 岡山大学
佐賀大学 2-6 大阪府立大学
名古屋大学 9-8 大阪府立大学
広島大学 2-1 東京大学

3/29（月）

《大学ソフトボール場》

高崎経済大学 1-1 京都大学
東京大学 9-5 大阪府立大学
大阪府立大学 9-10 兵庫県立大学
大阪大学 11-3 兵庫県立大学

《大学サッカー・ラグビー場》

東京大学 13-1 兵庫教育大学
佐賀大学 5-7 高崎経済大学
大阪大学 11-2 佐賀大学
京都大学 6-5 兵庫教育大学

2. 女子

3/27（土）

《大学サッカー・ラグビー場》

広島大学 4-8 岡山大学
奈良教育大学 8-2 兵庫教育大学
岡山大学 2-1 兵庫教育大学
広島大学 6-5 奈良教育大学

3/28（日）

《社町第1グラウンド》

広島大学 0-5 大阪国際大学
広島大学 8-0 兵庫教育大学
大阪国際大学 8-0 兵庫教育大学

3. 大会報告

新たな出会いの3日間

兵教大男子ソフトボール部主将 平野成一（4年）

3月27日～29日に兵庫教育大学で全国各地から集まった国公立大学によって、第1回の全国国公立大学オープン大会が開催されました。1日2試合というハードなものでありましたが、こういった時でしか試合できないチームとも試合をすることができ、とても充実した3日間でした。

今回は初めての開催ということもあり、移動などに関して不十分な点があったかもしれませんが、次回に実施する場合はもう少しスムーズな運営ができればと考えています。また、試合以外での参加大学間の交流の場があまりなかったのも、もっと交流できる時間を設定して、さらに充実した大会にできればと考えています。

最後になりましたが、この大会が盛り上がりを見せたのは、近畿地区のみならず、隣の東海や中国地区、さらには遠路である東京、関東、そして九州地区からはるばる参加して下さった大学のみなさんのお陰です。このつながりを大切にして、どこかの大会でまた会えた時にも「互いを試し合った仲間」として一緒に頑張っていきましょう！

大会の中で学んだこと

兵教大女子ソフトボール部主将 岸谷優子（3年）

私たちにとって、3月末に行われた国公立大学オープン大会はチームの課題を見つけることができた大会であったと同時に、「一つの大会を行う」ことの大変さを感じた大会でもありました。

私たち部員がお手伝いしたのは、大会運営のごく一部ではありましたが、会場の準備をしたり、各チームと連絡を取り合って時間を調節したり送迎したりと、普段は大会に出場する側である私たちが目にするものがない一面を経験させていただきました。そのことで、どのような大会であっても、睡眠時間、練習時間を削って準備して下さる大会主催者の方々、地元関係者の皆さんがおられ、そのおかげで大会が成り立っている、ということに改めて気付かされました。

これからは常に、その場その場でできることを、主体的に行うよう心がけ、今回の大会での経験を自分たちのものにしていけたらと考えています。

選手のみなさん、ありがとう —大会を無事終えて—

関西学生ソフトボール連盟理事長 兵庫教育大学 森田啓之

「無事に終わることができてよかったあー。正直初めてのことで大変だったなあ。でも、やってよかった!!」これが正直な気持ちである。

末井全日本学連理事長（兵庫県立大学）と「国公立大学の大会ができればいいなあ。」と昨年あたりから会話を繰り返しながら、ようやく年度末の実施に至った。参加募集をするときには、近畿地区以外からどれくらい集まるだろうか？と心配だったが、ふたを開けてみれば予想以上の反応でうれしい悲鳴。

この大会を企画した意図は、女子の「阪神オープン」同様、シーズン前のこの時期には一番を決めるよりもできるだけ多くのチームとの対戦に重きをおきたい、試合以外の場面で交流をすることで同じソフトボールをする仲間としてのつながりを作りたいということだった。

前者については、概ね達成できたように感じている（自己満足？）。ゲームを数試合行ったためにメンバーに入れ替わりがあったとはいえ、「あのチームはこんな特長がある。」・「全国にはいろんなチームがあるなあ。」というような感触や感想はどのチームも持てたのではないだろうか。肝心の試合内容の方についても、不十分である会場や審判数であったにも関わらず、どのチームも一生懸命で気持ちがよく、かつ中身の濃いプレイを展開してくれた。見学や応援にきた本学学生も非常に喜んでいた。

後者については、初日の夕方にジュースと少量のお菓子を囲んで、体育館で多くの参加チームが1時間弱いろいろと話をすることができた。男子部主将の言葉にあるように十分なものではなかったが、個人的にその光景は本当によかったし、うれしかった。

ただ、試行錯誤でバタバタと企画・運営したため、次回以降に開催する場合には検討すべきことも多々あるように思う。開催時期や日程、全体での勝敗の付け方など、上記の趣旨を踏まえながらも改善できればと考えている。それについては遠慮なく、私宛にメール（hmorita@life.hyogo-u.ac.jp）をもらえれば幸いである。

最後になるが、参加してくれたすべてのチーム、そして女子の部に特別参加として協力してくれた大阪国際大学チームに感謝の言葉を述べて、お礼のあいさつとしたい。



第1回 北信越大学オープンソフトボール大会

会期：平成16年4月10日(土)・11日(日)

会場：富山県富山市岩瀬スポーツ公園ソフトボール広場

1. 男子

チーム	信州	福井	同志社	富山	金沢	勝	敗	分	順位
信州	○	○	○	○	○	3	1	0	準優勝
福井県立	●	○	●	●	●	0	4	0	5位
同志社	○	○	○	○	○	4	0	0	優勝
富山	●	○	●	○	○	2	2	0	3位
金沢	●	○	●	●	○	1	3	0	4位

2. 女子

予選A	信州	大阪国際	中京女子	勝	敗	順位
信州	○	●	●	0	2	3位
大阪国際	○	○	●	1	1	2位
中京女子	○	○	○	2	0	1位

予選B	富山	上越教育	金沢	東海学園	勝	敗	順位
富山	○	○	○	●	2	1	2位
上越教育	●	○	●	●	0	3	4位
金沢	●	○	○	●	1	2	3位
東海学園	○	○	○	○	3	0	1位

女子決勝戦

中京女子大学	0	
東海学園大学	7	優勝



第5回「峠のまち」Matsuida Cup 男・女大学ソフトボール強化大会

会期：平成16年4月24日（土）～25日（日）

会場：群馬県碓氷郡松井田町

横川ふれあい運動公園野球場・坂本スポーツ広場

西横野多目的広場野球場・小日向農村広場

【男子】

(横川リーグ)

チーム名	千 葉	城 西	長 野	高崎A	順
千 葉	*	● 2-7	○ 29-3	● 12-13	3
城 西	○ 7-2	*	○ 22-2	● 0-4	2
長 野	● 3-29	● 2-22	*	● 5-20	4
高崎経A	○ 13-12	○ 4-0	○ 20-5	*	1

(碓氷リーグ)

チーム名	高崎B	信 州	山梨学	筑 波	順
高崎経B	*	○ 8-4	○ 9-2	○ 6-4	1
信 州	● 4-8	*	○ 7-5	○ 8-1	2
山梨学院	● 2-9	● 5-7	*	○ 6-2	3
筑 波	● 4-6	● 1-8	● 2-6	*	4

(順位決定戦)

- ◇ 1-2位決定戦：高崎経済大学A 5-4 高崎経済大学B
- ◇ 3-4位決定戦：城西大学 6-1 信州大学
- ◇ 5-6位決定戦：千葉大学 13-0 山梨学院大学
- ◇ 7-8位決定戦：筑波大学 14-0 長野大学

【女子】

(西横野リーグ)

チーム名	東 海	信 州	新島女	東福A	順
東 海	*	○ 23-4	○ 9-3	△ 2-2	2
信 州	● 4-23	*	● 2-7	● 0-28	4
新島女短	● 3-9	○ 7-2	*	● 0-3	3
東北福A	△ 2-2	○ 28-0	○ 3-0	*	1

(小日向リーグ)

チーム名	東福B	相模女	城 西	国際武	順
東北福B	*	○ 10-2	○ 3-2	○ 10-1	1
相模女子	● 2-10	*	● 0-4	○ 13-3	3
城 西	● 2-3	○ 4-0	*	○ 13-2	2
国際武道	● 1-10	● 3-13	● 2-13	*	4

1・2位は失点数による

(順位決定戦)

- ◇ 1-2位決定戦：東北福祉大学A 6-2 東北福祉大学B
- ◇ 3-4位決定戦：城西大学 8-6 東海大学
- ◇ 5-6位決定戦：相模女子大学 2-0 新島学園女子短期大学
- ◇ 7-8位決定戦：国際武道大学 16-3 信州大学

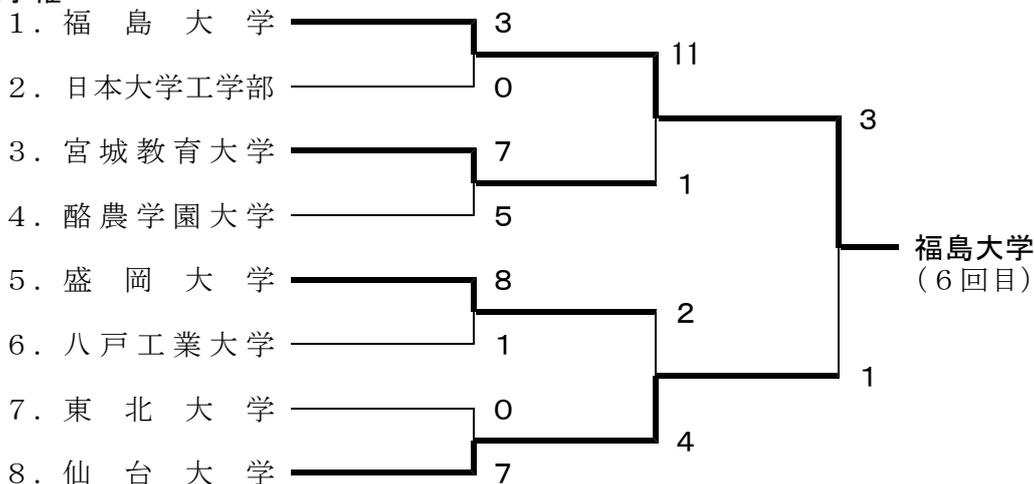
【北海道・東北地区】

第39回 全日本大学ソフトボール選手権大会北海道・東北予選会
兼、第25回 北海道・東北地区大学ソフトボール選手権大会

会期：平成16年5月21日(金)～23日(日)

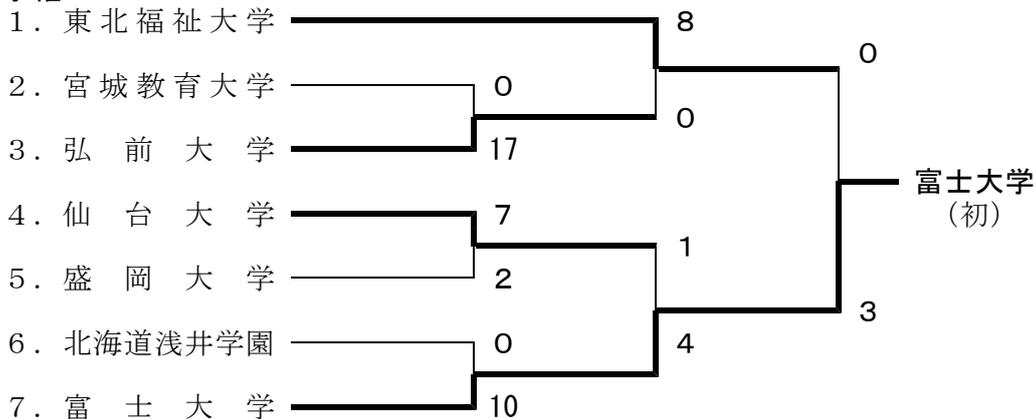
会場：宮城県蔵王町総合運動公園多目的グラウンドほか

男子選手権



インカレ出場は、福島大学と仙台大学

女子選手権



インカレ出場は、富士大学と東北福祉大学

東北地区大学ソフトボール春季リーグ戦

男子	八戸工業	盛岡	東北	宮城教育	仙台	福島	勝	敗	分	順位
八工			● 2-9	○ 8-5	● 1-10	● 0-3	1	3	0	5
盛岡			● 0-8	○ 20-1	● 2-17	△ 0-0	1	2	1	4
東北	○ 9-2	○ 8-0		○ 21-4	● 1-20	● 0-10	3	2	0	3
宮教	● 5-8	● 1-20	● 4-21		● 1-17	● 0-11	0	5	0	6
仙台	○ 10-1	○ 17-2	○ 20-1	○ 17-1		● 0-3	4	1	0	2
福島	○ 3-0	△ 0-0	○ 10-0	○ 11-0	○ 3-0		4	0	1	1

女子	弘前	盛岡	富士	東北福祉	仙台	勝	敗	分	順位
弘前		● 5-8	● 0-16	● 0-9	● 0-9	0	4	0	5位
盛岡	○ 8-5		● 0-7	● 2-10	● 0-15	1	3	0	4位
富士	○ 16-0	○ 7-0		● 0-2	○ 9-3	3	1	0	準優勝
東北福祉	○ 9-0	○ 10-2	○ 2-0		○ 3-2	4	0	0	優勝
仙台	○ 9-0	○ 15-0	● 3-9	● 2-3		2	2	0	3位

【関東地区】第12回関東学生ソフトボール選手権大会

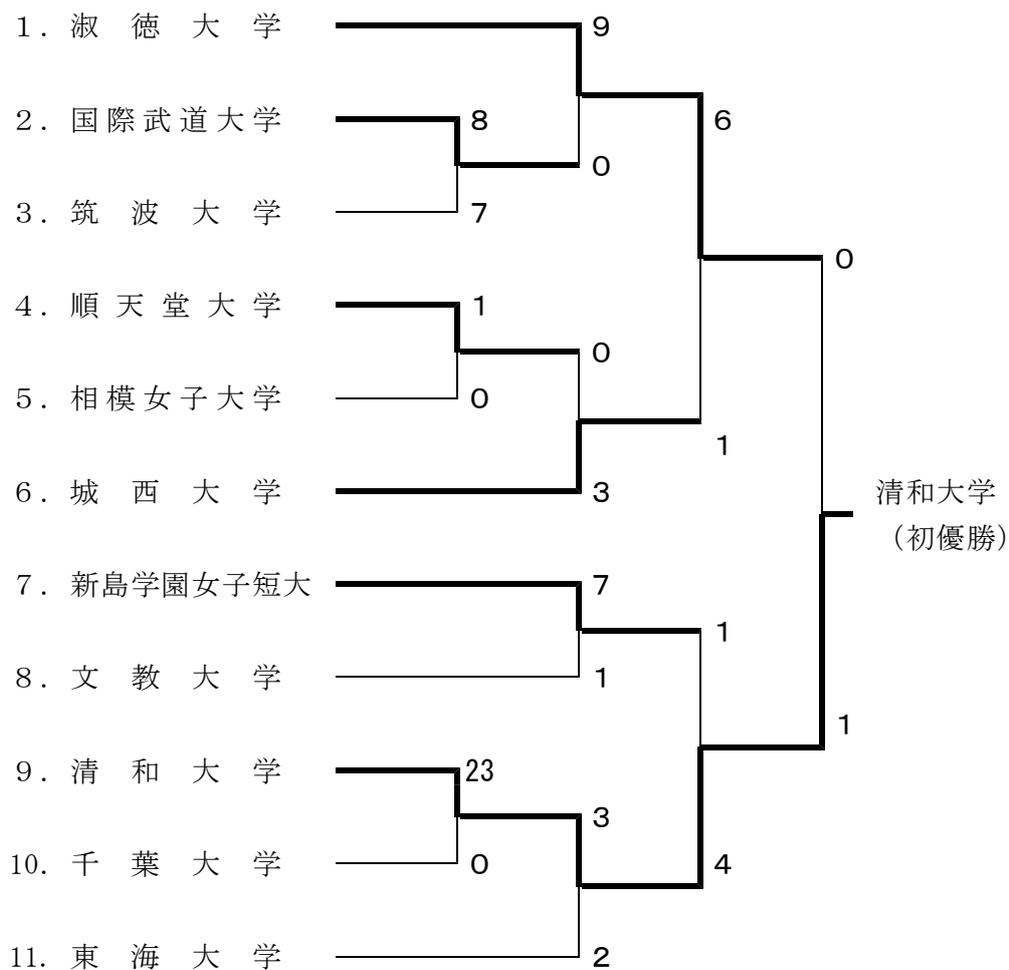
兼 第39回全日本大学ソフトボール選手権大会関東地区予選会

会期：平成16年5月22日（土）・23日（日）

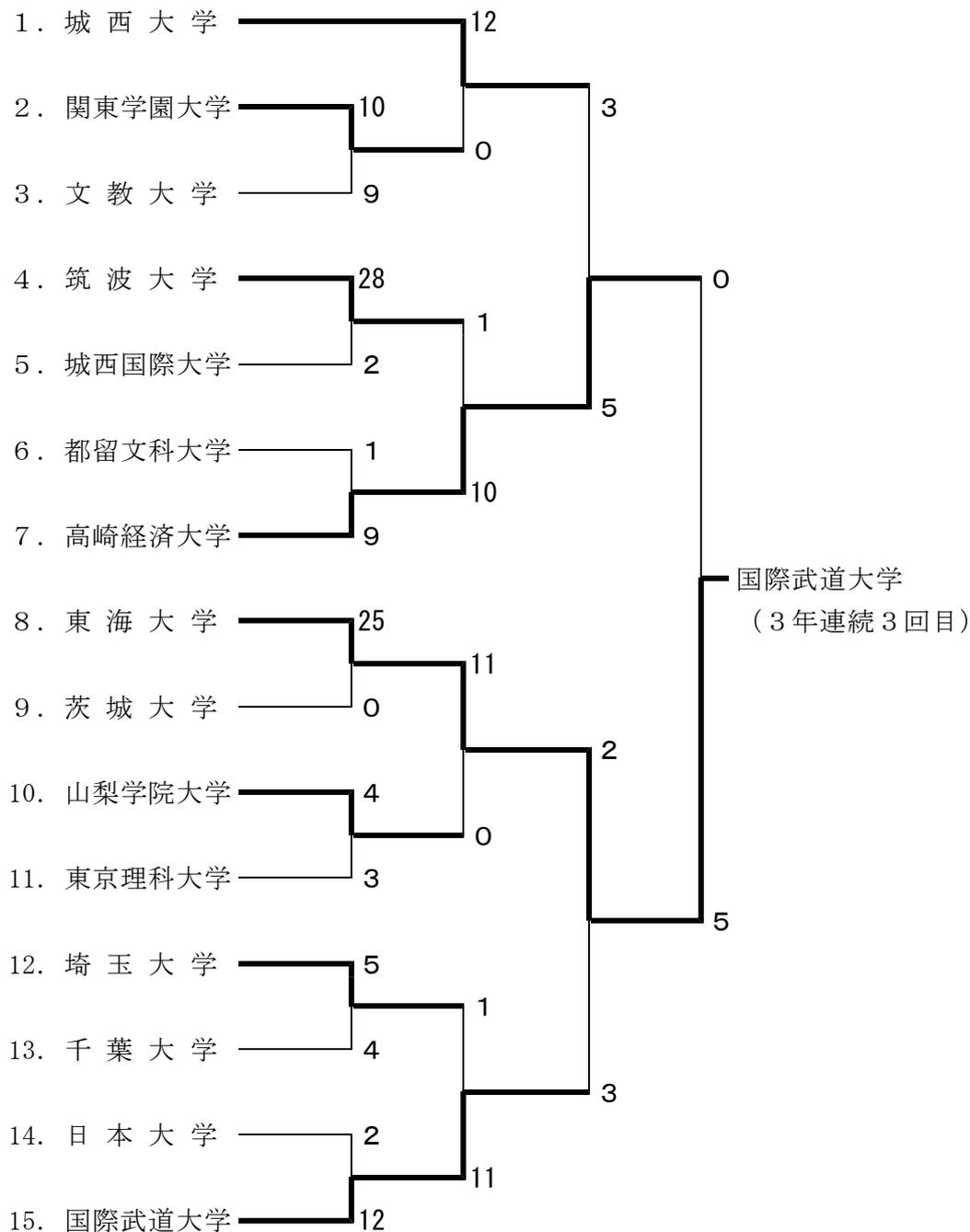
会場：埼玉県鴻巣市・糠田運動場（男子）

埼玉県北本市・北本総合公園多目的広場（女子）

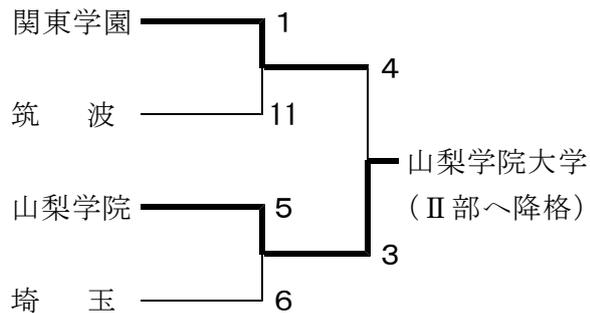
〔女子〕



[男子]



[I 部入部決定戦]



〈概要〉

女子では、今年度新規加盟の清和大学が風のように優勝をさらっていった。その余波を受けて昨年優勝のインカレ常連校・東海大学が姿を消すという波乱含みの大会となった。清和大学は1年生主体の若いチームであり、今後の成長も大いに期待できる要素にあふれている。今夏のインカレにおいても熱い風を吹かしてもらいたい。

昨年度インカレチャンピオンの淑徳大学は、今年も強力なチーム力を発揮して決勝戦まで駒を進めたが、新しい力の前に受け身のゲームにしてしまい不覚を喫してしまった。とはいえ、関東学生の中では選手層も厚くもっとも安定感のあるチームである。インカレ連覇をめざしてさらに充実を図ってもらいたい。インカレには、このほかに昨年に続く城西大学と2年ぶりの新島学園女子短期大学が出場する。

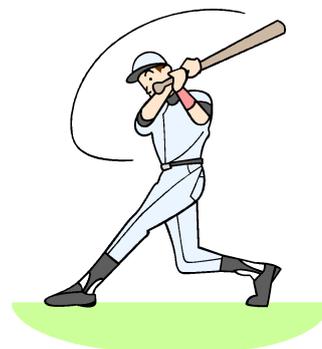
男子では、昨年のベスト4チームがそれぞれ危なげない戦いぶりで上位進出し、インカレへの出場権を獲得した。その中でも3年連続の優勝を果たした国際武道大学は、選手層にも厚みがあり、投攻守のバランスもずば抜けている。とりわけ投手陣が豊富なだけに、しばらく国際武道の時代が続くのではないかと思わせる。

決勝戦では、エース高橋を中心に守り勝ってきた高崎経済大学にいきなりミスが出て3点の先制を許し、終始支配されるゲームにしてしまった。国際武道の畠と平良の1・2番コンビにはスピード感があり守りのリズムを作らせず、また富田投手は左腕からくり出すキレのあるスライダーを武器に高崎経済打線に粘りを出させず、完封した。

ところで、今大会では1点を争う好ゲームも多く見られ、小雨交じりの肌寒い大会に熱気を提供した。力の接近したチームが増えてきたことが窺われ、秋のリーグ戦では一層の熱戦が期待できそうである。とくに初めてI部で戦うことになる埼玉大学は、投打の中心となる安藤選手のでき次第では台風の目となりそうである。

今夏のインカレには国際武道大、高崎経済大、城西大、東海大が出場する。城西大には急成長した川島を加えた加藤、植松の投手陣に元気があり、東海大も猪股、悴田を中心とした強力打線は健在である。高崎経済大は打線の底上げで高橋、佐土原の投手陣を楽にさせたい。昨年のインカレでは揃ってベスト8入りし高崎経済大と東海大は3位入賞するなど、関東学生の実力を示すことができた。各チームには今年も上位進出を期待したい。なかでも、チャンピオンチームである国際武道大にはその期待を大きくしている。

(文責：高橋伸次)



第4回関東学生男子ソフトボール秋季リーグ戦

会期：平成16年10月9日（土）～10月11日（月）、11月3日（水）

会場：埼玉県・毛呂山町西戸グラウンド

大類ソフトボールパーク

【I部リーグ】

チーム名	埼玉	城西	高崎経済	国際武道	東海	筑波	勝-負	順位
埼玉	*	●3-6	●0-7	●0-10	●0-10	●3-5	0-5	6位
城西	○6-3	*	○8-1	●1-2	○4-0	○10-2	4-1	準優勝
高崎経済	○7-0	●1-8	*	●2-10	●3-5	○8-6	2-3	4位
国際武道	○10-0	○2-1	○10-2	*	○14-1	○10-1	5-0	優勝
東海	○10-0	●0-4	○5-3	●1-14	*	○3-1	3-2	3位
筑波	○5-3	●2-10	●6-8	●1-10	●1-3	*	1-4	5位

第5位の筑波大学は2部3位と、第6位の埼玉大学は2部2位とそれぞれ入れ替え戦
 ☆最優秀選手賞 松岡良輔（国際武道大学2年） ☆優秀選手賞 植松洋介（城西大学3年）

【II部Aリーグ】

チーム名	中央学院	日本	文教	芝浦工業	東京国際	茨城	勝-負	順位
中央学院	*	○8-3	●10-14	○23-3	○4-1	○7-6	4-1	2位
日本	●3-8	*	●7-28	○22-3	●18-25	○23-6	2-3	4位
文教	○14-10	○28-7	*	○16-8	○11-1	○7-0	5-0	1位
芝浦工業	●3-23	●3-22	●8-16	*	○10-3	○15-8	2-3	5位
東京国際	●1-4	○25-18	●1-11	●3-10	*	○14-7	2-3	3位
茨城	●6-7	●6-23	●0-7	●8-15	●7-14	*	0-5	6位

3位～5位は得失点差による

【Ⅱ部Bリーグ】

チーム名	東京理科	城西国際	千葉	都留文科	山梨学院	勝-敗	順位
東京理科	*	○9-3	●3-13	○9-2	○8-5	3-1	2位
城西国際	●3-9	*	○7-5	●7-12	●2-10	1-3	5位
千葉	○13-3	●5-7	*	○13-4	○13-9	3-1	1位
都留文科	●2-9	○12-7	●4-13	*	●6-9	1-3	4位
山梨学院	●5-8	○10-2	●9-13	○9-6	*	2-2	3位

1・2位および4・5位は得失点差による

【順位決定戦】

- ◇1-2位決定戦 文教大学 6-9 千葉大学
- ◇3-4位決定戦 中央学院大学 2-9 東京理科大学
- ◇5-6位決定戦 東京国際大学 0-13 山梨学院大学
- ◇7-8位決定戦 日本大学 9-15 都留文科大学
- ◇9-10位決定戦 芝浦工業大学 15-6 城西国際大学

☆Ⅱ部最終順位☆

- 第1位：千葉大学 (Ⅰ部昇格)
- 第2位：文教大学 (Ⅰ部6位と入れ替え戦へ)
- 第3位：東京理科大学 (Ⅰ部5位と入れ替え戦へ)
- 第4位：中央学院大学
- 第5位：山梨学院大学
- 第6位：東京国際大学
- 第7位：都留文科大学
- 第8位：日大生物資源科学部
- 第9位：芝浦工業大学
- 第10位：城西国際大学
- 第11位：茨城大学

☆最優秀選手賞☆ 原 亮義 (千葉大学2年)

☆優秀選手賞☆ 中里和徳 (文教大学3年)

【Ⅰ部・Ⅱ部入れ替え戦】

- ◇筑波大学 7-5 東京理科大学 (筑波大学はⅠ部残留)
- ◇埼玉大学 8-1 文教大学 (埼玉大学はⅠ部残留)

第4回関東学生女子ソフトボール秋季リーグ戦

会期：平成16年10月9日（土）～11日（月）

会場：群馬県・安中市ひさよし運動緑地

【Aブロック】

チーム名	相模女子	淑徳	東海	文教	城西	勝-敗	得-失	順位
相模女子	*	●0-8	●2-3	○8-5	●0-12	1-3	10-28	4位
淑徳	○8-0	*	○5-1	○4-3	●4-7	3-1	21-11	3位
東海	○3-2	●1-5	*	○7-1	○1-0	3-1	12-8	2位
文教	●5-8	●3-4	●1-7	*	●0-12	0-4	9-31	5位
城西	○12-0	○7-4	●0-1	○12-0	*	3-1	31-5	1位

1位～3位は総失点による

【Bブロック】

チーム名	清和	新島	筑波	順天堂	国際武	勝-敗	得-失	順位
清和	*	○4-1	○7-0	○7-3	○2-1	4-0	20-5	1位
新島学園	●1-4	*	○9-0	○2-1	○8-1	3-1	20-6	2位
筑波	●0-7	●0-9	*	●2-3	●1-4	0-4	3-23	5位
順天堂	●3-7	●1-2	○3-2	*	○6-4	2-2	13-15	3位
国際武道	●1-2	●1-8	○4-1	●4-6	*	1-3	10-17	4位

【順位決定戦】

- ◇1-2位決定戦 城西大学 5-3 清和大学
- ◇3-4位決定戦 新島学園短大 3-2 東海大学
- ◇5-6位決定戦 淑徳大学 7-0 順天堂大学
- ◇7-8位決定戦 国際武道大学 3-1 相模女子大学
- ◇9-10位決定戦 文教大学 4-3 筑波大学

☆最終順位

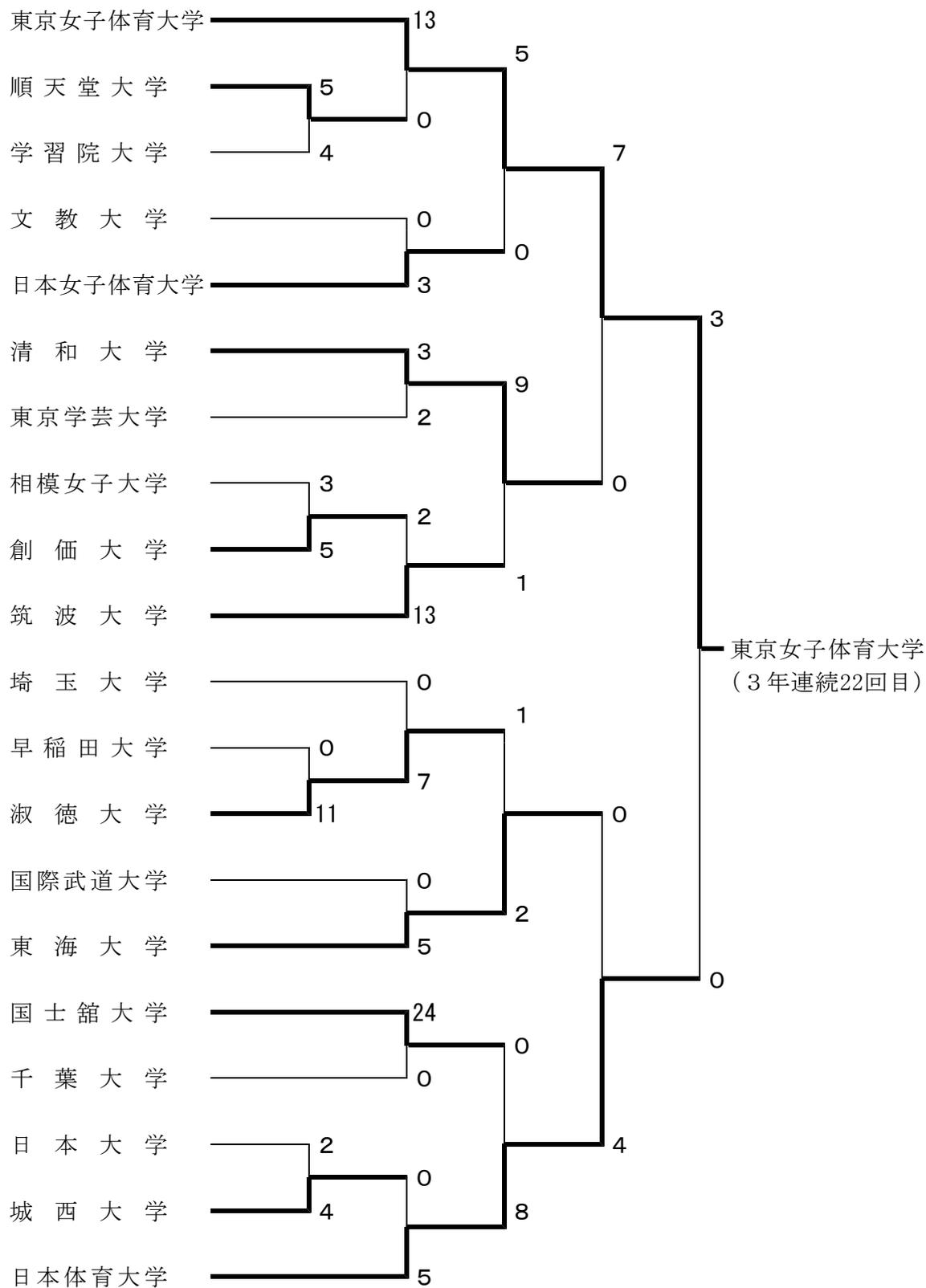
- 第1位：城西大学 第4位：東海大学 第7位：国際武道大学 第10位 筑波大学
- 第2位：清和大学 第5位：淑徳大学 第8位：相模女子大学
- 第3位：新島学園短大 第6位：順天堂大学 第9位：文教大学

第35回関東大学ソフトボール選手権大会

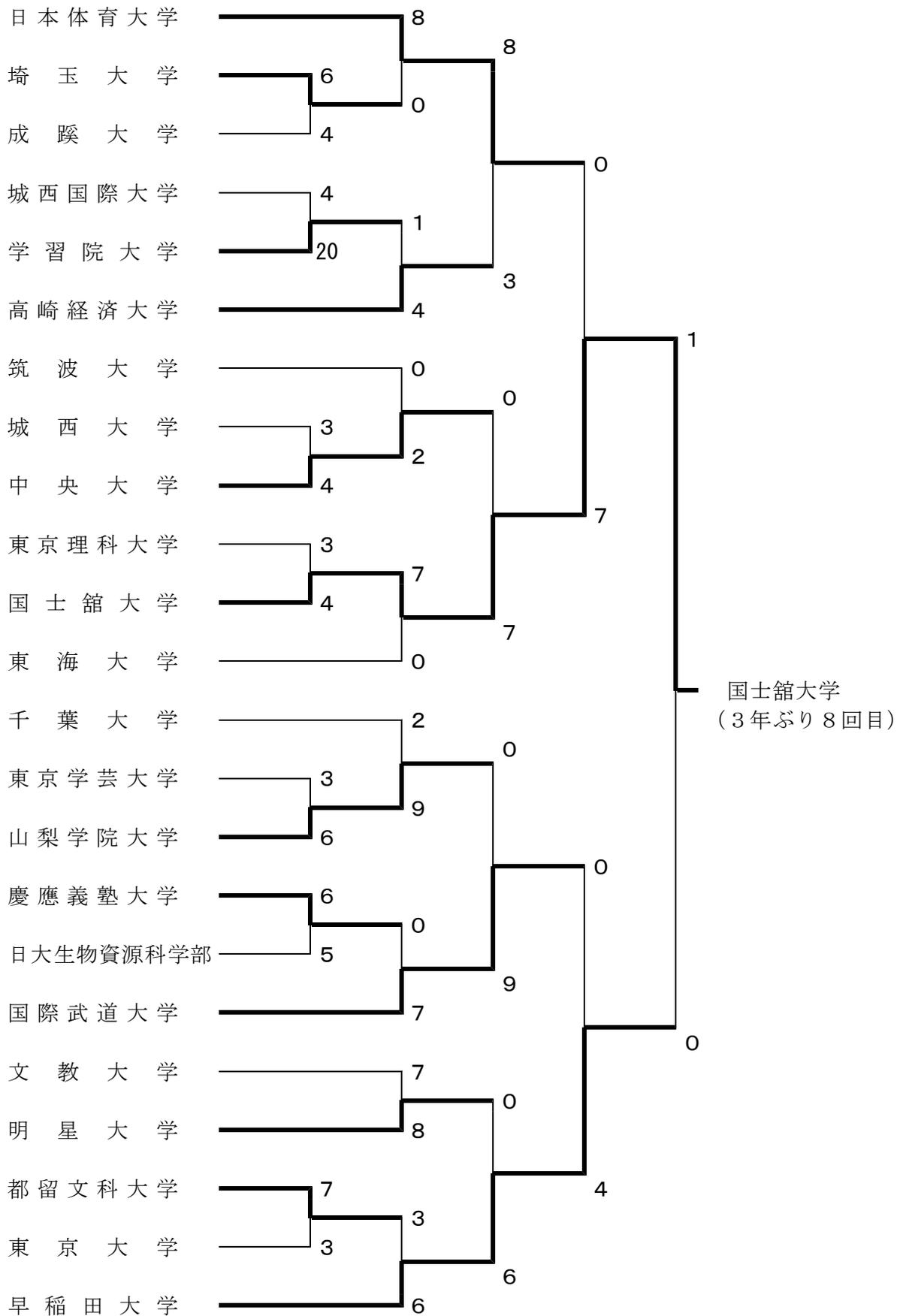
会期：平成16年11月5日（金）～8日（月）

会場：山梨県甲府市・小瀬スポーツ公園球技場、緑が丘スポーツ公園ほか

〈女子の部〉



〈男子の部〉



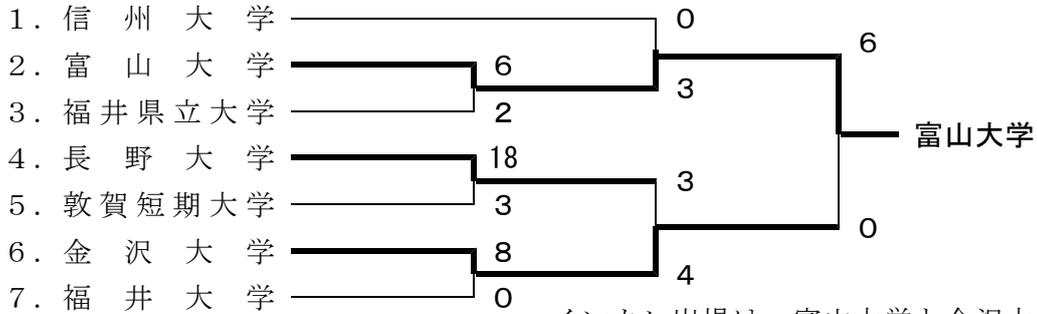
【北信越地区】

第10回 北信越地区大学男子・女子ソフトボール選手権大会 兼、全日本大学ソフトボール選手権大会北信越予選会

会期：平成16年5月22日(土)・23日(日)

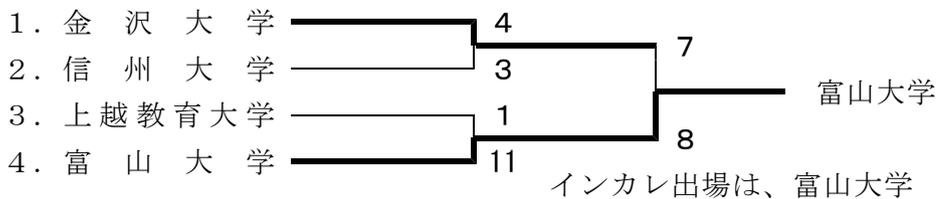
会場：長野県千曲市万葉の里

1. 男子選手権



インカレ出場は、富山大学と金沢大学

2. 女子選手権



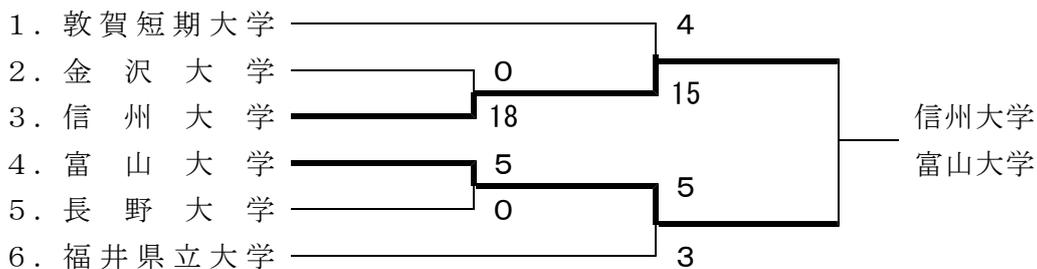
インカレ出場は、富山大学

第11回 北信越地区大学男子・女子新人ソフトボール大会

会期：平成16年9月19日(日)・20日(月)

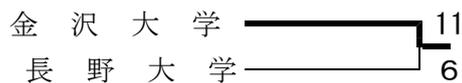
会場：富山県立山町町民グラウンド他

1. 男子

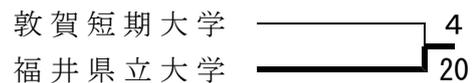


決勝戦は雨天のため中止、両チーム優勝

敗者戦



3位決定戦



2. 女子

チーム	富山	信州	上越教育	金沢	勝	敗	順位
富山	-	● 3-6	○ 13-7	▲ 9-9	1	2	3位
信州	○ 6-3	-	○ 12-3	○ 6-3	3	0	優勝
上越教育	● 7-13	● 3-12	-	● 1-18	0	3	4位
金沢	△ 9-9	● 3-6	○ 18-1	-	2	1	2位

※富山大-金沢大の結果は抽選

【東京地区】

平成16年度第36回東京都大学ソフトボール春季リーグ戦

男子1部

順位	大学名	日体	早稲田	国士館	明星	中央	明治	勝敗分
優勝	日本体育大		○ 2-1	● 2-4	○ 7-0	○ 5-0	○ 10-0	4・1・0
優勝	早稲田大	● 1-2		○ 1-0	○ 8-1	○ 2-0	○ 9-0	4・1・0
優勝	国士館大	○ 4-2	● 0-1		○ 11-0	○ 2-1	○ 13-1	4・1・0
第4位	明星大	● 0-7	● 1-8	● 0-11		○ 5-1	○ 4-1	2・3・0
第5位	中央大	● 0-5	● 0-2	● 1-2	● 1-5		○ 11-5	1・4・0
第6位	明治大	● 0-10	● 0-9	● 1-13	● 1-4	● 5-11		0・5・0

男子2部

順位	大学名	東京	東農	桜美林	学習院	日本	杏林	勝敗分
優勝	東京大		○ 15-5	○ 7-1	○ 8-1	○ 9-0	○ 12-6	5・0・0
第2位	東京農業大	● 5-15		○ 9-3	● 1-5	○ 12-11	○ 6-5	3・2・0
第3位	桜美林大	● 1-7	● 3-9		○ 5-4	● 2-11	○ 7-2	2・3・0
第3位	学習院大	● 1-8	○ 5-1	● 4-5		○ 9-7	● 1-9	2・3・0
第3位	日本大	● 0-9	● 11-12	○ 11-2	● 7-9		○ 7-3	2・3・0
第6位	杏林大	● 6-12	● 5-6	● 2-7	○ 9-1	● 3-7		1・4・0

男子3部

順位	大学名	専修	慶応	成蹊	東洋	国際	一橋	勝敗分
優勝	専修大		○ 7-3	○ 2-1	○ 18-9	○ 8-2	○ 13-0	5・0・0
第2位	慶應義塾大	● 3-7		○ 4-2	△ 12-12	○ 17-0	○ 15-5	3・1・1
第3位	成蹊大	● 1-2	● 2-4		○ 21-1	○ 11-2	○ 19-2	3・2・0
第4位	東洋大	● 9-18	△ 12-12	● 1-21		○ 11-5	○ 6-5	2・2・1
第5位	国際基督教	● 2-8	● 0-17	● 2-11	● 5-11		○ 23-8	1・4・0
第6位	一橋大	● 0-13	● 5-15	● 2-19	● 5-6	● 8-23		0・5・0

男子4部

順位	大学名	東経	東学	帝京	武蔵	日歯	文教湘	勝敗分
優勝	東京経済大		○ 11-9	○ 20-3	○ 25-3	○ 24-4	○ 16-11	5・0・0
第2位	東京学芸大	● 9-11		○ 11-1	○ 14-1	○ 23-1	○ 11-1	4・1・0
第3位	帝京大	● 3-20	● 1-11		○ 18-5	○ 30-17	○ 19-14	3・2・0
第3位	武蔵工業大	● 3-25	● 1-14	● 5-18		○ 22-5	○ 21-8	2・3・0
第5位	日本歯科大	● 4-24	● 1-23	● 17-30	● 5-22		○ 21-9	1・4・0
第6位	文教大湘南	● 11-16	● 1-16	● 14-19	● 8-21	● 9-21		0・5・0

女子1部

順位	大学名	東女体	日体	日女体	国士館	東芸	日本	勝敗分
優勝	東女体大		● 0-4	○ 9-0	○ 3-2	○ 12-1	○ 9-0	4・1・0
優勝	日本体育大	○ 4-0		● 1-5	○ 5-3	○ 7-0	○ 8-0	4・1・0
優勝	日女体大	● 0-9	○ 5-1		○ 2-1	○ 2-0	○ 7-0	4・1・0
第4位	国士館大	● 2-3	● 3-5	● 1-2		○ 8-1	○ 7-2	3・2・0
第5位	東京学芸大	● 1-12	● 0-7	● 0-2	● 1-8		○ 5-1	1・4・0
第6位	日本大	● 0-9	● 0-8	● 0-7	● 2-7	● 1-5		0・5・0

女子2部

順位	大学名	東女体	日体	日女体	国士館	東芸	日本	勝敗分
優勝	早稲田大		○ 12-1	○ 15-0	○ 9-0	○ 7-0	○ 9-0	5・0・0
第2位	学習院大	● 1-12		○ 13-5	○ 9-6	○ 11-1	○ 7-0	4・1・0
第3位	明治大	● 0-15	● 5-13		● 2-4	○ 8-5	○ 5-2	2・3・0
第4位	中央大	● 0-9	● 6-9	○ 4-2		△ 7-7	● 7-8	1・3・1
第5位	創価大	● 0-7	● 1-11	● 5-8	△ 7-7		○ 10-2	1・3・1
第6位	成蹊大	● 0-9	● 0-7	● 2-5	○ 8-7	● 2-10		1・4・0

女子3部

順位	大学名	桜美林	国際	杏林	専修	慶応	勝敗分
優勝	桜美林大		● 3-6	○ 12-0	○ 17-0	○ 11-1	3・1・0
第2位	国際基督教	○ 6-3		○ 13-4	● 7-11	● 4-11	2・2・0
第2位	杏林大	● 0-12	● 4-13		○ 10-9	○ 13-1	2・2・0
第2位	専修大	● 0-17	○ 11-7	● 9-10		○ 8-7	2・2・0
第5位	慶應義塾大	● 1-11	○ 11-4	● 1-13	● 7-8		1・3・0

第36回東京都大学ソフトボール春季リーグ戦入れ替え戦

☆男子1部・2部

明治大(1部6位) 2-3 東京大(2部1位) = 東京大は1部昇格

☆男子2部・3部

杏林大(2部6位) 9-6 専修大(3部1位) = 杏林大は2部残留

☆男子3部・4部

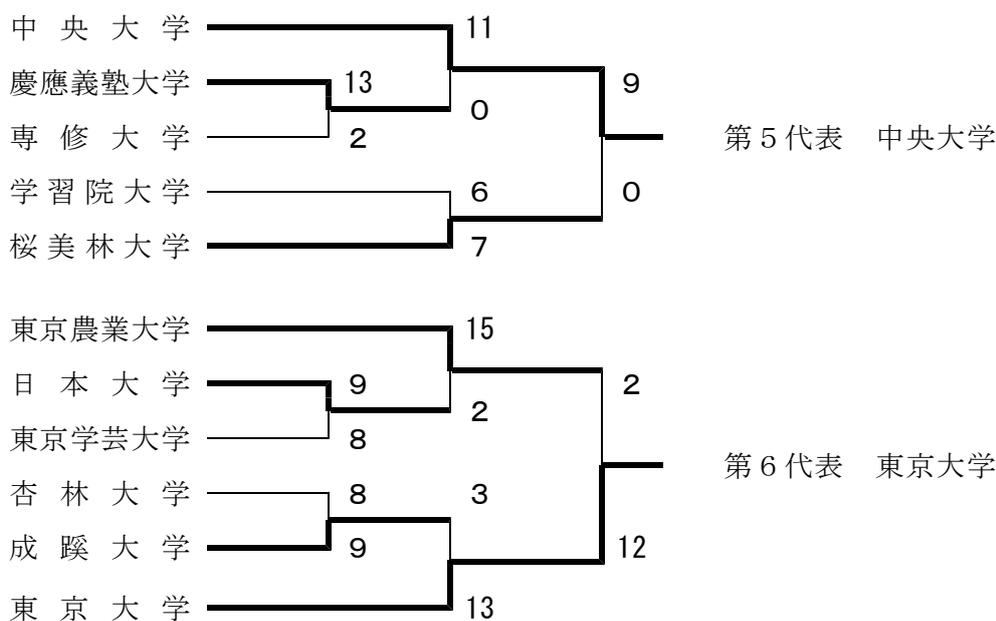
一橋大(3部6位) 2-13 東京経済大(4部1位) = 東京経済大は3部昇格

☆女子1部・2部

日本大(1部6位) 6-7 早稲田大(2部1位) = 早稲田大は1部昇格

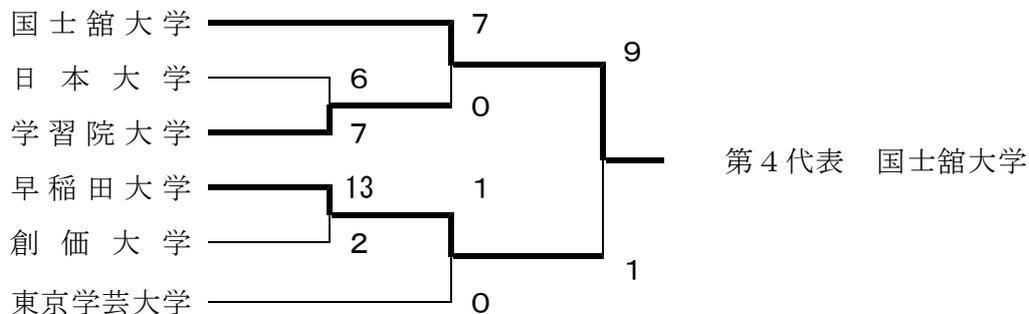
文部科学大臣杯第39回全日本大学選手権東京都予選

【男子】



なお、東京地区の第39回全日本大学選手権大会出場チームは、上記以外に第1・第2・第3・第4代表は東京都学連推薦で日本体育大学・早稲田大学・国士舘大学・明星大学である。

【女子】



なお、東京地区の第39回全日本大学選手権大会出場チームは、上記以外に、第1・第2・第3代表は東京都学連推薦で東京女子体育大学・日本体育大学・日本女子体育大学である。

平成16年度第36回東京都大学ソフトボール秋季リーグ戦

男子1部

順位	大学名	日体	国士舘	早稲田	明星	中央	東京	勝敗分
優勝	日本体育大		○ 4-0	○ 3-0	○ 10-1	○ 6-2	○ 6-0	5・0・0
第2位	国士舘大	● 0-4		○ 6-1	○ 8-0	○ 8-2	○ 8-1	4・1・0
第3位	早稲田大	● 0-3	● 1-6		○ 7-0	○ 9-0	○ 8-3	3・2・0
第4位	明星大	● 1-10	● 0-8	● 0-7		○ 4-3	○ 3-0	2・3・0
第5位	中央大	● 2-6	● 2-8	● 0-9	● 3-4		○ 7-0	1・4・0
第6位	東京大	● 0-6	● 1-8	● 3-8	● 0-3	● 0-7		0・5・0

男子2部

順位	大学名	桜美林	東農	明治	学習院	杏林	日本	勝敗分
優勝	桜美林大		△ 4-4	○ 6-4	● 6-9	○ 9-8	○ 5-1	3・1・1
第2位	東京農業大	△ 4-4		● 5-10	○ 9-3	○ 4-3	○ 12-6	3・1・1
第3位	明治大	● 4-6	○ 10-5		○ 8-7	△ 5-5	○ 8-4	3・1・1
第4位	学習院大	○ 9-6	● 3-9	● 7-8		○ 6-5	○ 9-6	3・2・0
第5位	杏林大	● 8-9	● 3-4	△ 5-5	● 5-6		○ 7-5	1・3・1
第6位	日本大	● 1-5	● 6-12	● 4-8	● 6-9	● 5-7		0・5・0

※1～3位は当該チーム間で負けがない桜美林大学が1位、2位と3位は失点による。

男子3部

順位	大学名	慶応	専修	成蹊	国際	東洋	東経	勝敗分
優勝	慶應義塾大		○ 4-3	○ 4-3	○ 9-6	○ 10-0	○ 8-1	5・0・0
第2位	専修大	● 3-4		○ 3-1	● 6-7	○ 8-2	○ 12-2	3・2・0
第2位	成蹊大	● 3-4	● 1-3		○ 12-2	○ 9-2	○ 10-5	3・2・0
第2位	国際基督教	● 6-9	○ 7-6	● 2-12		○ 7-1	○ 9-0	3・2・0
第5位	東洋大	● 0-10	● 2-8	● 2-9	● 1-7		○ 9-8	1・4・0
第6位	東京経済大	● 1-8	● 2-12	● 5-10	● 0-9	● 8-9		0・5・0

男子4部

順位	大学名	学芸	文教	日歯	一橋	帝京	武蔵工	勝敗分
優勝	東京学芸大		○ 13-2	○ 9-0	○ 10-1	○ 12-0	○ 20-7	5・0・0
第2位	文教大湘南	● 2-13		○ 17-7	○ 9-0	○ 10-6	○ 9-0	4・1・0
第3位	日本歯科大	● 0-9	● 7-17		○ 17-16	○ 10-7	○ 16-15	3・2・0
第4位	一橋大	● 1-10	● 0-9	● 16-17		○ 18-15	○ 25-15	2・3・0
第5位	帝京大	● 0-12	● 6-10	● 7-10	● 15-18		○ 9-1	1・4・0
第6位	武蔵工業大	● 7-20	● 0-9	● 15-16	● 15-25	● 1-9		0・5・0

女子1部

順位	大学名	日体	東女体	国士館	学芸	日女体	早稲田	勝敗分
優勝	日本体育大		○ 3-0	○ 10-3	○ 10-0	○ 4-1	○ 7-0	5・0・0
第2位	東女体大	● 0-3		○ 9-0	○ 7-0	○ 5-0	○ 7-0	4・1・0
第3位	国士館大	● 3-10	● 0-9		○ 2-1	○ 1-0	○ 4-2	3・2・0
第4位	東京学芸大	● 0-10	● 0-7	● 1-2		○ 9-0	○ 10-1	2・3・0
第5位	日女体大	● 1-4	● 0-5	● 0-1	● 0-9		○ 5-0	1・4・0
第6位	早稲田大	● 0-7	● 0-7	● 2-4	● 1-10	● 0-5		0・5・0

女子2部

順位	大学名	日本	創価	明治	学習院	中央	成蹊	勝敗分
優勝	日本大		○ 14-1	○ 11-1	○ 10-1	○ 9-0	○ 11-2	5・0・0
第2位	創価大	● 1-14		● 0-8	○ 7-4	○ 4-2	○ 4-0	3・2・0
第3位	明治大	● 1-11	○ 8-0		○ 8-5	● 2-3	△ 6-6	2・2・1
第4位	学習院大	● 1-10	● 4-7	● 5-8		○ 5-4	○ 9-8	2・3・0
第5位	中央大	● 0-9	● 2-4	○ 3-2	● 4-5		○ 19-0	2・3・0
第6位	成蹊大	● 2-11	● 0-4	△ 6-6	● 8-9	● 0-19		0・4・1

※4位と5位は当該チーム間の勝敗による

女子3部

順位	大学名	桜美林	国際	専修	慶応	杏林	本女	勝敗分
優勝	桜美林大		△ 5-5	○ 12-1	○ 13-0	○ 12-7	○ 9-0	4・0・1
第2位	国際基督教	△ 5-5		○ 19-8	○ 10-3	○ 10-1		3・0・1
第3位	専修大	● 1-12	● 8-19		○ 8-4	○ 22-7	○ 12-5	3・2・0
第4位	慶應義塾大	● 0-13	● 3-10	● 4-8		○ 9-1	○ 12-3	2・3・0
第5位	杏林大	● 7-12	● 1-10	● 7-22	● 1-9		○ 12-10	1・4・0
第6位	日本女子大	● 0-9		● 5-12	● 3-12	● 10-12		0・4・0

第36回東京都大学ソフトボール秋季リーグ戦入れ替え戦

- 男子1・2部 東京大(1部6位)2-1 桜美林大(2部1位)=東京大は1部残留
- 男子2・3部 日本大(2部6位)11-4 慶應義塾大(3部1位)=日本大は2部残留
- 男子3・4部 東京学芸大(4部1位)19-16 東京経済大(3部6位)=東学大は3部昇格
- 女子1・2部 早稲田大(1部6位)15-7 日本大(2部1位)=早稲田大は1部残留
- 女子2・3部 成蹊大(2部6位)4-2 桜美林大(3部1位)=成蹊大は2部残留

【東海地区】

東海テレビ杯

平成16年度春季第54回

東海地区大学(男子)ソフトボールリーグ戦

一兼、第39回全日本大学ソフトボール選手権大会一次予選一

一兼、第36回西日本大学ソフトボール選手権大会予選一

会期：平成16年4月29日、5月2日・3日・5日

会場：愛知県豊田市運動公園ソフトボール場

1. 一部対戦成績表

チーム	常葉	愛院	中京	中学	聖徳	静岡	勝	分	敗	失	順
常葉学園	○	●	○	●	○	○	3	0	2	18	優勝
愛知学院	○	○	●	△	○	●	2	1	2	26	4位
中京	●	○	○	○	●	○	3	0	2	21	3位
中京学院	○	△	●	○	●	○	2	1	2	27	5位
岐阜聖徳	●	●	○	○	○	○	3	0	2	10	2位
静岡	●	○	●	●	●	○	1	0	4	46	6位

※1位～3位は直接対戦の結果、4位・5位は失点差による。
 ・予選リーグ戦
 ・順位決定リーグ戦

A	名古屋	愛教	名城	順
名古屋	○	●	○	2
愛知教育	○	○	○	1
名城	●	●	○	3

1～3位	愛教	愛知	東学	順
愛知教育	○	○	○	1位
愛知	●	○	●	3位
東海学園	●	○	○	2位

B	南山	愛知	朝日	順
南山	○	●	○	2
愛知	○	○	○	1
朝日	●	●	○	3

4～6位	名古屋	南山	日福	順
名古屋	○	○	●	5位
南山	●	○	○	6位
日本福祉	○	●	○	4位

C	東 学	日 福	みずほ	順	7～9位	名 城	朝 日	みずほ	順
東海学園	△	△ 6-6	○ 9-4	1	名 城	○ 7-0	○ 10-6	7 位	
日本福祉	△ 6-6	○ 14-6	○ 14-6	2	朝 日	● 0-7	● 0-7	9 位	
みずほ	● 4-9	● 6-14	○ 7-0	3	みずほ	● 6-10	○ 7-0	8 位	

※失点の少ない方が上位

3. 一・二部入れ替え戦

愛知教育大学 1 1 - 2 静岡大学 (愛知教育大学は一部昇格)

4. 代表

第1回東海地域大学ソフトボール選手権大会 (第39回全日本大学ソフトボール選手権大会最終予選) : 常葉学園大学・岐阜聖徳学園大学・中京大学・愛知学院大学・中京学院大学

愛知教育大学・静岡大学・東海学園大学

第36回西日本大学ソフトボール選手権大会 : 常葉学園大学・岐阜聖徳学園大学・中京大学

愛知学院大学・中京学院大学・愛知教育大

学

5. 個人表彰選手

最優秀選手賞 : 杉 山 惇 (常葉学園大学)

敢闘選手賞 : 藤 本 充 (岐阜聖徳学園大学)

優秀選手賞 : 豊 田 家 康 (愛知教育大学)

1部首位打者賞 : 大久保 満 (静岡大学)・杉山 惇 (常葉学園大学) 5割

2部首位打者賞 : 小 林 裕 明 (名城大学) 6割2分5厘

ベストナイン : 投 手 藤 本 充 (岐阜聖徳学園大学)

捕 手 加 藤 康 憲 (愛知学院大学)

一 塁 手 北 川 真 行 (愛知学院大学)

二 塁 手 細 野 浩 正 (岐阜聖徳学園大学)

三 塁 手 鈴 木 翔 也 (常葉学園大学)

遊 撃 手 杉 山 惇 (常葉学園大学)

外 野 手 片 山 吾 郎 (中京学院大学)

外 野 手 田 中 真 人 (中京大学)

外 野 手 清 川 一 志 (中京学院大学)

DP・DEFO 山 口 啓 太 (中京学院大学)

6. 講評

全般に守備力・攻撃力の二つに分けて評価してみると昨年より比べ一部については守備力は上がっているように思えます。特に球際のさばき動きが良くなってきているのが目立ちました。問題は投手力でどのチームを見ても全国的にBクラス評価でスピード・制球力の乏しさがあるように思います。その中で捕手のリードが勝敗の鍵をにぎるゲームが多か

った様に思えます。打撃については投手との兼ね合いもあり一概に言えませんが上位になっているチームについてはポイントがずれる事なくミートスイングに心がけている面で勝利に結びつくバッティングができていないのではないかと感じられました。一部上位5チームは混戦でこの大会に向けて技術面だけでなくメンタル面をより充実させたチームが結果を残せたような気が致します。2部の上位二チームについてもあまり一部との力の差もなくなっている感じがし今後のリーグも見ごたえのある試合が多くなると思います。

最後に大会関係者、審判の皆さんには運営面で大変ご尽力いただきましてご苦労様でした。私からの審判の方々へのお願いなのですがスピーディーな運営を考えるならば余り細かな注意はいかがなものでしょうか？しっかりとジャッジ出来る事、そして試合の流れを十分把握した中での注意等の出来るようお願いしたいと思います。それ程目に余る不正投球をしている投手はどのチームにも無いように思いましたがどうでしょうか？離塁に関しても同様です。試合をメイクするのも審判のお力と私は考えておりますので今後共将来のある選手を扱う大会だけに特に選手を生かす為の注意を宜しくお願い致します。審判の皆様も指導者の一員と考えておりますのでこの東海地区から将来素晴らしい選手が出るように指導していただけます様今後共宜しくお願い致します。（理事 石井賀一郎）

東海テレビ杯

平成16年度春季第43回東海地区大学(女子)

ソフトボールリーグ戦

一兼、第39回全日本大学ソフトボール選手権大会一次予選一

一兼、第36回西日本大学ソフトボール選手権大会予選一

会期 5月1・2・8・9・22日

会場 安城市総合運動公園ソフトボール場

1. 一部リーグ戦対戦成績

チーム	東 女	中 京	常 葉	桜 花	東 学	中 女	勝	分	敗	失	順
東海女子	○	●	○	○	○	○	4	0	1	6	2位
中 京	○	○	○	○	○	○	5	0	0	6	優勝
常葉学園	●	●	△	△	●	○	1	1	3	18	5位
桜花学園	●	●	△	△	○	○	2	1	2	19	3位
東海学園	●	●	○	●	○	○	2	0	3	21	4位
中京女子	●	●	●	●	●	○	0	0	5	30	6位

2. 二部リーグ戦対戦成績

チーム	中 学	聖 徳	愛 教	名古屋	日 福	静 岡	勝	分	敗	失	順
中京学院	○	○	○	○	○	○	5	0	0	2	1位
岐阜聖徳	●	○	●	○	●	○	2	0	3	33	4位
愛知教育	●	○	○	○	○	○	4	0	1	15	2位
名古屋	●	●	●	○	●	●	0	0	5	51	6位
日本福祉	●	○	●	○	○	○	3	0	2	27	3位
静 岡	●	●	●	○	●	○	1	0	4	26	5位

3. 一・二部入れ替え戦

中京女子大学 8 - 3 中京学院大学 (中京女子大学は一部残留)

4. 代表

第1回東海地域大学ソフトボール選手権大会 (第39回全日本大学ソフトボール選手権大会最終予選) : 中京大学・東海女子大学・桜花学園大学・常葉学園大学・中京女子大学・中京学院大学・愛知教育大学

第36回西日本大学ソフトボール選手権大会 : 中京大学・東海女子大学・桜花学園大学・常葉学園大学・中京女子大学

5. 個人表彰選手

最優秀選手賞 : 高 橋 愛 菜 (中京大学)

敢闘選手賞 : 竹 澤 苑 美 (東海女子大学)

優秀選手賞 : 小 出 菜 央 (中京学院大学)

1部首位打者賞 : 高 山 奈 弥 (東海学園大学) 5割0分0厘

2部首位打者賞 : 佐伯美久 (中京学院大学) ・阿部裕美 (愛知教育大学) 5割6分3厘

ベストナイン : 投 手 東 瑠 璃 (中京大学)

捕 手 岩 切 奈 那 (中京大学)

一 塁 手 長 澤 陽 子 (東海女子大学)

二 塁 手 高 山 奈 弥 (東海学園大学)

三 塁 手 鈴 木 里 佳 (中京大学)

遊 撃 手 鈴 木 優 子 (中京大学)

外 野 手 今 井 美 幸 (東海女子大学)

外 野 手 奥 村 理 代 (中京大学)

外 野 手 毛 利 綾 乃 (中京大学)

DP・DEFO 摺 本 志 保 (中京大学)

6. 講評

雨にたたられ、3週間にも及ぶ長いリーグ戦になってしまった。献身的に支えていただいた開催地、安城協会の皆様にまず持って御礼申し上げます。

さて、今回のリーグ戦は、1部2部各6チームというやや寂しい大会であったが、それぞれに見応えのある試合もあり、本年から東海インカレへの予選ということもあって全般的には充実したものであったように思われる。特に、最終試合での中京大東瑠璃投手の快投は、強打の東海女子大打線に対してノーヒットノーラン（1失策）を達成するという見事なものであった。一部優勝・準優勝の2チーム以外では、桜花学園大学のしぶとい戦いと東海学園大学の勢いのなさが目についた。これらのチームには、東海インカレをステップとして、地元富士宮市で8月末に開催されるインカレでのいっそうの活躍を期待したい。

二部リーグ戦では、惜しくも優勝は逃したものの、愛知教育大学の元気さと9名という最少の人数で全試合を戦い抜いた名古屋大学の健闘が讃えられる。上位2チームは、一部でもおかしくないチーム力を備えてきたように思われる。

最後に、一部二部を通じて言えることは、打高投低のなかにあって、一つのアウトを取ることにもっと執着してほしいということである。一つのアウトは、試合全体のアウトの21分の1、約5%である。守備の緻密さがソフトボールの特徴であり、イニングや点差に応じて確実に一つのアウトを取る守備力の強化を願いたい。（理事長 水谷 博）

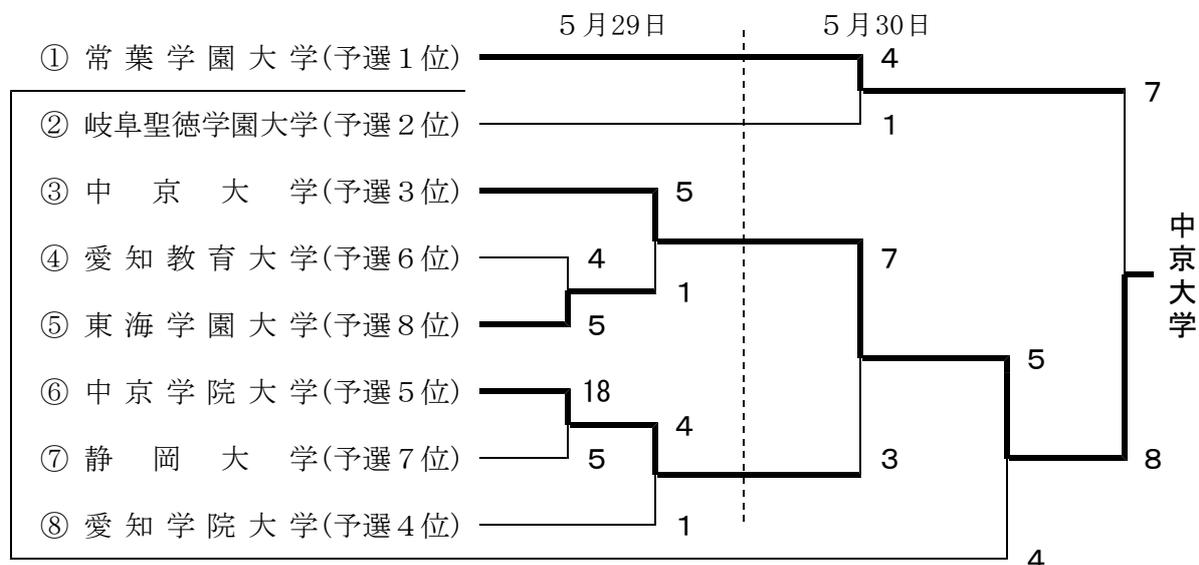
第1回東海地域大学男女ソフトボール選手権大会

—兼、第39回全日本大学(男・女)ソフトボール選手権大会東海地区最終予選—

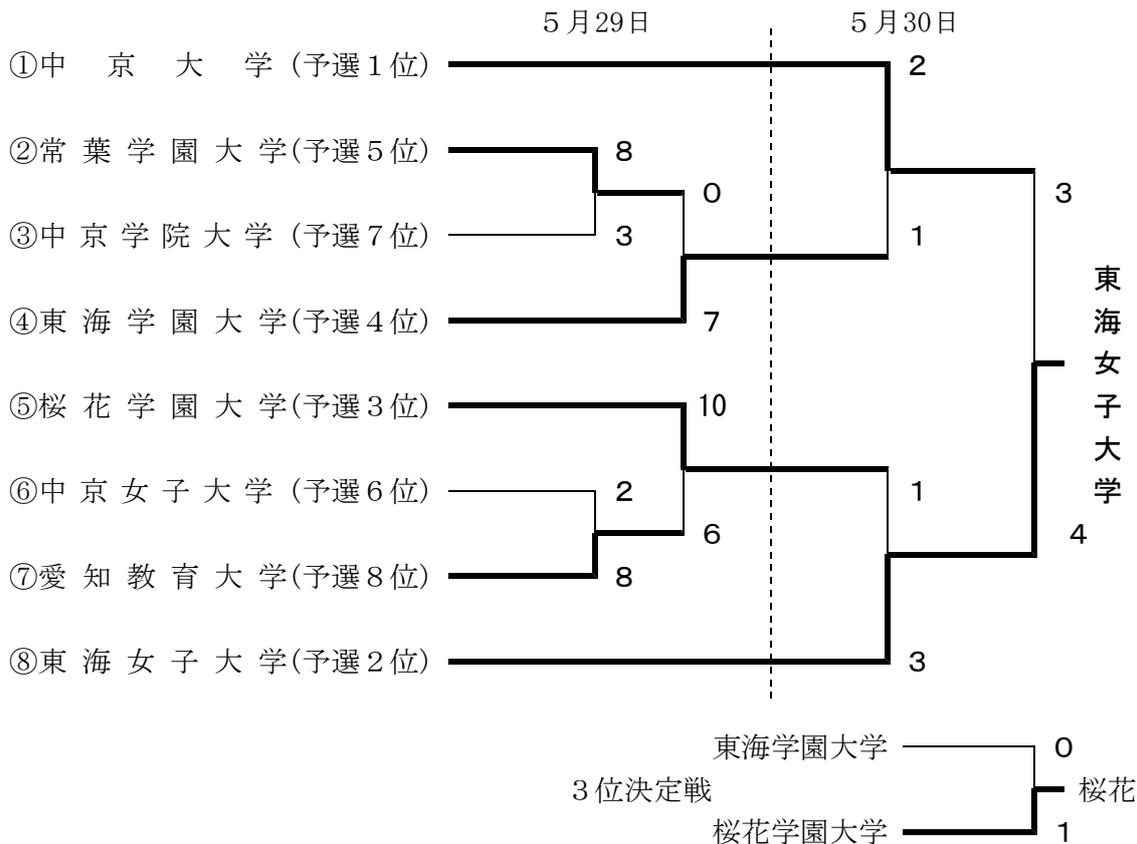
会期 平成16年5月29日（土）・30日（日）

会場 名古屋市港区稲永公園野球場E（男子）・F（女子）

男子大会結果（上位3チームがインカレへ）



女子大会結果（上位4チームがインカレへ）



講評 東海ソフトボール協会の格別なるご配慮とご協力により、本年度より、東海地区大学ソフトボール春季リーグ戦の上位8チームによる東海地域大学ソフトボール選手権大会（東海インカレ）が開催されるようになりました。また、主管いただきました愛知県ソフトボール協会並びに名古屋市ソフトボール協会のご理解により、盛大な大会となりました。本大会は、東海地域の大学ソフトボールの頂点を極めるばかりでなく、これまで失点差でインカレ出場が決まっていた点を改め、明確な勝ち負けでインカレ出場を争う最終予選の場ともなりました。本大会が東海地域の大学ソフトボールのさらなる発展に寄与してくれるものと確信いたします。

男子の部は、中京大の優勝で大会を無事終了しました。中京大学は初日こそ快勝したものの、最終日は、苦しい戦いを3試合続け、準決勝・決勝は1点差の逆転で勝ちを収めるという見事なものでした。これは5人の投手を有するというピッチングスタッフの豊富さに裏打ちされたものでしたが、中軸を教育実習で欠く中であって、全員が絶対に優勝するんだという強い意志の表れでもあったようでした。インカレ出場権を獲得している常葉学園大と岐阜聖徳大は、堂々たる戦いぶりでしたが、今一步の詰めが甘く優勝を逃してしまいました。他のチームでは、惜しくもインカレ出場は逃したものの、中京学院大の戦いぶりが注目されました。

女子の部は、東海女子大学がリーグ戦の雪辱を果たして、第1回優勝の歴史を作りました。それ以外ではほぼ順当な試合結果でしたが、リーグ戦とは異なる一発勝負というトーナメントのおもしろさもかいま見られた大会でした。特に、2部の愛知教育大学が1部の中京女子大学を破った一戦は、勢いのある若さが爆発した典型でした。いずれにしても、地元富士宮市で開催されるインカレに向けて、今大会で出場権を獲得したチームがこれをバネに活躍することが期待されます。（競技副委員長 水谷 博）

東海テレビ杯

平成16年度秋季第55回東海地区大学（男子）ソフトボールリーグ戦

会期：平成16年10月11日・16日・23日・24日

会場：愛知県刈谷市双葉グラウンド

1. 一部リーグ戦対戦成績

チーム	常葉	聖徳	中京	愛学	中学	愛教	勝	分	敗	失	順
常葉学園	○	●	○	○	○	○	4	0	1	10	2位
岐阜聖徳	○	○	○	●	○	○	4	0	1	15	優勝
中京	●	●	○	○	○	○	3	0	2	17	3位
愛知学院	●	○	●	○	●	●	1	0	4	24	6位
中京学院	●	●	●	○	○	○	2	0	3	16	4位
愛知教育	●	●	●	○	●	○	1	0	4	15	5位

※1位と2位、5位と6位は当該チーム間の直接対戦の勝敗による。

2. 二部リーグ戦対戦成績

・予選リーグ戦

A	静岡	日福	名古屋	みずほ	B	東学	愛知	南山	名城
静岡	○	●	●	●	東学	○	●	○	○
日福	○	○	○	○	愛知	●	○	○	○
名大	○	●	○	○	南山	○	●	○	○
みずほ	○	●	●	○	名城	●	●	●	○

・順位決定戦

1位決定戦

日本福祉（A 1位）5 - 3 南山（B 1位） 1位：日本福祉 2位：南山

3位決定戦

名古屋（A 2位）25 - 1 東海学園（B 2位） 3位：名古屋 4位：東海学園

5位決定戦

愛知（B 3位）13－1 愛知みずほ（A 3位） 5位愛知 6位：愛知みずほ

7位決定戦

名城（B 4位）17－9 静岡（A 4位） 7位：名城 8位：静岡

3. 1部2部入れ替え戦

日本福祉大学（2部1位）8－7 愛知学院大学（1部6位） ※日本福祉大学は1部昇格

4. 個人表彰

最優秀選手賞：藤本 充（岐阜聖徳学園大学）

敢闘選手賞：山崎 良（常葉学園大学）

優秀選手賞：森谷亮太（日本福祉大学）

一部首位打者賞：山崎 優（岐阜聖徳学園大学）5割0分0厘

二部首位打者賞：石丸慎也（愛知大学）8割4分6厘

ベストナイン 投手：川井勇輝（中京学院大学）

捕手：川尻浩輝（愛知教育大学）

一塁手：東 裕樹（岐阜聖徳学園大学）

二塁手：槇田直也（中京学院大学）

三塁手：鈴木翔也（常葉学園大学）

遊撃手：三宅 敏（中京大学）

外野手：梅田貴晶（常葉学園大学）

外野手：後藤俊明（愛知教育大学）

外野手：平山郁太（中京学院大学）

DPDEF0：高城将哲（中京大学）

5. 総評

度重なる台風来襲で気象状況が心配されましたが、日程の変更もなく予定通りリーグ戦が開催でき、関係者の皆様、特に刈谷市ソフトボール連盟のご協力に対し、厚く感謝し御礼申し上げます。

今リーグ戦ですが、春とは一味違った雰囲気での大会でありました。特に1部は3年生までが主に主体となる大会でもあり、来年度に向けてのチーム創りが中心となっているため、やや盛り上がりの多少欠けた点も感じられました。逆に2部のチームについては1部昇格の権利がかかっているせいか、雰囲気的にも1部よりは盛り上がった試合も多かったと感じております。今年、春のリーグでは1部の各大学とも接戦で力の差が2部と比べてまだまだ開いているように感じましたが、秋季の2部チーム上位3チームを見て、かなり1部へ近づいてきていると感じました。入れ替え戦でみごと1部昇格をはたした、日本福祉大学の活躍ぶりを見ただけでも来年度から益々近差の戦いが予想され面白くなってくると感じます。

しかし、残念な事に全国的に見れば投手力についてはあまり伸びていないのが現実であり現在の1・2年生や来年度からの選手に期待を向けたいと思います。スピードばかりの

追求でなく投球術の習得をもっともっと考えていかなければ全国での上位入賞は難しいと考られます、そのためには捕手の強化も含めて考えていく事でレベルの高いソフトボールが出来るのではと思います。(中京学院大学 石井賀一郎)

東海テレビ杯

平成16年度秋季第44回東海地区大学(女子)ソフトボールリーグ戦

会期：平成16年10月2日・9日・16日・23日

会場：愛知県高浜市碧海グラウンド・流作グラウンド

1. 一部リーグ戦対戦成績

チーム	中京	東女	桜花	東学	常葉	中女	勝	分	敗	失	順
中京	—	○ 8-1	○ 1-0	● 0-1	○ 15-1	○ 10-3	4	0	1	6	2位
東海女子	● 1-8	—	○ 1-0	● 1-5	○ 1-0	○ 9-1	3	0	2	14	3位
桜花学園	● 0-1	● 0-1	—	● 1-11	● 0-4	○ 9-0	1	0	4	17	4位
東海学園	○ 1-0	○ 5-1	○ 11-1	—	○ 4-2	○ 3-2	5	0	0	6	優勝
常葉学園	● 1-15	● 0-1	○ 4-0	● 2-4	—	● 4-6	1	0	4	26	5位
中京女子	● 3-10	● 1-9	● 0-9	● 2-3	○ 6-4	—	1	0	4	35	6位

※4～6位は、リーグ戦規定により、当該チーム間で失点の少ない方が上位

2. 二部リーグ戦対戦成績

チーム	中学	愛教	日福	聖徳	静岡	名古屋	勝	分	敗	失	順
中京学院	—	○ 5-1	○ 7-2	○ 5-0	○ 10-0	○ 12-0	5	0	0	3	1位
愛知教育	● 1-5	—	○ 3-2	○ 4-1	○ 7-2	○ 9-0	4	0	1	10	2位
日本福祉	● 2-7	● 2-3	—	○ 6-0	● 2-7	○ 8-3	2	0	3	20	3位
岐阜聖徳	● 0-5	● 1-4	● 0-6	—	○ 5-3	○ 6-3	2	0	3	21	5位
静岡	● 0-10	● 2-7	○ 7-2	● 3-5	—	○ 4-0	2	0	3	24	4位
名古屋	● 0-12	● 0-9	● 3-8	● 3-6	● 0-4	—	0	0	5	39	6位

※3～5位は、リーグ戦規定により、当該チーム間で失点・総失点の少ない方が上位

3. 1部2部入れ替え戦

中京女子大学（1部6位） 1－0 中京学院大学（2部1位）※中京女子大学は1部残留

4. 個人表彰

最優秀選手賞：福島 可奈（東海学園大学）
 敢闘選手賞：濱地 麻衣（中京大学）
 優秀選手賞：小出 菜央（中京学院大学）
 一部首位打者賞：小嶋 愛子（東海学園大学） 4割6分2厘
 二部首位打者賞：山家 愛（愛知教育大学） 6割8分8厘
 ベストナイン：投手 田中 粧子（東海学園大学）
 捕手 福島 可奈（東海学園大学）
 一塁手 浅井未緒子（東海学園大学）
 二塁手 馬場 暁江（東海学園大学）
 三塁手 堀 けいこ（東海女子大学）
 遊撃手 川島 千明（桜花学園大学）
 外野手 山口千香子（中京大学）
 外野手 斉藤 祐子（常葉学園大学）
 外野手 武田 裕子（東海学園大学）
 DP・DEFO 小嶋 愛子（東海学園大学）

5. 講評

台風の影響にたたられ、4週間にも及ぶ長いリーグ戦になってしまった。開催地の高浜市ソフトボール連盟の皆様には、球場確保に奔走していただき、まずもって御礼申し上げます。

さて、1部リーグ戦の展開は、多くのチームから4年生が抜けて、新チームでの最初のリーグ戦であり、混戦が予想された。その中で、初日・第2日と春季2位の東海女子大学と1位の中京大学を連破した東海学園大学が、全敗の中京女子大学には苦戦を強いられたものの、見事全勝で初優勝の栄冠に輝いた。これまでのリーグ戦では勝負所で辛酸をなめさせられていたが、今季は選手層の厚さとチームワークでの見事な戦いぶりであった。全体的には、得点が僅差の試合と大差の試合が目立って上位下位の差があるように感じられるが、これはその日の投手と守備の好不調によるところが大いにあり、点差ほどの力の差があるようには思われない。新チームによる試合の特徴のようである。どのような状況でも、常に100%の力が出せるようにすることが今後の各チームの課題であろう。

一方2部リーグ戦は、このところ各チームとも確実に力を付けてきており、白熱した戦いが続けられた。中でも春季の上位2チームである中京学院大学と愛知教育大学が一步抜け出したようである。ともに全勝で迎えた最終日、中京学院大学の投手力がやや優って2季連続の2部優勝を決めた。この2チームは1部でも十分戦いうる力を有してきたように思われる。他の4チームは投手力の強化はもとよりであるが、特に、走者のひとつ先の塁を積極的にねらうことのできる走力の向上が求められる。

なお、入れ替え戦は、4季連続で中京女子大学と中京学院大学の戦いになったが、結果は総合力で一枚上手の中京女子大学が辛くも1部残留を決めた。（理事長 水谷 博）

【近畿地区】

平成16年度第36回春季関西学生ソフトボールリーグ戦（男子）

会期：4月18, 25日, 5月2, 3, 5日

会場：万博公園スポーツ広場

1部リーグ戦結果

1部	京 都	立命館	同志社	龍 谷	神 学	経 法	勝	敗	分	点	順
京 都		● 1-3	○ 4-1	○ 3-0	○ 3-2	○ 3-0	4	1	0	12	2
立 命 館	○ 3-1		○ 3-1	○ 9-2	○ 6-0	○ 8-1	5	0	0	15	1
同 志 社	● 1-4	● 1-3		○ 6-4	● 2-7	○ 6-5	2	3	0	6	5
龍 谷	● 0-3	● 2-9	● 4-6		○ 4-2	○ 6-3	2	3	0	6	4
神戸学院	● 2-3	● 0-6	○ 7-2	● 2-4		○ 4-1	2	3	0	6	3
大阪経法	● 0-3	● 1-8	● 5-6	● 3-6	● 1-4		0	5	0	0	6

※立命館大学は2季連続7度目の優勝

※同志社大学、龍谷大学、神戸学院大学の3チームは勝点6で並んだ。1)直接対決、2)得失点差、3)失点、4)完封試合数の順に順位決定規定を適用していった結果、1)では3つ巴の状態となり順位は決まらず、2)により神戸学院大学の3位が決定した。次に、3)では失点数が同じのため、4)の規定を適用するが残る2大学は共に完封勝ちはなかった。したがって、1部リーグ戦全日程終了後、同志社大学と龍谷大学とで「4位-5位決定戦」を実施した。その結果は次の通り。同志社大学0-5龍谷大学

※5位の同志社大学は2部との入れ替え戦へ。6位大阪経済法科大学は自動的に2部降格。

1部総評 今回の春季リーグは天候に恵まれず、日程も大幅にずれ込み、選手にとっては精神的なもの（モチベーションの持続）を必要とされる大会となった。

さて、リーグ戦は開幕前の予想通り、立命館大学が秋に続き全勝優勝を果たした。投打のバランスがとれており、チームとしてのまとまりを感じた。2位になった京都大学も、細かなプレーで得点を重ねていく試合巧者ぶりを発揮し、堂々のインカレ出場権を確保した。

その他は全くの混戦（3チームが並ぶ）となり、得失点差により神戸学院大学が辛くも3位、龍谷大学と同志社大学はリーグ規定のすべてにおいて並んだため再試合を行うこととなった。大阪経済法科大学は力及ばず2部降格となった。

そして、2部のブロック決勝および入れ替え戦の結果により、久々に京都産業大学と関西大学が1部昇格となった。両チームの奮起を是非とも期待したい。

（事務次長 関西大学3年 難波浩幸）

2部リーグ戦結果

2部A	京都産業	奈良教育	大阪府立	京都学園	大阪	勝	敗	分	点	順
京都産業		○11-1	○11-1	○5-2	○4-3	4	0	0	12	1
奈良教育	●1-11		●6-9	△2-2	○6-5	1	2	1	4	4
大阪府立	●1-11	○9-6		●1-5	●2-9	1	3	0	3	5
京都学園	●2-5	△2-2	○5-1		●6-7	1	2	1	4	3
大阪	●3-4	●5-6	○9-2	○7-6		2	2	0	6	2

※3位と4位は得失点差規程による。

2部B	佛 教	四天仏教	兵庫教育	関 西	大阪体育	勝	敗	分	点	順
佛 教		●1-2	○2-0	△3-3	○16-0	2	1	1	7	3
四天仏教	○2-1		○22-1	●2-6	○21-5	3	1	0	9	2
兵庫教育	●0-2	●1-22		●2-4	○13-0	1	3	0	3	4
関 西	△3-3	○6-2	○4-2		○7-0	3	0	1	10	1
大阪体育	●0-16	●5-21	●0-13	●0-7		0	4	0	0	5

※2部優勝決定戦 京都産業大学 5-1 関西大学

京都産業大学は1部昇格、関西大学は1部との入れ替え戦へ

※2部9・10位決定戦 大阪府立大学 14-4 大阪体育大学

大阪体育大学は自動的に3部に降格、大阪府立大学は3部との入れ替え戦へ

2部総評 今季の2部Bブロックは実力均衡で、どこにもチャンスがあるというのが戦前の予想であった。結局、その中から抜け出したのが関西大学だった。「伝統」とも言うべき確実な戦い方で久しぶりのブロック優勝となった。また、Aブロックは京都産業大学が投打ともに力の差を見せつけて全勝優勝し、その勢いに乗って2部優勝戦にも勝利し、念願の1部復帰を果たした。関西大学も2部優勝を逃したものの、1部との入れ替え戦で龍谷大学にサヨナラ勝ちを収め、1部昇格となった。

一方、2部の9・10位決定戦は大阪府立大学と大阪体育大学の対戦となったが、大阪体育大学は4年生の抜けた穴が大きいのか、元気が見られず決定戦でも大敗を喫した。大阪府立大学は3部との入れ替え戦では苦戦しながらも、なんとか2部残留となった。

来季は1部から2チームが降格してくる。両チームともすぐさま1部復帰を考えているであろう。全体としてよりレベルの高い試合が期待され、そのような中で、どのチームも切磋琢磨しながら1部を目指してほしい。(運営次長 大阪大学3年 奥村亮平)

3部リーグ戦結果

3部A	大阪市立	大阪工業	姫路獨協	和歌山	流通科学	勝	敗	分	点	順
大阪市立		●0-10	●3-7	○12-1	○15-5	2	2	0	6	3
大阪工業	○10-0		○7-3	○6-1	○10-5	4	0	0	12	1
姫路獨協	○7-3	●3-7		○8-3	○11-1	3	1	0	9	2
和歌山	●1-12	●1-6	●3-8		○10-5	1	3	0	3	4
流通科学	●5-15	●5-10	●1-11	●5-10		0	4	0	0	5

3部B	大阪産業	甲南	神戸	大阪経済	関西学院	勝	敗	分	点	順
大阪産業		● 0-7	● 1-11	● 3-13	● 0-7	0	4	0	0	5
甲南	○ 7-0		● 1-8	● 1-9	● 3-6	1	3	0	3	4
神戸	○ 11-1	○ 8-1		○ 1-0	○ 2-1	4	0	0	12	1
大阪経済	○ 13-3	○ 9-1	● 0-1		○ 8-7	3	1	0	9	2
関西学院	○ 7-0	○ 6-3	● 1-2	● 7-8		2	2	0	6	3

※3部優勝決定戦 大阪工業大学 7-1 神戸大学

大阪工業大学は2部昇格、神戸大学は2部との入れ替え戦へ

3部総評 今回の春季リーグは、残念ながら前季に比べて参加大学数が1減少してしまったものの、それを感じさせない熱い戦いが繰り広げられた。

リーグ優勝決定戦では、大阪工業大学が神戸大学を破り、前回秋季リーグでの雪辱を果たして2部への昇格を成し遂げた。来季の2部での活躍を期待したい。また、破れた神戸大学は入れ替え戦で大阪府立大学と対戦したが、あと一步及ばず3部昇格はならなかった。次回リーグでの奮起を期待する。

3部上位チームと2部チームの差は縮まっている。どのチームも2部昇格を1つの目標として、秋季リーグまでにチームの実力を蓄えてほしい。

(記録次長 神戸大学3年 木本真之)

入れ替え戦

1部-2部：同志社大学（1部5位）3-4 関西大学（2部2位）

※関西大学は1部昇格、同志社大学は2部降格

2部-3部：大阪府立大学（2部9位）7-5 神戸大学（3部2位）

※大阪府立大学は2部残留

平成16年度近畿地区男子インカレ予選結果

近畿地区男子は、春期リーグの優勝校「立命館大学」と準優勝校「京都大学」がインカレ出場を決めました。残り3枠をトーナメントにより、出場希望13大学で争った結果は以下の通り。

Aブロック：

神戸学院大学（1部3位）2-0 関西大学 大阪府立大学0-14 京都産業大学

【代表決勝戦】神戸学院大学 8-2 京都産業大学

Bブロック：

龍谷大学（1部4位）9-2 神戸大学 大阪大学 5-0 四天王寺国際仏教大学

【代表決勝戦】龍谷大学 13-2 大阪大学

Cブロック

仏教大学 0-7 京都学園大学（佛教大学の棄権による）

兵庫教育大学 8-9 大阪経済法科大学（1部6位）

同志社大学（1部5位）2-1 京都学園大学

【代表決勝戦】大阪経済法科大学 11-5 同志社大学

※平成16年度近畿地区男子インカレ出場大学

立命館大学 京都大学 神戸学院大学 龍谷大学 大阪経済法科大学

平成16年度第36回春季関西学生ソフトボールリーグ戦（女子）

会期：平成16年4月11・17・25・29日、5月2・3・4・5日

会場：園田学園女子大学・武庫川女子大学・兵庫教育大学・京都女子大学

1部対戦成績

1部	国際	園田	大谷	龍谷	武庫川	親和	大體	立命館	順
大阪国際	○	●	○	○	○	●	○	○	4
園田学園	●	○	○	○	○	○	○	○	1
大谷女子	○	●	○	○	○	○	○	○	2
龍谷	●	●	●	○	○	●	○	○	5
武庫川	●	●	●	●	○	●	○	○	6
神戸親和	○	●	●	○	○	○	○	○	3
大阪体育	●	●	●	●	●	●	○	●	8
立命館	●	●	●	●	●	●	○	○	7

※1・2位並びに3・4位は当該チームの対戦成績により順位を決定しました。

1部個人表彰

打撃成績

投手成績

順位	氏名	大学	打率	順位	氏名	大学	防御率
首位	喜 亜紀子	大阪体育大	.526	最優秀	上村さつき	大谷女子大	0.00
2位	高田真由美	武庫川女子大	.500	2位	難波 葵	園田学園女子大	0.55
3位	金田 恵美	龍谷大	.450	3位	松村 歩	大阪国際大	0.58
4位	山下麻衣子	園田学園女子大	.440	4位	井茂 麻由	神戸親和女子大	0.80
4位	田中 清香	大谷女子大	.440	5位	宮原紗耶香	龍谷大	1.11
6位	高階 絢子	神戸親和女子大	.437				
7位	横田 修子	神戸親和女子大	.409				
8位	藤田 恵	大阪国際大	.375				
9位	松田 杏子	園田学園女子大	.368				
9位	安部 聖香	園田学園女子大	.368				

盗塁賞				大 学 氏 名 守備位置			
池端安都沙	大谷女子大	5本	ベ	園田学園女子大	加藤菜穂美	一塁手	
			ス	大谷女子大	下家 一恵	一塁手	
ホームラン賞				ト	神戸親和女子大	中川 千明	投 手
小林 朝子	園田学園女子大	2本	プ	大阪国際大	藤田 恵	外野手	
宮 幸代	大阪国際大	2本	レ	龍谷大	亀本 伊純	中堅手	
青木 朝香	立命館大	2本	イ	武庫川女子大	西口 友紀	投 手	
			賞	立命館大	田中 紅里	投 手	
				大阪体育大	竹本 佳代	二塁手	

2部対戦成績表

2部	天 理	兵庫教育	京都女子	佛 教	勝	敗	分	順
天 理		○16-0	○7-0	○9-2	3	0	0	1
兵 庫 教 育	●0-16		●6-7	●4-7	0	3	0	4
京 都 女 子	●0-7	○7-6		○5-3	2	1	0	2
佛 教	●2-9	○7-4	●3-5		1	2	0	3

2部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打率
首位	稲井 理乃	京都女子大	.588
2位	松本 好代	天理大	.529
3位	濱崎かなえ	京都女子大	.473
4位	青木 麻衣	佛教大	.470
4位	石井 香	京都女子大	.470
6位	力身 茜衣	天理大	.437
7位	岸田 真衣	天理大	.400
7位	矢野裕美子	天理大	.400
7位	長尾 梢	京都女子大	.400
10位	高畑 愛	佛教大	.388

投手成績

順位	氏 名	大 学	防御率
最優秀	三嶋亜矢子	佛教大	2.47
2位	稲井 理乃	京都女子大	2.97
3位	稲生 紀子	佛教大	3.15

ベストプレイ賞

大 学	氏 名	守備位置
天理大	三好 可子	一塁手
京都女子大	植村 朋子	内野手
佛教大	高畑 愛	遊撃手
兵庫教育大	山本 佳世	二塁手

盗塁賞

青木 麻衣 佛教大 6本

3部対戦成績表

3部	四天王寺	奈良教育	勝	敗	分	順
四天王寺		○4-1	1	0	0	1
奈良教育	●1-4		0	1	0	2

3部個人表彰

打撃成績

順位	氏名	大学	打率
首位	山本 朋絵	奈良教育大	.454
首位	妹尾 幸世	四天王寺大	.454
3位	的場 光穂	四天王寺大	.333
3位	織田 恵	奈良教育大	.333
5位	遠藤 友美	四天王寺大	.300
6位	島村 果苗	奈良教育大	.272
7位	岩田 亜衣子	奈良教育大	.230
8位	大西 尚子	四天王寺大	.222
9位	大橋 歩美	奈良教育大	.153
10位	山本 絵美	奈良教育大	.100
10位	福本 愛	四天王寺大	.100
10位	山口 恵	四天王寺大	.100

盗塁賞

島村 果苗 奈良教育大 3本

投手成績

順位	氏名	大学	防御率
最優秀	吉岡 千晶	奈良教育大	5.88
2位	山口 恵	四天王寺大	6.33

ベストプレイ賞

大学	氏名	守備位置
四天王寺大	妹尾 幸世	捕手
奈良教育大	山根 絵美	捕手

リーグ戦総評

1部リーグ戦の予想は、前年度西日本インカレ優勝、全日本インカレ3位の大阪国際大学を中心に、園田学園女子大学、龍谷大学が有利に試合を進めていくものと思われた。大阪国際大学は予選リーグを全勝で通過したものの、部別リーグ戦ではエラーが連続しまさかの4位となった。優勝は園田学園女子大学であった。大阪国際に敗れはしたが、各試合チーム一丸となり粘り強く戦った姿勢は評価に値するものである。2位は直接対決で敗れた大谷女子大学であった。1年生投手を中心に、勢いのある試合を展開していた。夏に向けて楽しみなチームである。3位には神戸親和女子大学、5位には投手陣がもう一つ調子が出なかった龍谷大学が入り、6位には武庫川女子大学、7位には立命館大学、8位は大阪体育大学であった。近年の関西リーグは力が均衡しており、緊迫した試合が多く展開されている。西日本インカレ、全日本インカレと、上位進出を目指し頑張ってもらいたいものである。2部リーグは予想通り圧勝で天理大学が優勝し、2位にはこの春季リーグ善戦した京都女子大学が入り、3位は佛教大学、4位は兵庫教育大学であった。3部は2チームの戦いとなったが、四天王寺国際仏教大学が投打のバランスがかみ合い優勝、2位は奈良教育大学であった。近年、2・3部チームも力をつけてきており、今後が楽しみな関西リーグである。

文責：久保田豊司（大阪国際大学）



平成16年度第36回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦（男子）

会期：9月26日，10月3，11，17，24，31日，11月7日

会場：万博公園スポーツ広場

1部リーグ戦結果

1部	関西	京産	神戸	立命館	京都	龍谷	勝	敗	分	点	順
関西	●	○	○	○	○	○	4	1	0	12	1
京都産業	○	●	○	●	○	○	4	1	0	12	3
神戸学院	●	●	○	●	○	△	1	3	1	4	4
立命館	●	○	○	○	○	○	4	1	0	12	2
京都	●	●	●	●	○	●	0	5	0	0	6
龍谷	●	●	△	●	○	○	1	3	1	4	5

※関西大学は13年ぶりの優勝

※1位～3位は得失点差による。

※5位の龍谷大学は2部との入れ替え戦へ。6位の京都大学は自動的に2部に降格。

1部総評 今季1部リーグを一言で表現すると、関西大学の大躍進に尽きる。久しぶりに復帰した1部の中で、はつらつとしたプレーで勝ちを重ねた。最終的には4勝1敗で、立命館大学、京都産業大学との3つ巴の得失点差による優勝であったが、13年ぶりの優勝には心から拍手を送りたい。関西リーグ発足から中心的存在である関西大学が、これを機にさらに元気になってくれることを期待している。

一方、立命館大学は関西大学との対戦（棄権による敗戦）が大きく響いた結果となった。全国大会でも成績を残している（今年度インカレ3位）チームゆえ、今回のことをバネにして、再スタートを切ってほしい。京都産業大学と神戸学院大学も含めて、全国的にも知られるこれら実力校が「馴れ合い」にならずに、東日本の強豪チームを念頭におきつつ切磋琢磨してほしいものである。

また、龍谷大学と京都大学は残念ながら揃って2部降格となった。長くプレートを守ってきた長池投手、藤本投手の抜けた穴が本当に大きく感じられた。もう一度チームづくりを頑張してほしい。
（理事長 兵庫教育大学 森田啓之）



2部リーグ戦結果

2部A	大 阪	京都学園	大阪経法	大阪府立	四天仏教	勝	敗	分	点	順
大 阪		○ 1 - 0	● 2 - 12	● 3 - 4	○ 2 - 0	2	2	0	6	3
京都学園	● 0 - 1		△ 2 - 2	● 3 - 9	● 3 - 9	0	3	1	1	5
大阪経法	○ 12 - 2	△ 2 - 2		○ 9 - 4	○ 7 - 5	3	0	1	10	1
大阪府立	○ 4 - 3	○ 9 - 3	● 4 - 9		○ 4 - 2	3	1	0	9	2
四天仏教	● 0 - 2	○ 9 - 3	● 5 - 7	● 2 - 4		1	3	0	3	4

2部B	同 志 社	大阪工業	佛 教	奈良教育	兵庫教育	勝	敗	分	点	順
同 志 社		○ 9 - 1	○ 9 - 4	○ 6 - 0	○ 6 - 1	4	0	0	12	1
大阪工業	● 1 - 9		● 0 - 6	● 8 - 9	● 4 - 5	0	4	0	0	5
佛 教	● 4 - 9	○ 6 - 0		○ 10 - 0	● 5 - 7	2	2	0	6	3
奈良教育	● 0 - 6	○ 9 - 8	● 0 - 10		● 1 - 3	1	3	0	3	4
兵庫教育	● 1 - 6	○ 5 - 4	○ 7 - 5	○ 3 - 1		3	1	0	9	2

※ 2部優勝決定戦 同志社大学 6 - 1 大阪経済法科大学

同志社大学は1部昇格、大阪経済法科大学は1部との入れ替え戦へ

※ 2部9・10位決定戦 京都学園大学 5 - 3 大阪工業大学

大阪工業大学は自動的に3部に降格、京都学園大学は3部との入れ替え戦へ

2部総評 2部は、前季に続いて「どこが優勝するかが本当に分からない」というのが、組み合わせが決まったときの率直な感想であった。

そんな中で、Aブロックは大阪府立大学との直接対決を制した大阪経済法科大学がブロック優勝を果たした。一方、Bブロックは結果的には同志社大学が危なげなく全勝優勝だった。三宅投手の安定した投球、さらに野手陣の破壊力ある打撃は、チームの得失点を見ると明らかであろう。その同志社大は優勝決定戦でもブロック戦と同様に安定した戦いぶりで、2部優勝／1部昇格を果たした。大阪経法大も入れ替え戦で龍谷大学を下し、1部復帰となった。

1部下位チームを含めて2部は最近、混沌とした状態であるが、やはり計算できるのは「投手力」しかない。1部チームも含めて、「投手を中心としたチームづくり」を来季までにやってほしい。
(理事長 兵庫教育大学 森田啓之)



3部リーグ戦結果

3部A	大阪経	甲南	近畿	流通	大阪産	神戸	勝	敗	分	点	順
大阪経済		○ 5-1	○ 5-4	● 0-13	○ 10-7	○ 6-0	4	1	0	12	2
甲南	● 1-5		○ 15-2	● 1-9	○ 15-4	● 4-6	2	3	0	6	4
近畿	● 4-5	● 2-15		● 2-9	● 1-11	● 8-11	0	5	0	0	6
流通科学	○ 13-0	○ 9-1	○ 9-2		○ 6-5	● 4-7	4	1	0	12	1
大阪産業	● 7-10	● 4-15	○ 11-1	● 5-6		● 3-5	1	4	0	3	5
神戸	● 0-6	○ 6-4	○ 11-8	○ 7-4	○ 5-3		4	1	0	12	2

※1位～3位は得失点差による。

3部B	和歌山	大阪体育	関西学院	大阪市立	姫路獨協	勝	敗	分	点	順
和歌山		● 1-13	● 3-15	○ 15-8	○ 10-9	2	2	0	6	3
大阪体育	○ 13-1		● 4-6	○ 8-4	○ 11-4	3	1	0	9	2
関西学院	○ 15-3	○ 6-4		○ 9-0	○ 11-0	4	0	0	12	1
大阪市立	● 8-15	● 4-8	● 0-9		● 4-11	0	4	0	0	5
姫路獨協	● 9-10	● 4-11	● 0-11	○ 11-4		1	3	0	3	4

※3部優勝決定戦 関西学院大学 5-1 流通経済大学

関西学院大学は2部昇格、流通経済大学は2部との入れ替え戦へ

3部総評 戦前の予想では、前回優勝決定戦で惜しくも破れた神戸大学が優勝！？と目されていた。しかし、ほとんどが新チームとなった今季、ブロック優勝を果たしたのは、前季最下位であった流通科学大学、そして関西学院大学であった。流科大は、前季の成績をバネにして素晴らしい戦いを見せていた。優勝決定戦では、関学大がその流科大を下し、初の2部昇格を成し遂げた。破れた流科大は入れ替え戦に臨んだが、京都学園大学に大敗を喫し、2部昇格はならなかった。

この入れ替え戦の結果、そして前季3部優勝・2部昇格した大阪工業大学の3部降格を見ると、2部チームと3部チームの差は大きいと言わざるを得ない。この結果を受けとめて、3部チームの奮起を期待したい。
(記録次長 神戸大学2年 森本佳道)

入れ替え戦

1部-2部：龍谷大学 3-4 大阪経済法科大学

※大阪経済法科大学は1部昇格、龍谷大学は2部降格

2部-3部：京都学園大学 11-2 流通科学大学

※京都学園大学は2部残留

平成16年度第36回秋季関西学生ソフトボールリーグ戦（女子）

会期：平成16年9月11・12・19・20日、10月3・10・11・16日

会場：園田学園女子大学・武庫川女子大学・兵庫教育大学・京都女子大学

1部対戦成績

1部	親和	園田	大谷	武庫川	龍谷	国際	大体	立命館	順
神戸親和		○ 5-3	○ 4-0	○ 3-0	○ 5-1	○ 1-0	○ 5-0	○ 5-1	1
園田学園	● 3-5		○ 4-3	○ 6-4	○ 2-0	○ 2-1	○ 10-1	○ 2-1	2
大谷女子	● 0-4	● 3-4		○ 3-2	○ 7-1	○ 3-1	○ 6-2	○ 4-0	3
武庫川	● 0-3	● 4-6	● 2-3		○ 1-0	○ 4-2	○ 4-2	● 1-3	4
龍谷	● 1-5	● 0-2	● 1-7	● 0-1		○ 4-2	○ 9-0	○ 7-1	5
大阪国際	● 0-1	● 1-2	● 1-3	● 2-4	● 2-4		○ 8-1	○ 3-1	6
大阪体育	● 0-5	● 1-10	● 2-6	● 2-4	● 0-9	● 1-8		○ 5-4	7
立命館	● 1-5	● 1-2	● 0-4	○ 3-1	● 1-7	● 1-3	● 4-5		8

※4・5位並びに7・8位は直接対決の結果による

1部個人表彰

打撃成績

投手成績

順位	氏名	大学	打率
首位	亀本 伊純	龍谷大	.619
2位	原田恵里香	園田学園女子大	.600
3位	阿部 環	神戸親和女子大	.533
4位	鮫島 憂子	園田学園女子大	.471
5位	益本 裕子	大阪体育大	.455
5位	田中 清香	大谷女子大	.455
7位	金田 恵美	龍谷大	.444
8位	榊 明子	大阪体育大	.435
8位	高田真由美	武庫川女子大	.435
10位	井上 友恵	大谷女子大	.421

順位	氏名	大学	防御率
最優秀	井茂 麻由	神戸親和女大	0.87
2位	清水 美聡	園田学園女大	0.90
3位	森川 憲子	大谷女子大	0.90
4位	馬場由香理	龍谷大	1.07
5位	西口 由紀	武庫川女大	1.65

盗塁賞

青木 朝香 立命館大 5本

ホームラン賞

鮫島 憂子 園田学園女子大 3本

大 学	氏 名	守備位置
神戸親和女子大	浜下 春菜	二塁手
園田学園女子大学	相坂 理恵	左翼手
大谷女子大学	下家 一恵	一塁手
武庫川女大学	国村 理絵	右翼手
龍谷大学	木村明日香	投 手
大阪国際大学	藤田 恵	外野手
大阪体育大学	松本 由紀	三塁手
立命館大学	田中 紅里	投 手

1 部総評

各大学が全体的に来季のチームを考えた試合が多かった今季リーグであったが、今年で引退する選手も多く出場し、盛り上がる場面が多く見られた。

その中でも、武庫川女子大学は部別リーグに入ってから3連勝し、4位をもぎ取った。西日本インカレ、全日本インカレを制覇した大谷女子大学は、今回は若いチームで出場し、3位という結果だったものの、来季が期待される。

最終日の最終試合では、全勝同士で神戸親和女子大学と園田学園女子大学がぶつかり、優勝決定戦として大いに盛り上がった。神戸親和が4点を先取して迎えた最終回、園田は2本のホームランを叩きだし、1点差まで追いつめたが後続が繋がらず、そのまま4-3で神戸親和が逃げ切った。神戸親和女子大学は全勝で念願の初優勝を果たした。

来季は新戦力も加入するであろう。各チームの更なる戦力アップを期待したい。

(文責：学生委員長 園田学園女子大学 岩村明奈)

2 部対戦成績表

2 部	関西外大	天 理	京都女子	兵庫教育	勝	敗	分	順
関西外大	○ 2 - 1	○ 6 - 2	● 6 - 9	2	1	0	1	
天 理	● 1 - 2	○ 6 - 5	○ 3 - 0	2	1	0	2	
京都女子	● 2 - 6	● 5 - 6	○ 8 - 0	1	2	0	3	
兵庫教育	○ 9 - 6	● 0 - 3	● 0 - 8	1	2	0	4	

※1・2位並びに3・4位は直接対決の結果による

2 部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打率
首位	大仲 千絵	関西外国語大	.608
2 位	二村香菜子	兵庫教育大学	.466
3 位	津波あやの	兵庫教育大学	.440
4 位	篠部 聡子	兵庫教育大学	.409
5 位	稲井 理乃	京都女子大学	.375
6 位	杠 能里子	京都女子大学	.357
7 位	上山 麻美	天理大学	.352
8 位	矢野裕美子	天理大学	.315
9 位	林 里奈	関西外国語大学	.307
10位	岡田奈津美	関西外国語大学	.291
10位	川畑 千秋	関西外国語大学	.291

投手成績

順位	氏 名	大 学	防御率
最優秀	大仲 千絵	関西外国語大	2.13
2 位	篠部 聡子	兵庫教育大	2.71
3 位	岸辺 真衣	天理大	6.42

ベストプレイ賞

大 学	氏 名	守備位置
関西外国語大	上田 悦世	遊撃手
天理大	力身 茜衣	内野手
京都女子大	石井 香	外野手
兵庫教育大	岸谷 優子	左翼手

盗塁賞

津波あやの 兵庫教育大 5本 林 里奈 関西外国語大学 5本

2部総評

4チームの勝敗結果が物語るように、今回は実力伯仲したゲームが多かった。その中であって、関西外大は人数不足のため春季は出場できなかった悔しさを十分に出し切り、優勝を果たした。特に、最上級生の大仲は投打にわたり、チームを引っ張って文字通り優勝の立役者となった。

残る3チームは全体として安定性に欠ける部分があり、意外なミスが勝敗を分けた。来季に向けて、改めて基本練習を積むとともに、もう一步ステップアップして、ソフトボールの攻め方、守り方を意識して行ってほしい。

(文責：連盟理事長 兵庫教育大学 森田啓之)

3部対戦成績表

3部	佛 教	奈良教育	大阪府立	四天王寺	勝	敗	分	順
佛 教		○ 4 - 2	○ 5 - 1	○ 6 - 1	3	0	0	1
奈良教育	● 2 - 4		○ 5 - 1	● 7 - 9	1	2	0	2
大阪府立	● 1 - 5	● 1 - 5		○ 9 - 3	1	2	0	3
四天王寺	● 1 - 6	○ 9 - 7	● 3 - 9		1	2	0	4

※2～4位は、得失点差による。

3部個人表彰

打撃成績

順位	氏 名	大 学	打率
首位	那須 野花	大阪府立大	.500
2位	福本 愛	四天王寺大	.421
3位	妹尾 幸世	四天王寺大	.400
4位	山口 恵	四天王寺大	.353
5位	岡島由布子	佛教大	.333
6位	稲山 加奈	四天王寺大	.320
6位	的場 光穂	四天王寺大	.320
8位	村上 美沙	大阪府立大	.300
9位	武富 愛	大阪府立大	.294
10位	山本 朋絵	奈良教育大	.292

投手成績

順位	氏 名	大 学	防御率
最優秀	三島亜矢子	佛教大	1.50
2位	武富 愛	大阪府立大	2.80
3位	宇田川由有	奈良教育大	11.40

ベストプレイ賞

大 学	氏 名	守備位置
佛教大	北口 晶子	内野手
奈良教育大	島村 果苗	外野手
大阪府立大	小西 敦子	内野手
四天王寺大	阿河かずみ	外野手

盗塁賞

岡島由布子 佛教大 11本

3部総評

投手を中心とした総合力の差により、佛教大学が危なげなく全勝優勝を果たした。残る3チームは1勝2敗の三つ巴となったが、ミスによる失点をいかになくすかが、今後の課題である。4チームともこの冬の練習で、基本練習を積み重ねるとともに、少しでも多くのゲーム経験の中で、試合カンを養ってほしい。

(文責：連盟理事長 兵庫教育大学 森田啓之)

【中国地区】

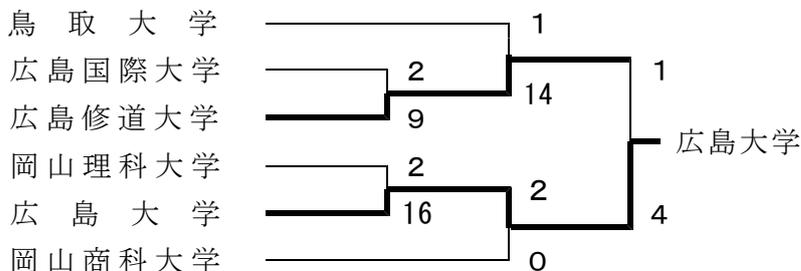
第39回全日本大学・第36回西日本大学ソフトボール選手権大会

中国地区予選会

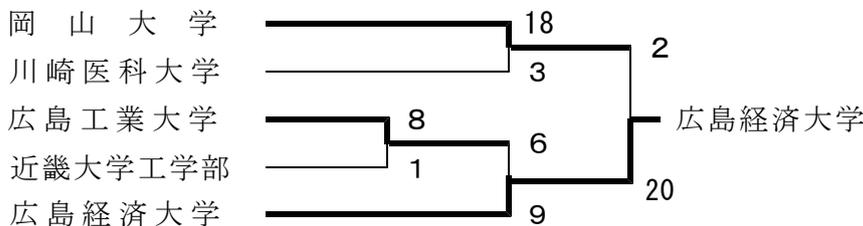
会期：平成16年5月22日（土）・23日（日）

会場：鳥取県関金町野球場他

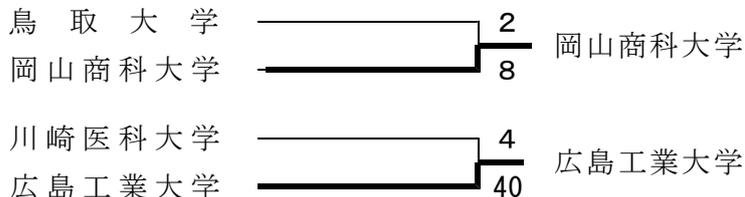
男子Aゾーンの結果



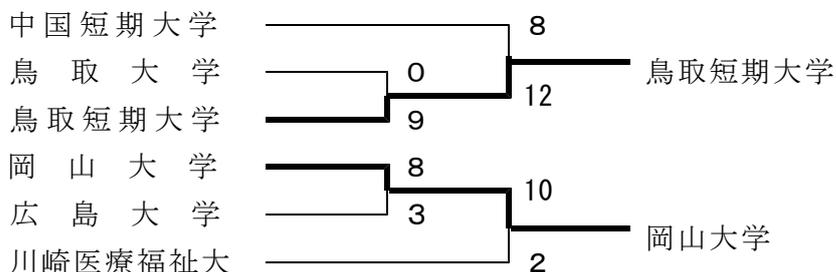
男子Bゾーンの結果



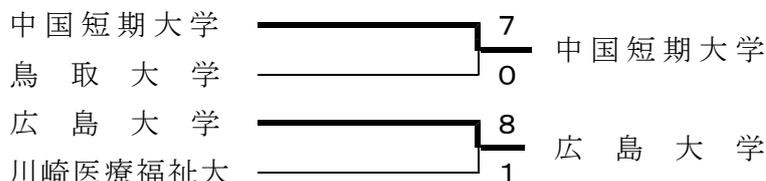
西日本大学選手権第5・6代表決定戦



女子



西日本大学選手権第3・4代表決定戦



総評

今年のインカレ予選は、新緑薫る湯の町、鳥取県関金町で5月22日（土）、23日（日）の日程で開催された。両日ともに天候に恵まれ、ソフトボールをするには申し分の無い条件の下、全日本大学の出場権を競って、男子11チーム、女子6チームによる熱戦が繰り広げられた。大会は、男女ともに昨年度秋季大会の優勝・準優勝チームが大学選手権への出場権を獲得する結果となった

男子の部

全大学ともに、投手力が今一つ弱く、大味な試合内容であったが、古豪広島修道大学に復活の兆しが見え、また西日本大学では常連の広島工業大学の闘いぶりが今後に期待を持たせる大会であった。

出場権を獲得した広島大学は投手を中心とした守備力のチーム、広島経済大学は攻撃力を中心としたチームで、それぞれに内容の異なるチームの大学選手権大会への出場である。

女子の部

一昨年開催された同大会と同様の組み合わせとなった女子は、立ち上がり一抹の不安を感じる試合結果となった岡山大学と、投手力不足を露呈した鳥取短期大学が大学選手権への出場権を獲得した。

岡山大学は、全試合初回にこそ相手に得点を許したが、その他のイニングは得点を許さず安定した試合運びで出場権を獲得した。

また鳥取短期大学は、前半の大量得点に助けられ、辛うじて勝利を収め大学選手権への出場権を獲得した。

全日本大学選手権出場大学

男子 広島大学、広島経済大学

女子 鳥取短期大学、岡山大学

西日本大学選手権出場大学

男子 広島大学、広島経済大学、広島修道大学、岡山大学、岡山商科大学、
広島工業大学

女子 鳥取短期大学、岡山大学、中国短期大学、広島大学

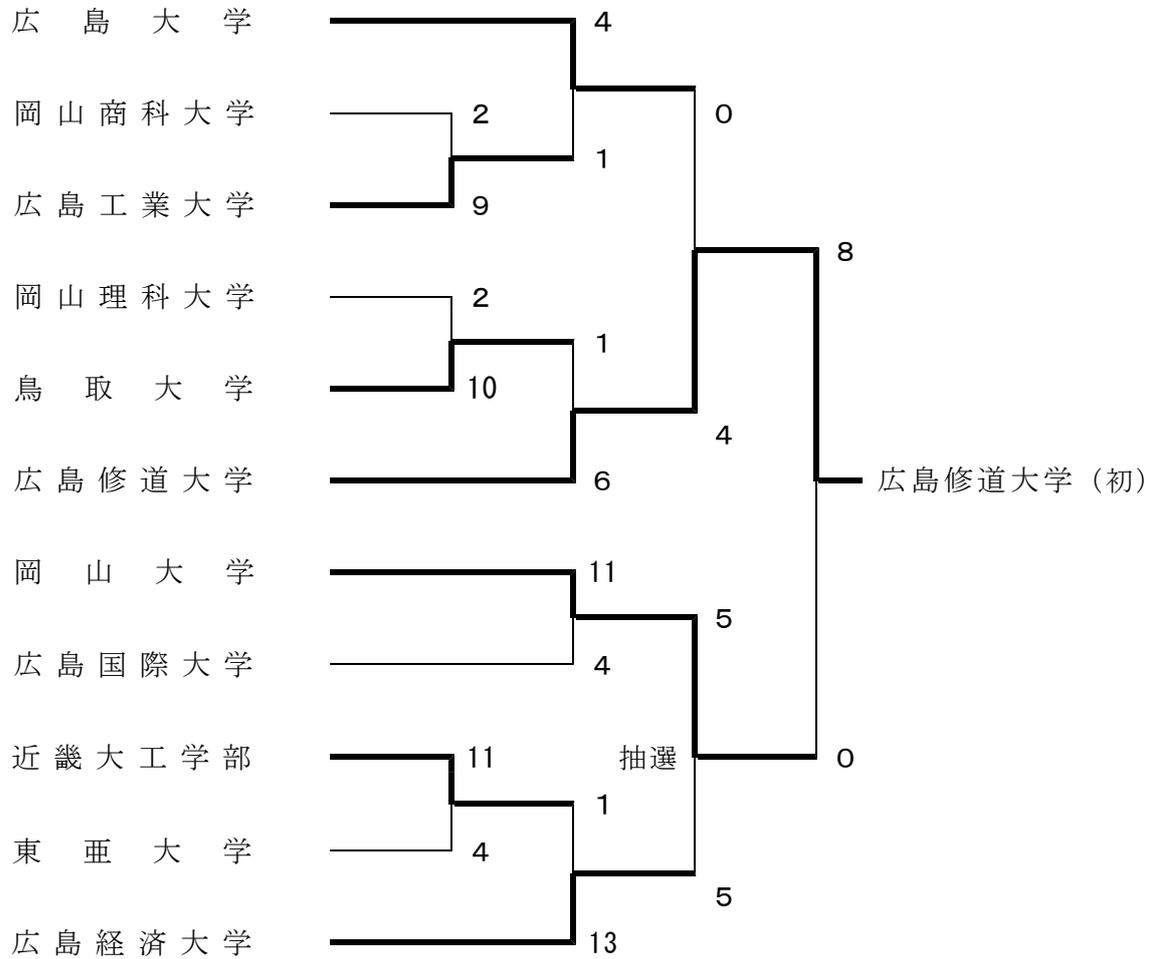


第4回中国地区大学ソフトボール選手権大会

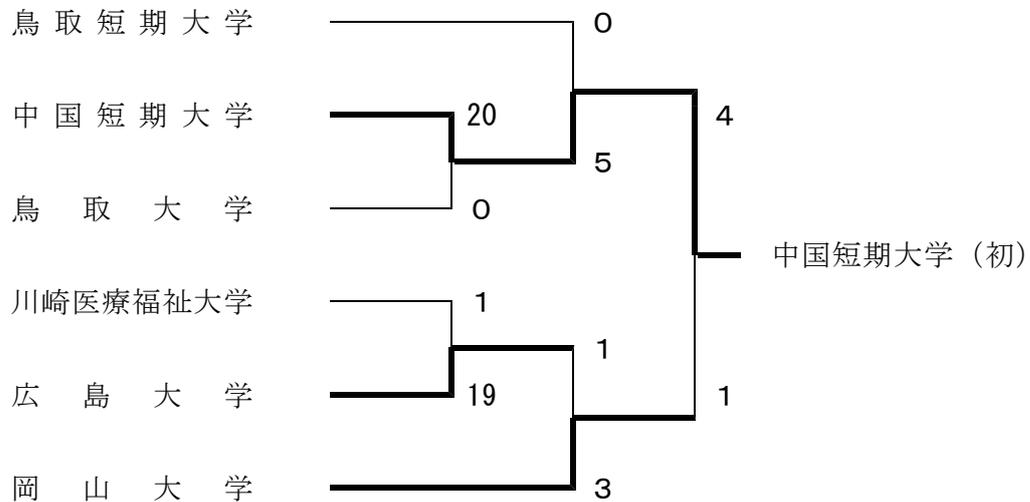
会期：平成16年11月13日（土）・14日（日）

会場：広島修道大学グラウンド

<男子>



<女子>



【四国地区】

平成16年度四国地区大学男子ソフトボール春季大会

会期：平成16年5月2日(日)・3日(祝)

会場：高知県春野総合運動公園ソフトボール専用球場

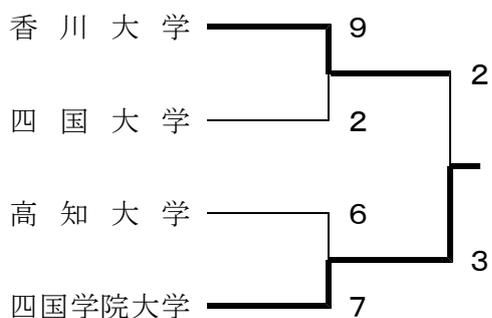
予選リーグ（5月2日）

Aグループ	愛媛	徳島	香川	高知	勝	負	分	順位
愛媛	-	● 0-15	● 2-8	● 3-13	0	3	0	4位
徳島	○ 15-0	-	● 0-3	● 2-12	1	2	0	3位
香川	○ 8-2	○ 3-0	-	△ 10-10	2	0	1	1位
高知	○ 13-3	○ 12-2	△ 10-10	-	2	0	1	2位

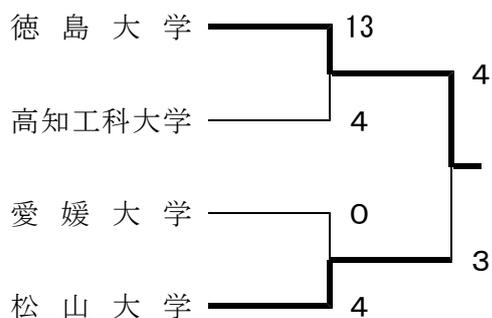
Bグループ	松山	高知工科	四国	四国学院	勝	負	分	順位
松山	-	○ 6-0	○ 6-5	● 2-4	2	1	0	3位
高知工科	● 0-6	-	● 1-17	● 0-12	0	3	0	4位
四国	● 5-6	○ 17-1	-	○ 3-2	2	1	0	2位
四国学院	○ 4-2	○ 12-0	● 2-3	-	2	1	0	1位

両グループとも勝敗同率の場合の順位は失点差による。

1～4位決定戦（5月3日）



5～8位決定戦（5月3日）



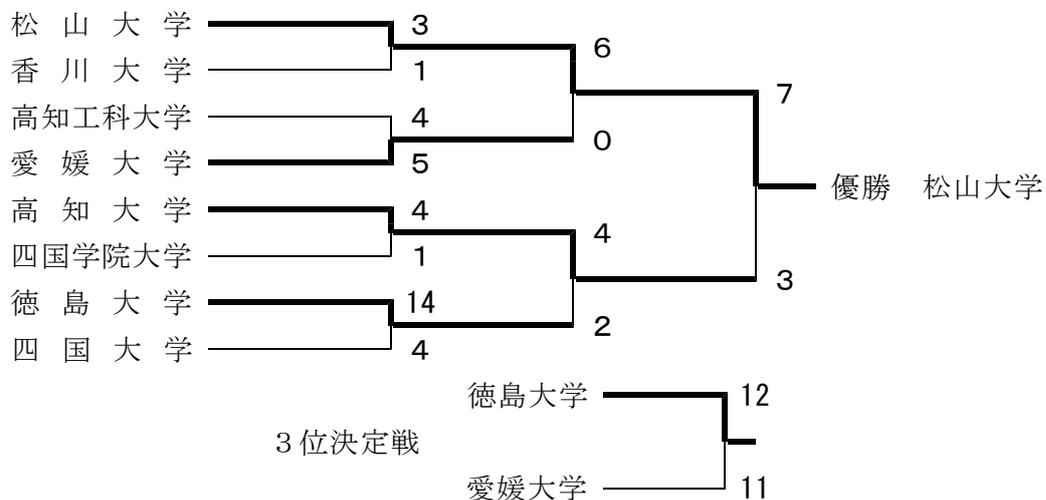
※3・4位、7・8位決定戦は雨天のため実施できず。

第39回全日本大学(男・女)ソフトボール選手権大会予選会
 一兼、第36回西日本大学ソフトボール選手権大会四国予選会一

会期：平成16年5月22日(土)、23日(日)

会場：香川県丸亀市土器川河川敷グラウンド

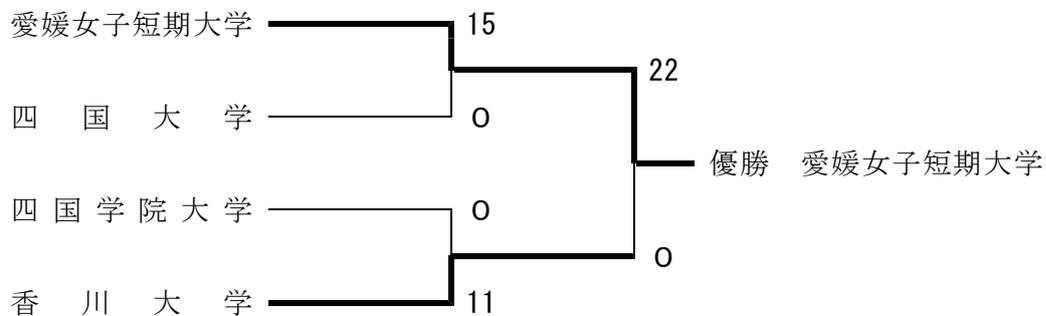
男子



※全日本大学選手権出場権獲得校：松山大学・高知大学

※西日本大学選手権出場権獲得校：松山大学・高知大学・徳島大学

女子



※全日本大学選手権出場権獲得校：愛媛女子短期大学

※西日本大学選手権出場権獲得校：愛媛女子短期大学・香川大学

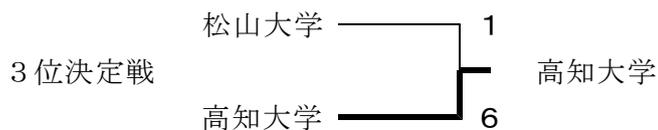
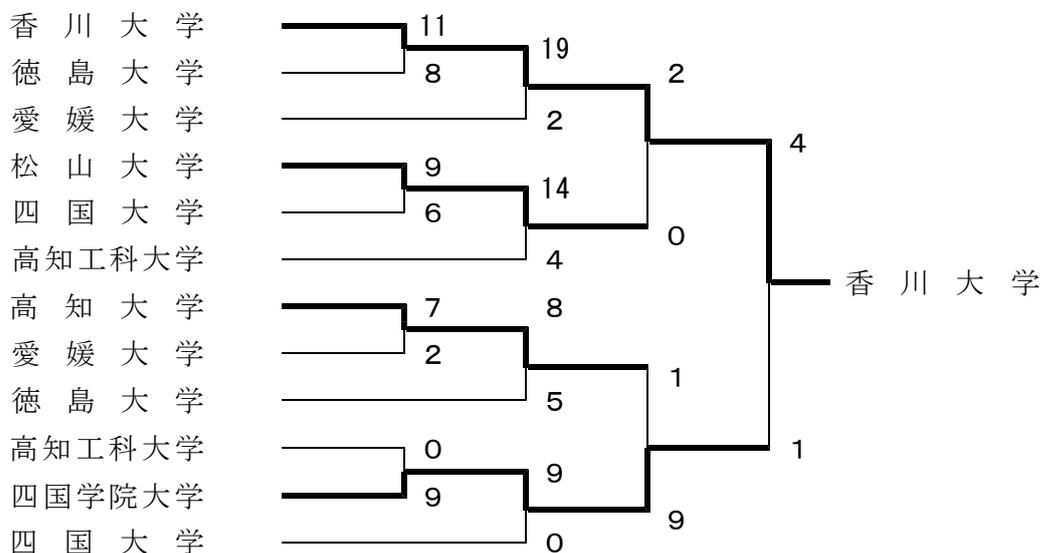


平成16年度四国地区大学男子ソフトボール秋季大会

会期：平成16年10月16日(土)・17日(日)

会場：香川県土器川河川敷グラウンド

<男子>



<女子>

チーム	愛 媛 短	香 川	四 国	勝	負	分	順位
愛媛女短		○10-0	○30-0	2	0	0	優勝
香 川	●0-10		○22-2	1	1	0	2位
四 国	●0-30	●2-22		0	2	0	3位



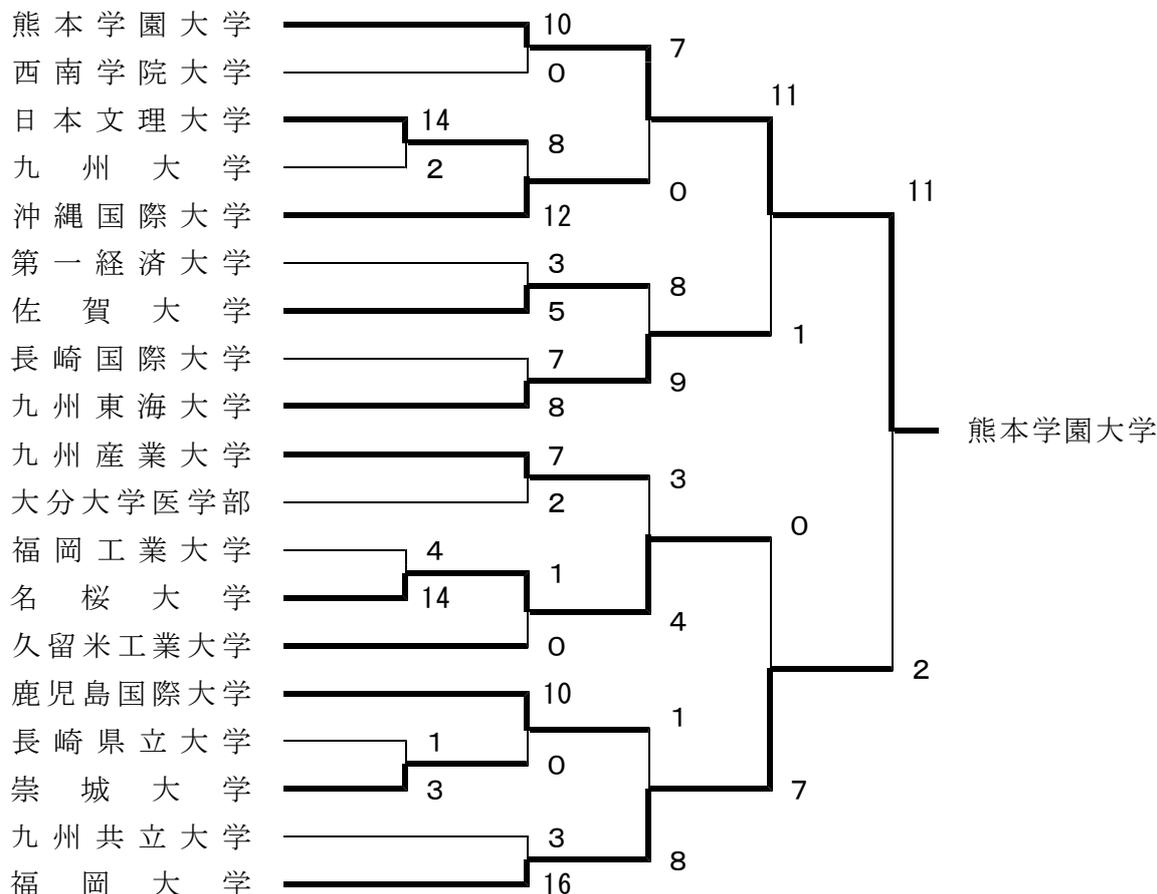
【九州地区】

第23回九州地区大学（男子・女子）ソフトボール大会 （兼、第39回全日本大学（男子・女子）ソフトボール選手権大会予選）

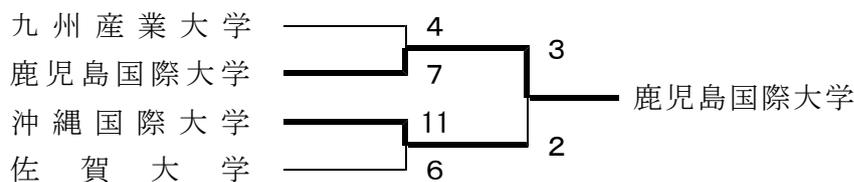
会期：平成16年5月29日（土）・30日（日）

会場：鹿児島県知覧町平和公園多目的球場他

男子試合結果



第5代表決定戦



※第39回全日本大学男子ソフトボール選手権大会出場権獲得大学

熊本学園大学、福岡大学、九州東海大学、名桜大学、鹿児島国際大学

女子試合結果

大学名	沖繩国際	福岡	九州女子	日本文理	勝	敗	分	順位
沖繩国際	● 0 - 2	○ 6 - 0	● 0 - 2	1	2	0	3位	
福岡	○ 2 - 0	○ 7 - 0	○ 5 - 2	3	0	0	1位	
九州女子	● 0 - 6	● 0 - 7	● 0 - 19	0	3	0	4位	
日本文理	○ 2 - 0	● 2 - 5	○ 19 - 0	2	1	0	2位	

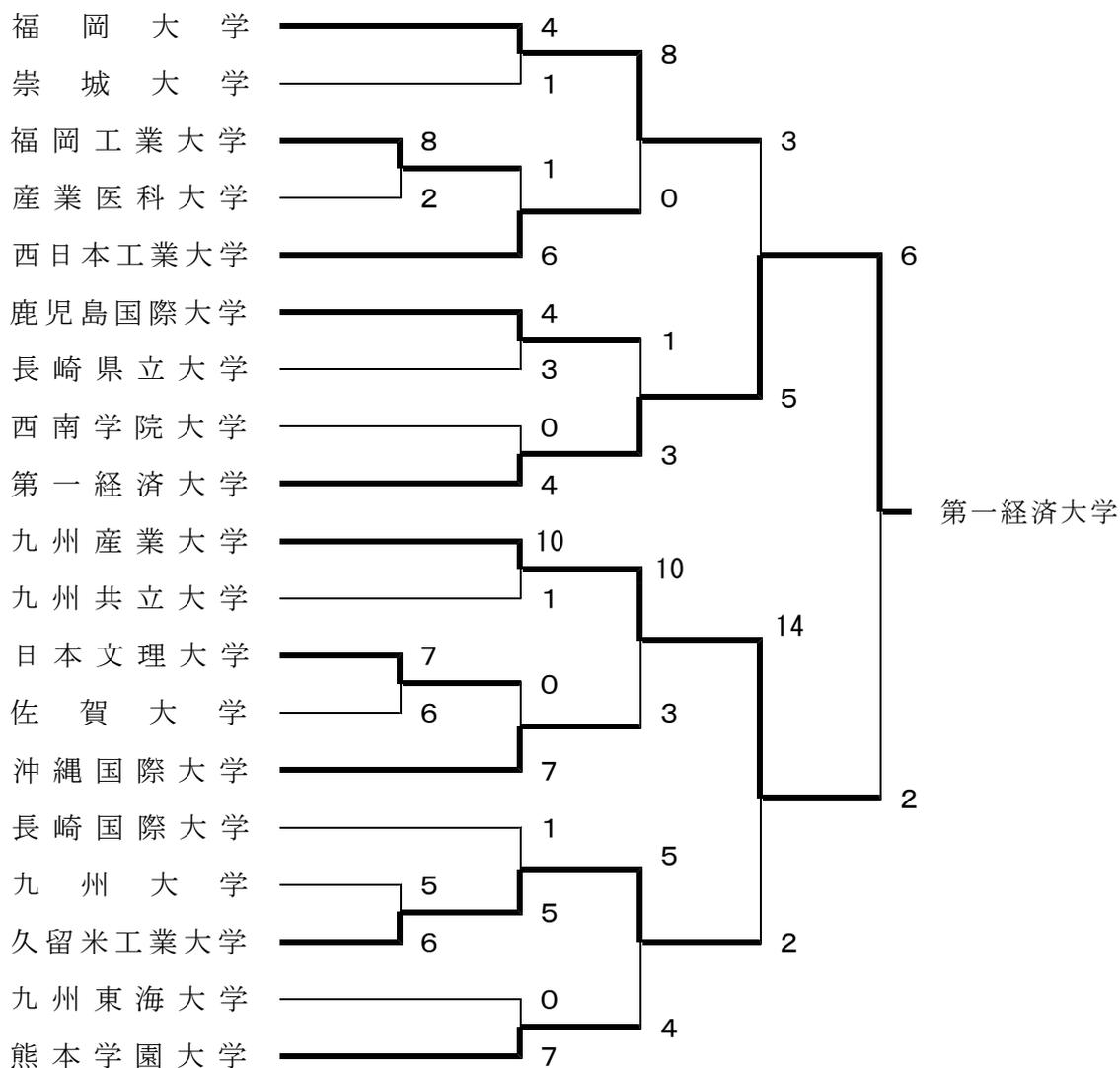
※5年連続10回目の優勝を果たした福岡大学が全日本大学選手権の出場権獲得

第4回九州地区大学（男子・女子）ソフトボール秋季大会

会期：平成16年11月13日（土）・14日（日）

会場：知覧町平和公園多目的球場ほか

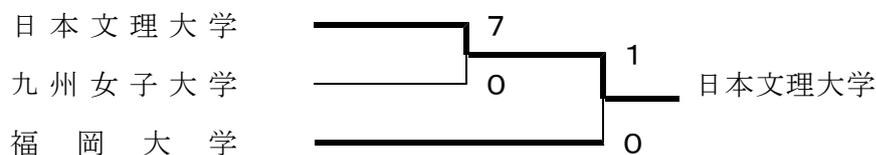
男子試合結果



女子予選リーグ

大学名	福岡	九州女子	日本文理	勝	敗	分	失	順位
福岡	-	○ 9 - 0	○ 7 - 2	2	0	0	2	1位
九州女子	● 0 - 9	-	● 1 - 11	0	2	0	20	3位
日本文理	● 2 - 7	○ 11 - 1	-	1	1	0	8	2位

女子決勝トーナメント



躍動する九州大会を目指して

中野 元・濱 貴一（熊本学園大学）

1. 九州大会と学生の技術向上・相互交流

九州大会が開かれるようになって、今年で早23年目を迎えた。ただ、秋の大会はまだ4年目と歴史は浅い。九州地区は、地理的によると、北九州から沖縄までかなりの距離範囲に広がっており、学生はどの大会でもそれなりの遠征費用の負担は免れない。そう考えれば、最近になってはじめて九州大会が年2回開催されるようになったのも、少しは理解してもらえるかもしれない。学生にとってみれば大会は貴重な催しであり、大切な学生生活の思い出になっているに違いない。とはいっても、春の大会はインカレの予選を兼ねているため、試合の雰囲気はピリピリしており、ちょっとトラブれば命を賭けたケンカが起きそうな状況である。学生の大会がこうした雰囲気で終始していいものだろうか？ 大会関係の教職員が集まると、いつも話題になっていた。そこで、上の大会に繋がらない秋の大会は、思い切って学生の技術向上と相互交流、教育の側面から見直してみよう、ということになった。

こうした提案をして学生から出てきた企画が、遠投とホームラン競争コンテストだった。詳細は、下記の通りだ。参加賞、1位から3位まで賞品を準備し、コンテストは盛り上がった。マイクを準備すれば、もっと盛り上がっただろう。来年は、勝ち抜きベースランニング団体競争など増やすことも考えている。常日頃、知覧町（開催地）や鹿児島県ソフトボール協会などから大学生のソフトボールは多大な理解をいただいております、この企画にも賞品など新たな協力を約束していただいております。学生諸君には、さらなる技術の向上とソフトボールを通じた交友関係の広がりを切に期待している。

2. 知覧町は九州地区大学ソフトボールの本拠地

知覧町は、かつて太平洋戦争末期の特攻隊基地があったことで有名だ。アメリカ軍が沖縄上陸作戦を執行したときに、沖縄を守り応援するために陸軍の特攻機隊は、知覧基地から飛び立っていった。ちょうど大学生の年齢に当たる多くの若者たちだった。高倉健主演の映画「ほたる」を観ると、当時の様子がしのばれる。彼らは、遺書を残して多くが亡くなっていった。知覧の「平和を祈る館」には、彼らの遺品が数多く展示されてある。九州地区大学連盟の教職員は、学生たちが将来立派な社会人になる上で、是非これらの歴史に触れ、何かを得て人生にいかしてほしいと常々話し合ってきた。そこで、今回は各チームで祈念館を見学し、感想を色紙に寄せ書きし、知覧町に預かってもらった。機会があるときや何かに悩んだときには、再度訪れてほしいし、またそのときに全力で闘った青春時代を思い出してほしい。

知覧町は若者にとってとても大切な地域であり、われわれも含めて「生きる」原点に立ち返れる場所だ。私たちは、この知覧を九州地区大学ソフトボールの本拠地だと考えている。これまで、連盟「旗」をつくってもらったり、女子の試合にはボールボーイを少年スポーツ団から世話してもらったりと、お世話の掛けっぱなしである。その上、最近ソフトボール専用球場をつくって学生たちに夢を与えてもらえないか、という全くぶしつけな

話までさせていただいている。知覧町や地元協会の方々には、笑いながら、話だけでも盛り上げてもらっている。感謝、感謝である。

3. さらに躍動する大会へ

知覧町への感謝の気持ちとして、昨年（平成15年）5月に学生によるソフトボール教室を開いた。競技場いっぱいにとくさんの子どもたちが集まり、熱心に学生の指導を受けていた。地元の親御さんやソフトボール関係者の笑顔が今でも忘れられない。また、時間を忘れて一生懸命教える学生たちの姿も、なかなか捨てたものではないと感心した。学生たちと相談しながら、これからもこうした社会貢献はやっていきたい。

周りの人たちに助けられながら、またその人たちといっしょになって、少しずつではあるが、九州大会をさらに躍動させていきたい。これは、私たちみんなの正直な思いである。

4. 遠投競争、ホームラン競争コンテスト

今回、秋季大会において学生の企画提案のもと、遠投・ホームラン競争コンテストを実施した。大会前日メイン球場である知覧町平和公園多目的球場に、数多くの大学の選手・マネージャーが集い、今までにない、春季大会では見られない和やかな雰囲気となり、コンテストは盛り上がりを見せた。コンテストでは「ウォー！」っとうなり声をあげ遠投する選手、測定結果を聞きどよめくギャラリー、完璧に全打席ホームランを放つ選手、あえて速球を投げホームラン競争に挑むチーム、測定結果を聞きどよめくギャラリー、サドンデス対決で盛り上がる会場の一体感、1位の賞品でスポーツバックに「九州一の飛ばし屋」の刺繍に大爆笑するフィナーレ、こんな様子がいまでも思い出される。コンテストは、各大学から1名のスタッフと熊本学園大学ソフトボール部員の協力で、滞りなく行われた。

（コンテスト結果については、下記のとおりだ。）主催者としていくつかの反省点・改良点は感じたが、学生の大切な思い出を演出するとともに、大学間のますますの交流、そして活気を生んだイベントができたと思う。さらに学生たちと一緒に、九州地区の大学ソフトボールを盛り上げいきたい。

コンテスト結果 [参加大学 男子12校 女子3校]

遠投競技（1大学1選手…2投）

ホームラン競技（1大学1選手…5打席）

順位	男子（大学名）	記録	順位	男子（大学名）	記録
1位	九州東海大学	8 6 m 1 0	1位	鹿児島国際大学	5本
2位	福岡大学	8 5 m 8 0	2位	長崎県立大学	3本
3位	熊本学園大学	8 5 m 5 0	3位	第一経済大学	3本
4位	第一経済大学	8 3 m 6 0	4位	日本文理大学	2本
5位	長崎県立大学	8 3 m 0 0	4位	崇城大学	2本
6位	九州共立大学	8 1 m 0 0	6位	九州共立大学	1本
7位	九州産業大学	7 6 m 5 0	7位	その他（6校）	0本
順位	女子（大学名）	記録	順位	女子（大学名）	記録
1位	日本文理大学	5 8 m 0 0	1位	日本文理大学	2本
2位	九州女子大学	5 4 m 7 0	2位	福岡大学	0本
3位	福岡大学	5 4 m 5 0	3位	九州女子大学	0本

【調査研究委員会】

原稿並びに研究企画などの募集

来年度以降も内容をいっそう充実、発展させていくために、どしどし原稿をお願いします。論説、提言から研究報告、あるいは情報の提供に至るまで、多様なものを期待しています。とともに、こんな研究内容や企画をしてほしい！というようなものがあれば、併せて連絡を下さいますようお願いいたします。特に学生の皆さんから。なお、毎年11月末日が原稿の〆切となりますが、随時受付しておりますので、下記までご連絡をください。(研究調査委員会 小川幸三・森田啓之)

森 田 啓 之

〒673-1494 兵庫県加東郡社町下久米942-1 兵庫教育大学

TEL&FAX : (0795)44-2227

E-mail:hmorita@life.hyogo-u.ac.jp

投 稿 規 程

平成11年7月30日交付

1. 投稿資格

原稿を投稿できる者は、全日本大学ソフトボール連盟に登録された者(理事、監督、コーチ、選手等)に限る。調査・研究委員会が特に必要と認めた者については、この限りではない。

2. 投稿内容

内容はソフトボールに関したものとし、巻頭言、提言、総説、論文(含.抄録)、実践研究、事例報告、卒・修論、その他などとする。原稿は、原則として一編につき本誌4ページ以内(巻頭言、提言の場合は1ページ以内)とするが、調査・研究委員会が必要と認めた場合はこの限りではない。なお、未刊行のものが望ましいが、既刊のものであってもよい。

3. 投稿原稿の審査

原則として投稿されたものは全て受理・採択する。なお、書式等に問題がある場合は、調査・研究委員会名で修正を求める場合がある。

4. 原稿の提出

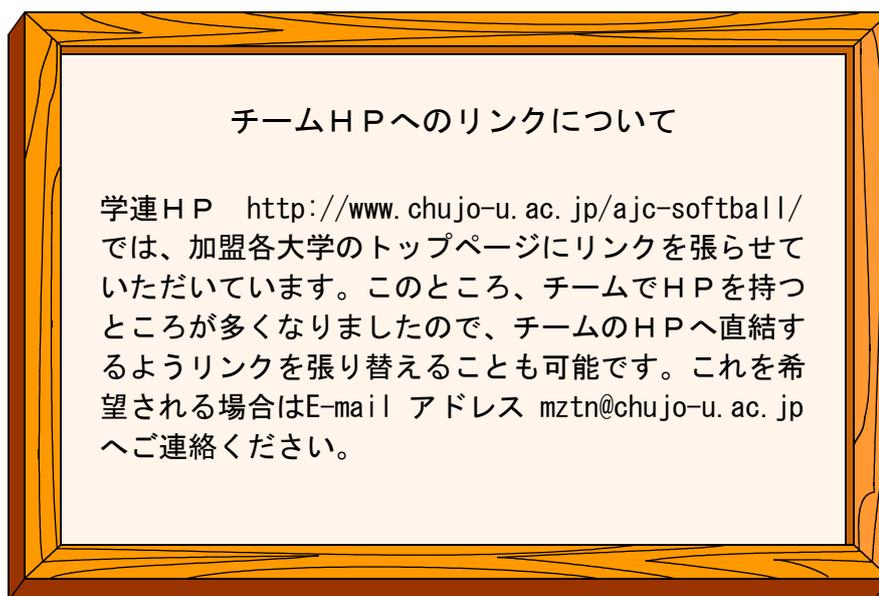
原稿は所定の執筆要項に準拠して作成し、総説、論文などの別を指定して、調査・研究委員会へ書留郵便で送付する。投稿の締め切りは特に設けないが、毎年11月20日で区切るものとする。

執筆要項

原稿の執筆にあたっては、以下の事項を厳守されたい。

投稿原稿をそのままオフセット印刷するので、ワードプロセッサで原稿を作成する場合は、A4版縦置き横書き、全角40字×40行（上下余白25mm・左右余白25mm）、文字サイズは11ポイント、和文フォントは明朝体を基本とする。できれば使用機種・ソフト名を記して、CD-RWとともに提出することが望ましい。

【広報記録委員会】



トヨタ・デンソー・豊田織機・東海理化杯

第4回大学ソフトボール東海オープン出場チーム募集

出場の申込は、次の大会要項をご覧のうえ、お願いいたします。

なお、参加申込は学連HP <http://www.chujo-u.ac.jp/ajc-softball/> 上のみから承っております。「出場チーム募集」のページを必ずご覧ください。また、出場までの手順等は次のようになっていますので、ご注意ください。

1. 1月末日までにE-mailで mztn@chujo-u.ac.jp へ参加申込を行う。mailの件名は、「第4回東海オープン参加申込」であること。
2. 出場が認められた後、2月初旬に送信される参加申込書（Excelファイル）に必要事項を入力し、2月28日（月）までに返信する。
3. 参加申込の受理と申込書がE-mailで送信されない場合は問い合わせること。
（ウイルス感染の疑いがあるmailは開きません。1週間以内に返信がない場合は、別のパソコンから送信すること。）
4. 参加が認められたチームは、2月末日までに参加料を振り込む。
5. 参加が認められなかったチームにも2月21日（月）頃までにはE-mailで連絡します。
6. 3月中旬に、組み合わせ抽選の結果など必要事項を郵便で連絡します。

トヨタ・デンソー・豊田織機・東海理化杯
第4回大学ソフトボール東海オープン大会要項

1. 主催 東海地区大学ソフトボール連盟
2. 主管 愛知県ソフトボール協会・同西三河支部・安城市ソフトボール協会
3. 後援 全日本大学ソフトボール連盟
安城市・安城市教育委員会・安城市体育協会・中日新聞社
4. 協賛 トヨタ自動車㈱・㈱デンソー・㈱豊田自動織機・㈱東海理化
5. 大会期間 平成17年3月22日（火）・23日（水）、予備日3月24日（木）
6. 大会会場 安城市総合運動公園（6球場）
7. チーム数 男子9、女子9、計18チーム
8. 参加資格 全日本大学ソフトボール連盟および(財)日本ソフトボール協会に登録されているチーム、もしくはそのチームの登録選手による合同チームであること。
また、予備日を含めて全日程に参加できること。
なお、出場申し込み多数の場合は、各地区における秋季大会の成績と地域性などを参考に主催者が選抜する。
9. 出場資格 主催者によって出場を認められたチームの、あらかじめ選手登録された30名以内の選手に限る。
ベンチに入ることのできるのは、選手25名、部長1名、監督1名、コーチ2名、トレーナー1名、記録員の資格を有するスコアラー1名の計31名以内とする。なお、新1年生の出場については出身高校と当該大学部長の承認がある場合は認める。
10. 参加料 1チーム30,000円
11. 申込方法 E-mailアドレスmztn@chujo-u.ac.jpへ1月末日までに申込書を請求し、返信すること。
また、出場が認められた後、参加料を次の振込口座へ2月末日までに振り込むこと。
【振込口座】
銀行：UFJ銀行大府支店 普通口座番号1529547
名義：東海地区大学ソフトボール連盟理事長水谷博
(インターネットの場合は、トウカイチクダイガクソフトボールレンメイ)
12. 競技方法 男女各9チームを3チームずつに分けて予選リーグ戦を第1日目に実施し、第2日目に1位グループ・2位グループ・3位グループによる順位決定リーグ戦を行う。
13. 競技規則
 - ・2005年オフィシャルソフトボールルール及び競技運営規則による。
 - ・全試合を通じ得点差によるコールドゲームは3回20点、4回15点、5回以降10点とする。
 - ・2時間を越えて新しいイニングに入らない。
 - ・ベンチは対戦表の左側が一塁側、攻守決定はトスとする。
 - ・その他の特別な事項は監督主将会議で決定する。

平成14・15・16年度
全日本大学ソフトボール連盟役員名簿

職名	氏名	(上) 自宅住所 (下) 勤務先	TEL	FAX
会長	大内 敬哉	〔自〕 〔勤〕 中京大学		
副会長	一谷 宣宏	〔自〕 〔勤〕 学校法人園田学園理事長・園田学園女子大学学長		
副会長	斎藤 滋雄	〔自〕 〔勤〕 学習院大学		
顧問	坂井 正郎	〔自〕 〔勤〕 国士舘大学名誉教授・評議員		
顧問	角田真一郎	〔自〕 〔勤〕		
顧問	水野 信義	〔自〕 〔勤〕		
理事長	末井 健作	〔自〕 〔勤〕 姫路工業大学		
副理事長	中野 紀明	〔自〕 〔勤〕 国士舘大学		
副理事長	逢坂 秀樹	〔自〕 〔勤〕 鳥取短期大学		
事務局長	森田 啓之	〔自〕 〔勤〕 兵庫教育大学		
常任理事	大和田 寛	〔自〕 〔勤〕 仙台大学		
常任理事	高橋 伸次	〔自〕 〔勤〕 高崎経済大学		
常任理事	黒田 重靖	〔自〕 〔勤〕 富山大学		
常任理事	藤井 立三	〔自〕 〔勤〕 明星大学		
常任理事	水谷 博	〔自〕 〔勤〕 中京女子大学		
常任理事	久保田豊司	〔自〕 〔勤〕 大阪国際大学		
常任理事	山本 孔一	〔自〕 〔勤〕 愛媛女子短期大学		
常任理事	中野 元	〔自〕 〔勤〕 熊本学園大学		
理事	小嶋 高良	〔自〕 〔勤〕 八戸工業大学		

職名	氏名	(上) 自宅住所 (下) 勤務先	TEL	FAX
理事	飯島 隆	〔自〕 〔勤〕 盛岡大学		
理事	松永 尚久	〔自〕 〔勤〕 東海大学		
理事	武藤 幸政	〔自〕 〔勤〕 城西大学		
理事	岡田 万嗣	〔自〕 〔勤〕 山梨学院大学		
理事	野口 周一	〔自〕 〔勤〕 新島学園女子短期大学		
理事	青木 真	〔自〕 〔勤〕 上越教育大学		
理事	吉野みね子	〔自〕 〔勤〕 東京女子体育大学		
理事	小川 幸三	〔自〕 〔勤〕 日本体育大学		
理事	矢澤 久史	〔自〕 〔勤〕 東海女子大学		
理事	山本 英弘	〔自〕 〔勤〕 朝日大学		
理事	丸山 悟	〔自〕 〔勤〕 日本福祉大学		
理事	鈴木 亨	〔自〕 〔勤〕 桜花学園大学		
理事	板谷 昭彦	〔自〕 〔勤〕 園田学園女子大学		
理事	中村 哲士	〔自〕 〔勤〕 武庫川女子大学		
理事	板野 道広	〔自〕 〔勤〕 中国短期大学		
理事	中里 眞	〔自〕 〔勤〕 九州産業大学		
理事	吉末 和也	〔自〕 〔勤〕 園田学園女子大学		
理事	富田 国興	〔自〕 〔勤〕 呉金属熱錬工業株式会社 (広島修道大学)		
評議員	大塚 健樹	〔自〕 〔勤〕 盛岡大学		
評議員	立山 利治	〔自〕 〔勤〕 国際武道大学		

職名	氏名	(上) 自宅住所 (下) 勤務先	TEL	FAX
評議員	丸山 克俊	〔自〕 〔勤〕 東京理科大学		
評議員	友坂 敏信	〔自〕 〔勤〕 富山大学		
評議員	加藤 茂夫	〔自〕 〔勤〕 専修大学		
評議員	木藤 盛雄	〔自〕 〔勤〕 成蹊大学		
評議員	星 めぐみ	〔自〕 〔勤〕 明星大学		
評議員	合津正之助	〔自〕 〔勤〕 常葉学園大学		
評議員	佐多 直温	〔自〕 〔勤〕 愛知大学		
評議員	笠原 幸司	〔自〕 〔勤〕 中京学院大学		
評議員	廣田 真史	〔自〕 〔勤〕 名古屋大学		
評議員	川辺 邦彦	〔自〕 〔勤〕 静岡大学		
評議員	児玉 公正	〔自〕 〔勤〕 大谷女子大学		
評議員	但尾 哲哉	〔自〕 〔勤〕 神戸親和女子大学		
評議員	中谷 敏昭	〔自〕 〔勤〕 天理大学		
評議員	長澤 幸一	〔自〕 〔勤〕 東亜大学		
評議員	楠川 量啓	〔自〕 〔勤〕 高知工科大学		
評議員	荒牧昭二郎	〔自〕 〔勤〕 九州東海大学		
評議員	新垣 實	〔自〕 〔勤〕 沖縄国際大学		
評議員	吉村 清	〔自〕 〔勤〕 琉球大学		
評議員	上江州 剛	〔自〕 〔勤〕 名桜大学		
監事	平野 義明	〔自〕 〔勤〕 大阪工業大学		

職名	氏名	(上) 自宅住所 (下) 勤務先	TEL	FAX
監事	笠原 敏裕	[自] ----- [勤] 学習院大学		
事務局	〒670-0092 姫路市新在家本町1-1-12 兵庫県立大学環境人間学部 E-mail :			

平成16年度全日本大学ソフトボール連盟学生委員名簿

委員長	新井 康太 (日本大学)		副委員長	上子菌 実希 (東海学園大学)・稲富 稔 (関西大学)	
地区	氏名	連絡先		TEL	所属大学
関東	清水 祐一				高崎経済大学
関東	河田 恵美				新島学園短大
北信越	鈴木 泉				富山大学
東京	新井 康太				日本大学
東京	石橋 健				東京大学
東京	渡邊真智子				東京学芸大学
東京	寺本 恵				学習院大学
東京	伊藤 円				中央大学
東海	上子菌実希				東海学園大学
東海	佐藤 彬子				中京大学
東海	石田 和司				日本福祉大学
東海	花井望佐子				日本福祉大学
東海	丸山 奈美				中京学院大学
近畿	稲富 稔				大阪大学
近畿	奥村 亮平				大阪大学
近畿	岩村 明奈				園田学園女大
近畿	谷口 美紀				武庫川女子大
中国	三宅 由華				鳥取短期大学
四国	米村 美穂				愛媛女子短大
四国	松下ますみ				愛媛女子短大



平成16年度 男子加盟大学一覧		
全日本大学ソフトボール連盟		
地 区	数	加 盟 大 学 名
北海道・東北	9	仙台大学 東北大学 日本大学工学部 八戸工業大学 弘前大学 福島大学 宮城教育大学 盛岡大学 酪農学園大学
関 東	19	茨城大学 関東学園大学 国際武道大学 埼玉大学 芝浦工業大学 城西大学 城西国際大学 高崎経済大学 千葉大学 筑波大学 中央学院大学 都留文科大学 獨協大学 東海大学 東京国際大学 東京理科大学 日本大学生物資源科学部 文教大学 保健福祉大学 山梨学院大学
北 信 越	7	金沢大学 信州大学 敦賀短期大学 富山大学 長野大学 福井大学 福井県立大学
東 京	24	桜美林大学 学習院大学 杏林大学 慶應義塾大学 国際基督教大学 国士舘大学 専修大学 成蹊大学 中央大学 帝京大学 東京大学 東京学芸大学 東京経済大学 東京農業大学 東洋大学 日本大学 日本歯科大学 日本体育大学 一橋大学 文教大学湘南 武蔵工業大学 明治大学 明星大学 早稲田大学
東 海	15	愛知大学 愛知学院大学 愛知教育大学 愛知みずほ大学 朝日大学 岐阜聖徳学園大学 静岡大学 中京大学 中京学院大学 東海学園大学 常葉学園大学 名古屋大学 南山大学 日本福祉大学 名城大学
近 畿	27	大阪大学 大阪経済大学 大阪経済法科大学 大阪工業大学 大阪産業大学 大阪市立大学 大阪体育大学 大阪府立大学 関西大学 関西学院大学 京都大学 京都学園大学 京都産業大学 神戸大学 神戸学院大学 甲南大学 四天王寺国際仏教大学 同志社大学 奈良教育大学 姫路獨協大学 兵庫教育大学 兵庫県立大学 佛教大学 立命館大学 龍谷大学 流通科学大学 和歌山大学
中 国	12	岡山大学 岡山商科大学 岡山理科大学 川崎医科大学 近畿大学工学部 鳥取大学 広島大学 広島経済大学 広島工業大学 広島修道大学 広島国際大学 山口大学工学部
四 国	8	愛媛大学 香川大学 高知大学 高知工科大学 四国大学 四国学院大学 徳島大学 松山大学
九 州	21	沖縄国際大学 大分大学医学部 鹿児島国際大学 九州大学 九州共立大学 九州産業大学 九州東海大学 熊本学園大学 久留米工業大学 佐賀大学 産業医科大学 西南学院大学 崇城大学 第一経済大学 長崎県立大学 長崎国際大学 西日本工業大学 日本文理大学 福岡大学 福岡工業大学 名桜大学

平成16年度 女子加盟大学一覧		
全日本大学ソフトボール連盟		
地 区	数	加 盟 大 学 名
北海道・東北	7	仙台大学 東北福祉大学 弘前大学 富士大学 北海道浅井学園大学 宮城教育大学 盛岡大学
関 東	14	国際武道大学 埼玉大学 相模女子大学 淑徳大学 順天堂大学 城西大学 城西国際大学 清和大学 千葉大学 筑波大学 東海大学 日本大学生物資源科学部 新島学園短期大学 文教大学
北 信 越	4	金沢大学 上越教育大学 信州大学 富山大学
東 京	18	桜美林大学 学習院大学 杏林大学 慶應義塾大学 国士舘大学 国際基督教大学 専修大学 成蹊大学 創価大学 中央大学 東京学芸大学 東京女子体育大学 日本大学 日本女子体育大学 日本体育大学 明星大学 明治大学 早稲田大学
東 海	13	愛知教育大学 桜花学園大学 岐阜聖徳学園大学 静岡大学 中京大学 中京学院大学 中京女子大学 東海学園大学 東海女子大学 常葉学園大学 名古屋大学 日本福祉大学 名城大学
近 畿	17	大阪国際大学 大阪体育大学 大阪府立大学 大谷女子大学 関西外国語大学 京都女子大学 神戸親和女子大学 四天王寺国際仏教大学 園田学園女子大学 天理大学 兵庫教育大学 佛教大学 奈良教育大学 びわこ成蹊スポーツ大学 武庫川女子大学 立命館大学 龍谷大学
中 国	6	岡山大学 川崎医療福祉大学 中国短期大学 鳥取大学 鳥取短期大学 広島大学
四 国	4	愛媛女子短期大学 香川大学 四国大学 四国学院大学
九 州	5	沖縄国際大学 九州女子大学 福岡大学 名桜大学 日本文理大学
男 子	143	大学
女 子	88	大学
合 計	231	大学
平成16年 6月20日現在		

編 集 後 記

今年、オリンピックイヤーでした。3月末に各地で開催されるようになったオープン大会に始まり、春季の大会やリーグ戦・韓国でのアジア女子ジュニアへの参加・東日本・西日本、そしてアテネオリンピックの後には富士宮市でのインカレ・秋季の大会やリーグ戦、さらにはアメリカでの第1回世界女子大学選手権大会への参戦と目まぐるしく時計は回っていきました。この他に、総合選手権や国体に出場した選手・役員もいるでしょう。今頃は、スポーツ指導員や準指導員の講習会に講師としてまたは受講生として参加されている方もいるでしょう。

まもなく、また新しい年がやってきます。この1年間に起こった出来事をすべて記録に残しておくことは到底不可能です。しかし、その一端でも書き留めて後世に伝えることができれば、と、思っ、て情報をお送りいただき、キーをたたいてきました。学連の活動ばかりでなく、ソフトボール界がこれによって少しでも活性化され、ご無理な対談をお願いした宇津木監督の熱い思いに通じれば幸いです。

そして、来年は学連創設40周年あたりです。「災」の年から「福」の年へ、学連活動40年の思いが結実する年になることを願ひ、**ウインドミル**も特集号を発行することをお約束し、編集後記といたします。

広報記録委員会：水谷 博（中京女子大学）・山本英弘（朝日大学）・矢澤久史（東海女子大学）

表紙写真：第1回世界女子大学ソフトボール選手権大会

全日本大学ソフトボール連盟機関誌 **ウインドミル** 第8号

2004年12月25日発行

発 行 者 全日本大学ソフトボール連盟 会長 大内 敬哉

編集責任者 広報記録委員長 水谷 博

E-mail: mztn@chujo-u.ac.jp

発 行 所 全日本大学ソフトボール連盟

〒670-0092 兵庫県姫路市新在家本町1-1-12

兵庫県立大学環境人間学部気付

FAX (0792) 93-5710

E-mail: suei@hept.himeji-tech.ac.jp

印 刷 西濃印刷(株)

〒500-8074 岐阜市七軒町15番地

TEL (058) 263-4101

ISSN 1343-439X

熱いゲームが、
KENKOから
はじまる。



ケンコーソフトボール
(革製/3号球)
財団法人日本ソフトボール協会検定球



健康コミュニティを創造する
ナガセケンコー株式会社
NAGASE KENKO CORPORATION



ウインドミル No. 8 (2004)

ISSN 1343-439X